

## 香淳皇后実録 卷八

昭和三十九年（西暦一九六四年） 六十一歳

### 一月

一日 水曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

二日 木曜日 午前、天皇と共に表三の間において、元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この年の新年一般参賀は、新宮殿造営中のため、参賀者への御会釈はなく、仮宮殿前において記帳の

昭和二十九年一月

みをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

三日 金曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、宮内庁序報

新年につき、天皇と共に奥一の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日雍仁親王祥月命日に当たり豊島岡墓地へ女官御差遣につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度レバノン国より帰国の特命全権大使磯野勇三及び同夫人、デンマーク国へ赴任の特命全権大使高木広一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁序報

新年につき、午後、天皇と共に吹上御所において、元女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

拝謁の間において、御学友・御同級生の祝賀を、ついで鷹司綏子鷹司和子の夫平通の母の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録

八日 水曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。法政大学教授岩生成一より「近世日本の海外貿易」、日本学士院会員小野清一郎より「刑法における責任の原理」、同和達清夫より「近代の気象学」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報、愛知学院大学図書館情報センター所蔵資料

午後、天皇と共に吹上御所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。正仁親王が同席する。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 木曜日 元侍医頭八田善之進去る七日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糒料及び菓子、皇后より切り花を賜う。なお、これより先、天皇・皇后よりお見舞いとして果物を賜う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「紙」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

みそのふのかうぞの木もてすかせたる紙にいくとせゑがききにけり

儀終了後、拝謁の間において召人・選者・諸役の賜謁が、ついで内廷庁舎御車寄前において預選者の賜謁があり、天皇と共にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報

十一日 土曜日 午前、吹上御所において、宮内庁御用掛武者小路不二子よりフランス語の指導をお

受けになる。以後、しばしば同人より進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、デンマーク国外務大臣、ペア・ヘカラップ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、外交記録、真崎秀樹英文日記

十五日 水曜日 成人の日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年成年に達した朝香誠彦<sup>孚彦王第一王子</sup>・竹田紀子<sup>恒徳王第二王子</sup>の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より兩名に白羽二重をそれぞれ賜い、こ

れとは別に、誠彦にお品及び万那料等を、紀子に洋服地及び万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十六日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度、パラグアイ国へ赴任の特命全権大使石井喬及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁序報、官報

十七日 金曜日 午前、謁見の間において、新任のニカラグア国特命全権大使ノエル・ナヴァス・バレート及び同夫人、英国特命全権大使フランシス・ブライアン・アンソニー・ランドル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に謁見の間において、米国司法長官ロバート・ケネディ及び同夫人を御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、ライシャワー大使日誌

二十日 月曜日 国賓として来日されるベルギー国王ボードワン一世及び同王妃ファビオラをお出迎えのため、午後一時二十七分天皇と共に御出門、東京国際空港に行啓される。国王・王妃御到着後、王妃と御同乗にて皇居にお戻りになり、三時、天皇と共に謁見の間において、国王・王妃と御会見に

なる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはレオポルド勲章大綬章が贈られる。

夜、天皇と共に、北の間においてベルギー国王・同王妃のため宮中晚餐を催され、続いて西の間において宮中夜会を催される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より国王に綴錦屏風<sup>御所車</sup>を、王妃

に蒔絵硯箱<sup>秋草に鹿、尾形光琳の図</sup>・裂地<sup>白地枝垂柳に鷺模様、紅葉山御養蚕所製品</sup>を、皇后より王妃に津軽塗座卓を御贈進になる。また、国

王・王妃より皇后に色絵花卉文食器セット<sup>トウルネー窯</sup>の御贈進がある。入京及び離日の際には、皇后より王

妃に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮殿行事

録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、外国からのごあいさつ、読売新聞

二十二日 水曜日 ベルギー国王ボードワン一世・同王妃ファビオラ御主催の晩餐会に御出席のため、午後六時五十九分天皇と共に御出門、ベルギー国大使公邸に行啓される。九時十一分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十三日 木曜日 午前十時二十一分御出門、日本赤十字社産院に行啓される。御到着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、ついで御到着のベルギー国王妃ファビオラと御対面になる。御贈呈室に移られ、王妃に金色有功章並びに名誉社員章を贈呈する旨のお言葉を述べられ、王妃の左胸部に金色有功章、ついで名誉社員章をお付けになる。次にベルギー国王にも前記両章を贈呈する旨のお言葉を述べられ、王妃にお渡しになる。十時五十分、王妃・故雍仁親王妃と共に御休所を御出発、院長久慈直太郎の説明にて乳児院サンルームを御視察になる。十一時、王妃を玄関までお見送りになる。同二十四分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宣召録、宮内庁庁報、官報

午後、吹上御所において、服部豊子ヴァイオリニストよりヴァイオリンの指導をお受けになる。以後、同人よりしばしば指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 金曜日 ベルギー国王ボードワン一世・同王妃ファビオラ御退京のお見送りのため、午前八時二十三分天皇と共に御出門、原宿駅に行啓される。九時六分還啓される。国王・王妃は京都に向かわれ、各地を御視察の後、三十日に福岡より離日される。三十日に、国王・王妃より来日中に受けた款待についての札電が寄せられる。これに対し二月三日、天皇・皇后より答電を発せられる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

二十六日 日曜日 御成婚四十年を迎え、午後、天皇と共に吹上御所において、元掌典長甘露寺受長始め元側近奉仕者より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 月曜日 邦彦王御父の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度パラグアイ国より帰国の特命全権大使山津善衛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報  
吹上御所において、安倍季巖より琴の指導をお受けになる。以後、同人よりしばしば指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十九日 水曜日 天皇と共に西の間において、この度離任のポーランド国特命全権大使タデウシユ・ゼプロフスキー及び同夫人、インドネシア国特命全権大使バンバン・スゲン及び同夫人、新任のニカラグア国特命全権大使ノエル・ナヴァス・バレート及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、真

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

三十一日 金曜日 午前、拝謁の間において、この度マレーシア国より帰国の特命全権大使大隈涉及

び同夫人、ニュージールランド国へ赴任の特命全権大使近藤晋一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁序報

## 二月

三日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

四日 火曜日 午前、松岡鎮枝元久運宮宮務監  
督国分三亥の妹の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の

拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十三日 木曜日 午前十時十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

十四日 金曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、スウェーデン国外務大臣トシュテン・ニルソ

ン及び同夫人を御引見になる。この度の来日に際し、同夫人より皇后に手編みカーペットの献上があ

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、外交記録

十六日 日曜日 夕刻、天皇と共に表一の間において、皇太子始め皇族・元皇族・御縁故者と共に、

昨年三月十日の皇后還曆奉祝内宴の記録映画等を御覧になる。その後、西の間において、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族雜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、教育委員会制度十五周年に当たり全国都道府県教育委員会全委員大会に参会した全国都道府県教育委員の賜謁があり、天皇と共に賢所通用門前にお出ましになる。東京都教育委員会委員長木下一雄の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

内廷庁舎において、ハワード・ビー・ヘインズ夫人より英語の進講をお受けになる。以後、同人よりしばしば進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、御成婚四十年に当たり側近奉仕者が主催する奉祝の会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、稲田周一関係資料、入江相政日記

十九日 水曜日 ヒマラヤの昆虫展を御覧になるため、午前九時四十一分天皇と共に御出門、日本橋白木屋に行啓される。十一時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王、及び皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、正仁親王と御夕餐を御会食になる。同親王は、昨二十二日津軽家が親

王と津軽華子の結婚を内諾したことについてのお礼言上のため参殿した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十四日 月曜日 病氣療養中の宣仁親王のお見舞いのため、午後二時皇居を御出門、高松宮邸に行啓される。四時十五分還啓される。その後、吹上御所において、宣仁親王妃喜久子よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 池田厚子のお見舞いのため、午前七時五十一分御出門、岡山県に行啓される。東京駅より特急「第一富士」に御乗車になり、午後五時二十分岡山駅に御到着になる。御泊所の後楽に御到着後、岡山県知事三木行治の拝謁をお受けになる。ついで池田隆政の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、岡山県行啓録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前九時五十九分、御泊所後楽を御出発になり、岡山大学医学部附属病院に行啓される。御到着後、御休所において岡山大学学長事務代理沢井郁太郎・同医学部長高原滋夫の拝謁をお受けになる。ついで池田隆政、院長赤木五郎・医学部教授平木潔・助教授大藤真の拝謁をお受けになる。終わって病室に入られ、池田厚子をお見舞いになる。御一緒に御昼餐をお召し上がりになった後、午後零時五十九分御泊所後楽にお戻りになる。

二時三十分御泊所を御出発、再び岡山大学医学部附属病院に行啓される。病室にて池田厚子とアルバムを御覧になりつつ御歓談になる。四時四十一分御泊所後楽にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、岡山県行啓録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午前九時四十分御泊所後楽を御出発、岡山大学医学部附属病院に行啓される。御

休所において池田隆政、院長赤木五郎・医学部教授平木潔・助教授大藤真の拝謁をお受けになった後、病室にて池田厚子をお見舞いになる。終わって病院関係者・池田家関係者に御会釈を賜う。玄関において池田厚子のお見送りをお受けになり、十一時三十分御泊所後楽にお戻りになる。

東京に還啓のため、午後一時十六分岡山駅より特急「第二富士」に御乗車になり、東京駅を経て十時九分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、岡山県行啓録、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午前、皇室会議が開かれ、正仁親王と津軽華子の婚姻のことが可決される。

午後、天皇と共に拝謁の間において、正仁親王より婚約についてのお礼言上をお受けになる。続いて、天皇と共に津軽義孝・同夫人久子・同息女華子の拝謁をお受けになる。婚約内定に当たり、天皇・皇后より正仁親王に五種交魚代料を、津軽華子に万那料及び紋縮緬を、同義孝・久子に万那料及び白羽二重をそれぞれ賜う。また、正仁親王より天皇・皇后に鮮鯛代料の献上がある。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁親王御結婚関係書類

吹上御所において、津軽華子の記者会見の様子をテレビで御覧になる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に謁見の間において、ライオンズ国際協会国際会長オーブレイ・D・グリーン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 午前、楽部にお出ましになる。鷹司和子のお出迎えをお受けになった後、ミルドレッド・デイリングによるハープ演奏をお聴きになる。御休所において同人を御引見になった後、日本ハープ協会理事長三村勉及び同夫人、同副会長ヨセフ・モルナルルほか二名の拝謁をお受けになる。その後、珍しいハープ楽器の展示を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三月

五日 木曜日 午後、吹上御所において、北白川祥子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 満六十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間において元皇太后宮女官、続いて元宮内庁長官及び元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元皇后宮女官・元女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、奥一の間において、元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎・同松島彝及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王、東久邇盛厚・同信彦・同文子、鷹司和子、島津久永・同貴子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 土曜日 ギリシャ国王パウロス一世昨六日崩御につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従徳川義寛を同国大使館に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、賜与録、儀礼軌範

九日 月曜日 午後、吹上御所において、山口玉糸の指導により掛軸に宝珠の玉を描かれる。○女官長

昭和二十九年三月

日記、女官日誌

十日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、千代田区神田駿河台の東京復活大聖堂<sup>ニコライ堂</sup>において故ギリシヤ国王パウロス一世弔祭式が催されるに際し、天皇の御名代として皇太子を、皇后の御名代として皇太子妃を差し遣わされる。○女官長日記、侍従日誌、幸啓録、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十五日 日曜日 午前、天皇と共に笠島において、皇太子・同妃、及び正仁親王、島津久永・同夫人貴子と共に御採集になる。その後、立石御茶屋において、御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十六日 月曜日 神奈川県フラワーセンター大船植物園・同県農業試験場・同県工芸指導所・同県園芸試験場を御視察のため、午前九時三十三分天皇と共に葉山御用邸を御出門になる。午後四時十五分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、神奈川県立フラワーセンター大船植物園一〇年のあゆみ、箱根物産史

十七日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に、皇后の還曆奉祝に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十八日 水曜日 夕刻、前田青邨をお召しになり、絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十九日 木曜日 午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十一日 土曜日 午前、謁見の間において、イラン国特命全権大使ホルモズ・ガリーブ及び同夫人・息女二名を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

正仁親王婚約内定につき、去る十八日ベルギー国王・王妃より天皇・皇后に祝電が寄せられる。これに対し、この日答電を寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁序報

二十三日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の東宮侍従八木貞二の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁序報

二十四日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度パナマ国へ赴任の特命全権大使田中弘人兼コスタリカ国駐節特命全権公使及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

この日米国特命全権大使エドウィン・オールドファザー・ライシャワー負傷につき、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を、同大使入院先の虎の門病院に差し遣わされ、果物を御贈進になる。これに対し後日、同大使からの礼状四月十日付がある。同大使は、米国外使館において凶徒に襲われ負傷し、虎の門病院に入院した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、外交贈答録、賜与録、入江相政日記、ライシャワー大使日録

二十七日 金曜日 日本赤十字社有功章及び特別社員章御親授式に名誉総裁として御臨席のため、午前九時四十四分皇居を御出門、日本赤十字社に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の皇太子妃・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。それより衆議院議長船田中・厚生大臣小林武治・社長島津忠承・副社長田辺繁雄の拝謁をお受けになる。ついで式場に臨まれる。式中、受章者総代十二名に各章を御親授の後、次のお言葉を賜う。

本日、ここに赤十字の事業に貢献し、功労のあつた皆さんに接し、親しく日本赤十字社有功章並びに特別社員章をお渡しすることができましたことを大変うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来八十七年のながきにわたり、人道と博愛を基として、幾多の有益な事業を行なつてきていますが、赤十字の任務は、今後ますます重要性を加えて行くものと思います。

社員並びに役職員の皆さんは、今後とも力を合わせて赤十字の活動を推進し、国民の期待にこたえらるとともに、各国の赤十字と提携して、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

続いて島津社長の奉答をお受けになる。式場を御退場後、御休所隣室において国際赤十字関係外国人に御会釈を賜う。写真場にて記念写真の撮影をお受けになり、十時四十七分皇居に還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十八日 土曜日 午前、謁見の間において、今般帰国の神戸女学院教諭アンジー・クルウを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 日曜日 夕刻、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、昨二十八日より同病院に入院した北白川房子をお見舞いになる。吹上御所に還御後、天皇と共に、北白川道久房子の孫よりお礼言上をお受けになる。正仁親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族雑録

三十日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のカンボジア国特命全権大使シム・ヴアルを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

謁見の間において、新任のドミニカ共和国特命全権大使カルロス・フェデリコ・ペレス・イ・ペレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報  
午後、吹上御所において、今般学習院大学を卒業する久邇朝建御兄朝融の子息、同典子御兄朝融の息女の拝謁をお受けになる。ついで久邇朝宏朝建・典子の弟も交えて花蔭亭付近を御散策になる。なお、朝建・典子にそれぞれお品料・万那料を、朝宏にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録  
今般学習院大学へ進学 of 寛仁親王、及び学習院女子中等科へ進学 of 容子内親王に、天皇・皇后よりお品料・万那料を御贈進になる。○女官長日記、上奏モノ控簿、贈賜録

#### 四月

一日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、寛仁親王・容子内親王と御対面になり、去る三月三十日の贈賜についてのお礼言上をお受けになる。ついで参殿 of 崇仁親王妃百合子と御対面になる。

昭和二十九年四月

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二日 木曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、イラン国皇姉シヤムス・バラヴィー及び同夫君メールダット・パールボッドと御会見になる。その後、天皇と共に西の間において、宮中午餐を催される。なお、この度の来訪に際し、天皇・皇后より皇姉に金蒔絵手箱京塗を、同夫君に七宝花瓶

紫紺地を、御会見・宮中午餐に同席の王子シャバースに写真機キャノネットを、また日本へ同行の王子シャ

ヤールに写真機オリンパスを、王女シャラザードに日本人形藤娘を御贈進になる。離日する十三日には、

同夫妻より天皇・皇后に、日本国滞在中に受けた款待についての礼電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

三日 金曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

六日 月曜日 元連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー米国陸軍元帥昨五日死去につき、天皇・皇后から

弔意を同夫人ジーンに伝えるよう御下命があり、この日、侍従長より同夫人に弔電が送られる。これに対し後日、同夫人より礼状五月六日付が送られる。○外交慶弔録

七日 火曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、フランス国首相ジョルジュ・ポンピドゥ及び同夫人を御引見になる。その後、天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。後日、フランス国特命全権大使より式部官長宛てに、来日中に天皇・皇后より受けた款待について首相夫妻及び同国外相から謝意の伝奏を願う旨の書簡四月九日付が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、皇族雜録、外交贈答録、宮内庁庁報、外交記録

八日 水曜日 午前、謁見の間において、東京国立博物館の招待により来日中の元フランス国特命全権大使故シャルル・アルセーヌ・アンリーの夫人ヨランダを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、東京国立博物館百年史

九日 木曜日 『昭憲皇太后実録』完成につき、午前、天皇と共に奥一の間において、同実録二百五十四冊を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、昭憲皇太后実録関係

十日 金曜日 この日午後に行われる科学技術館の開館式に先立ち、午前十時四十六分御出門、天皇と共に同館に行啓される。館内を御視察の後、十一時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、佐藤栄作日記、科学技術館学芸活動紀要

この日、池田厚子が岡山山大学医学部附属病院を退院する。厚子の入院加療中、種々尽力した院長赤木五郎以下に、賜品及び賜金がある。○旧皇族雜録

十一日 土曜日 午前、昭憲皇太后五十年式年祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。併せて昭憲皇太后山陵五十年式年祭の儀が行われ、京都事務所長石川忠に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 明治神宮において昭憲皇太后五十年祭執行につき、午前九時五十四分天皇と共に御出門、同神宮に行啓される。天皇に続いて御拝座において御拝礼になり、十一時還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報

この日、徳仁親王学習院幼稚園入園につき、天皇・皇后より同親王にお品料・万那料を賜う。○女官長

昭和二十九年四月

日記、贈賜録、皇族雜録

**十四日** 火曜日 この日、正仁親王の納采の儀が行われる。午前、天皇と共に拝謁の間において、正仁親王と御対面になり、納采の儀終了につきお礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、津軽華子及び津軽義孝・同夫人久子の拝謁をお受けになる。天皇が入御された後、お一方にて再び津軽華子及び義孝・同夫人久子の拝謁をお受けになり、津軽夫妻の退出後、華子にお手ずから指輪等を御贈進になる。

午後、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃始め皇族・元皇族・御縁故者の祝賀を、続いて宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官の祝賀を順次お受けになる。なお、この日、納采の儀が行われるに当たり、天皇・皇后の御使として侍従松平潔を多摩陵<sup>大正天皇陵</sup>・多摩東陵<sup>貞明皇后陵</sup>に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁親王御結婚関係書類、臨時儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

**十五日** 水曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、ヨーロッパ放送連盟会長オロフ・ルウドベック及び同夫人、同副会長マルセル・ロディノ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

**十六日** 木曜日 昭憲皇太后崩御五十年につき、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子、東久邇聡子と御夕餐を御会食になる。その際、明治時代のこと話が話題になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

**十七日** 金曜日 午前、拝謁の間において、この度アルジェリア国へ赴任の特命全権大使瓜生復男及

び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、来日中のペルー国トルヒーリヨ市日本国名誉総領事ハイメ・ルイス・デ・オルベゴソ・アルバラード及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、第十四回身体障害者福祉大会に当たり厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労のあつた者等の賜謁があり、天皇と共に内廷庁舎御車寄前にお出ましになる。厚生大臣小林武治より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

午後一時三十分御出門、高松宮邸に行啓される。四時十一分還啓される。その後、吹上御所において、宣仁親王妃喜久子より行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、この度渡米につき挨拶のため参殿した島津久永、及び同夫人貴子・同母久子と御対面になり、御夕餐を御会食になる。御食後、久永が持参した米国の記録映画を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 金曜日 午後、結核予防事業について財団法人結核予防会総裁から表彰された者の賜謁があり、内廷庁舎御車寄前にお出ましになる。結核予防会理事長山口正義より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

昭和二十九年四月

二十六日 日曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎え成年に達した甯子内親王と御対面になる。天皇・皇后より白羽二重及び万那料等を賜い、御対面の際に披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族御身分録、例規録、贈賜録

二十七日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、昨秋よりの病気が全快した宣仁親王、及び同妃喜久子と御夕餐を御会食になる。御食後、皇后還曆奉祝記念の記録映画等を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃メキシコ国訪問の首席随員久保田貫一郎ほか随員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

午後、天皇と共に吹上御所において、翌月八日大韓民国に帰国する李方子の拝謁をお受けになる。なお、帰国の当日に、天皇・皇后より方子に洋菓子等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 水曜日 天皇誕生日につき、午前、祝賀に先立ち、天皇と共に内廷庁舎の両陛下御座所において、東久邇盛厚の子女四名と御対面になる。その後お一方にて、奥一の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子・同妃始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者、並びに津軽華子及び津軽義孝・同夫人久子の祝賀をお受けになる。なお、生存者叙勲の開始に伴い、皇族、元皇族・元王族、御縁故者の祝賀の後、同所において天皇より甯子内親王及び元皇族の鷹司和子・島津貴子に勲一等宝冠章が親授される。同じく授与される。池田厚子是不参。 親授の後、皇后お一方にて甯子内親王・鷹司和子・島津貴子より挨拶をお受けに

なる。

正午、奥二の間において内宴を催され、皇太子妃及び故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・甯子内親王と御会食になる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族が陪席し、各国特命全権大使等が出席する。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、贈賜録、皇族御身分録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午後、吹上御所において、池田隆政の拝謁をお受けになり、池田厚子<sup>昨二十九日の親授式に欠席</sup>への勲一等宝冠章授与等についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

## 五月

一日 金曜日 島津久永及び同夫人貴子米国に出発につき、午前、女官長保科武子・女官今城誼子を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌

第九回ユニセフ協力募金を実施の財団法人日本ユニセフ協会に金員を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

四日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、第二回日英定期協議に参加のため来日した英国外務大臣リチャード・A・バトラー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕に桑をお与えになる。○女官長日記、女官日誌

昭和二十九年五月

誌、内舍人日誌

午後、藍綬褒章を授与された教育事業功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。

学校法人自由ヶ丘学園理事長藤田喜作より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

今般皇太子・同妃メキシコ国訪問につき、御送別のため吹上御所において天皇及び皇太子・同妃・正

仁親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

八日 金曜日 午前、謁見の間において、この度離任のチェコスロバキア国特命全権大使ドブロミル・

イエツチニーを天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典

式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 土曜日 午前、内廷庁舎において天皇と共に、翌日メキシコ国へ出発する皇太子・同妃と御対

面になり、挨拶をお受けになる。この度の訪問に際し、天皇・皇后よりメキシコ国大統領に御贈進の

九谷焼花瓶色絵更、紗文及び同夫人に御贈進の洋食器桂離宮、古菊文が皇太子に託される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日

誌、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

午後、宮内庁病院に入院中の北白川房子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌

吹上御所において、久邇典子御姪の拝謁をお受けになる。先般大学を優等成績で卒業につき、典子にお

品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 日曜日 この日、メキシコ国を訪問する皇太子天皇の御名代及び同妃出發につき、天皇・皇后の御使と

して侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、空港行事録、宮内庁

序報

元國務大臣野村吉三郎去る八日死去につき、天皇・皇后より菓子を賜う。○女官長日記、贈賜録、賜与録

十一日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間にお出ましになり、先般皇室の重要事項に参与すべき旨の天皇の御沙汰を受けた吉田茂・田島道治・石坂泰三・小泉信三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、内廷職員進退録

十二日 火曜日 昭和三十九年度植樹行事に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に長

野県に行啓される。午前九時四十五分御出門、原宿駅より御乗車になる。岡谷駅にて御降車になり、長野県精密工業試験場を御視察になる。次に諏訪郡下諏訪町の諏訪大社下社秋宮に御参拝になり、宝物殿内において宝物を御覧になる。それより諏訪市に向かわれ、長野県工業製品展示会場諏訪市美術館を御見学に

なる。午後四時三十八分、御泊所諏訪湖ホテルに御到着になる。御夕食前、御泊所より諏訪湖を展望

される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、長野県下行幸啓録、宮内庁

報、官報、長野県庁所蔵資料、諏訪大社下社秋宮所蔵資料、信濃路の両陛下、岡谷市史、広報しすわ、なぎがま

十三日 水曜日 植樹行事に御臨席のため、午前九時三十分、天皇と共に御泊所諏訪湖ホテルを御出發、茅野市の白樺湖畔八子が峰の植栽地にお着きになる。お野立所に進まれ、国土緑化推進委員会委員長船田中衆議院議長・長野県知事西沢権一郎・国土緑化推進委員会副委員長徳川宗敬の介添えにより、天

昭和二十九年五月

皇に続いてカラマツ三本を植樹される。蓼科高原カントリークラブにおいて御昼食後、塩尻市の長野県林業指導所に向かわれる。御到着後、お手播場に進まれ、天皇のお手播き<sup>カラマツの種</sup>に続き、長野県森林組合連合会副会長福島国雄の介添えにてアカマツの種をお播きになる。御少憩の後、松本市に向かわれる。午後五時七分御泊所霞山荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、

長野県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、長野県庁所蔵資料、信濃路の両陛下、二十世紀とともに、信山緑化情報

**十四日** 木曜日 午前九時三十五分、天皇と共に御泊所霞山荘を御出発、長野県松本ろう学校を御訪問になる。次に長野県護国神社にお立ち寄りになり、参道において御拝礼になる。松本城に御到着になり、月見櫓から御展望の後、長野県警山岳遭難救助隊の救助訓練を御覧になる。ついで城内に展示された登山用具類を御覧になる。次に長野県繊維工業試験場を御視察になる。紅葉山御養蚕所産の生糸にて皇后御注文の青海波紅葉ちらしの緞子を織る作業を御見学の際には、紋織の型や紅葉山御養蚕所の繭の質などについて御質問になり、織機の後ろ側に回られ、緞子が織られる様子を熱心に御覧になる。御昼食の後、天皇と共に東筑摩郡明科町に向かわれ、長野県水産指導所を御視察になる。午後三時二十九分埴科郡戸倉町の御泊所白鳥園ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、長野県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、松本ろう学校所蔵資料、長野県水産試験場所蔵資料、信濃路の両陛下、明日への飛翔、長野県松本ろう学校開校六十周年記念誌、降旗徳弥回想録、長野県情報技術試験場七十年史、あかしな公民館報、公民館報とぐら

**十五日** 金曜日 午前九時三十分、天皇と共に御泊所白鳥園ホテルを御出発、更級郡上山田町の寺沢川お野立所において、ヘリコプターによる農薬空中撒布状況を御覧になる。次に上田市の笠原工業株

式会社上田工場において、繭から生糸になるまでの全工程を御視察になる。その際、工場内の温度が特に高い煮繭室の従業員の疲労について御質問になる。次に天皇と共に上田公園内の山本鼎記念館において展示品を御覧になった後、御泊所白鳥園ホテルに還御される。御昼食後は非公式日程とされる。更埴市へ向かわれ、冠着聖高原の八幡大池周辺を御散策になる。午後四時四十分御泊所に還御される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、長野県下行幸啓録、宮内庁庁報、官報、笠原工業株式会社上田工場所蔵資料、信濃路の両陛下、上山田公民館報、笠原工業上田工場七十年のあゆみ、天皇皇后両陛下をお迎えして、更埴市制二十年誌、広報うえた、市報こうしよく、信山緑化情報、聖山植物誌、草木漫筆

**十六日 土曜日** 午前九時三十分、天皇と共に御泊所白鳥園ホテルを御出発、篠ノ井市の千曲福祉センターを御視察になる。次に長野市の長野県勤労者福祉センターを御見学後、自動車にて善光寺境内を通過され、長野観光館にお着きになる。御昼食後、長野駅を御発車になり、午後五時五十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、長野県下行幸啓録、

宮内庁庁報、官報、長野県庁所蔵資料、信濃路の両陛下、千曲厚生福祉事業協同組合創立二十周年記念史、千曲ニュース、天皇皇后両陛下下行幸啓記念、広報ながの

**十七日 日曜日** 午前、貞明皇后例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

夕刻、吹上御所において天皇と共に、メキシコ国訪問よりこの日帰国の皇太子・同妃と御対面になる。なお、メキシコ国大統領夫妻より皇后に金製写真枠の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、外交贈答録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 竹友会の会合に御臨席のため、午後一時三十分天皇と共に御出門、文京区の椿山荘に行啓される。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁報、奇術研究

十九日 火曜日 午前、拝謁の間において、この度アフガニスタン国へ赴任の特命全權大使真崎秀樹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁報、宮内庁報、真崎秀樹英文日記

正午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の發育状態を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この度の皇太子・同妃メキシコ国訪問の首席随員久保田貫一郎以下の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十一日 木曜日 午後、吹上御所において久邇典子・同朝宏・龍田正子ほか一名の拝謁をお受けになる。その後、楽部にお出ましになり、久邇典子以下と共に春季演奏会をお聴きになる。服部豊子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十二日 金曜日 大相撲五月場所を御覧になるため、午後三時九分天皇と共に御出門、蔵前国技館に行啓される。五時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁報、官報

二十三日 土曜日 午後、吹上御所において開催の黄心樹歌会に臨まれる。後刻、天皇も参加される。終わって花蔭亭にて参会者と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 月曜日 午後、糸竹会の演奏をお聴きになるため、故雍仁親王妃勢津子と御同車にて楽部にお出ましになる。糸竹会会員と共に琴にて「更衣」を演奏され、その後は「林歌」以下五曲をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、糸竹会

この日、天皇はソビエト連邦最高会議議員団団長ミコヤン・アナスタス・イワノビッチほか十名を御引見になる。その際、同議員団より天皇、皇后、皇太子・同妃に献上の品があり、皇后には香水入り化粧箱が贈られる。○女官長日記、内舍人日誌、謁見録、謁見等

二十七日 水曜日 この度離任のフィリピン国特命全権大使マウロ・メンデス及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使アルベルト・ミラス及び同夫人を招かれ、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、宮内庁庁報

午後、宮内庁病院に入院中の北白川房子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十八日 木曜日 常磐会第百回総会に御臨席のため、午後一時二十分皇居を御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、御休所において皇族・元皇族等と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、余興として演奏された箏曲の合奏「六段」、独奏「ロンドンの夜の雨」「衛兵交代」、合奏「桜変奏曲」、地唱舞「珠取」をお聴きになる。御少憩後、会場を御巡覧になる。その際、演奏者に御会釈を賜う。その後、九鬼縫子紹ざしの会会員の作品の展示を御覧になり、四時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午後六時十九分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓され、甯子内親王の成年披露のため崇仁親王・同妃百合子が主催する晩餐に御臨席になる。九時十一分還啓される。○女官長日記、女官

昭和二十九年六月

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

三十一日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王と御昼餐を御会食になる。御食後、御一緒に津軽華子及び津軽義孝・同夫人久子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

## 六月

二日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、今般皇太子・同妃メキシコ国訪問より帰国につき、御晩餐を催される。皇太子皇太子妃は風気のため欠席、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、鷹司平通・同夫人和子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

三日 水曜日 天皇と共に表一の間において、この度新任の英国特命全権大使フランシス・ブライアン・アンソニー・ランドル及び同夫人、イラン国特命全権大使ホルモズ・ガリーブ及び同夫人、ドミニカ共和国特命全権大使カルロス・フェデリコ・ペレス・イ・ペレス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、宮内庁庁報

五日 金曜日 第十九回国民体育大会春季大会に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に新潟県に行啓される。午前九時二十七分御出門、原宿駅より新潟駅を経て新潟県庁に向かわれる。御到着後、新潟県特産品を御覧になる。その際、水槽のニシキゴイの生育年数について御質問になる。

午後五時御泊所ホテル新潟に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、両陛下を越佐路にお迎えして、行幸啓記念、大久保賢治郎追想録、新潟臨港海陸運送株式会社創業八十年史

六日 土曜日 午前九時十分、天皇と共に御泊所ホテル新潟を御出発、アンモニア系各種肥料等を製造する日本瓦斯化学工業株式会社新潟工業所松浜工場を御視察になる。その際、撒積倉庫内において、小粒のパールのように結晶した尿素をお手にすくい御覧になる。御泊所に還御され御昼食の後、天皇と共に新潟県営新潟陸上競技場における第十九回国民体育大会開会式に御臨場になる。午後三時五十分、御泊所ホテル新潟に還御される。御夕食後、お一方にて特設の陳列室において、療養中の池田厚子へのお土産品をお買い上げになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、三菱ガス化学株式会社新潟工業所蔵資料、両陛下を越佐路にお迎えして、大久保賢治郎追想録、行幸啓記念

七日 日曜日 午前八時五十分、天皇と共に御泊所ホテル新潟を御出発、新潟大学を御視察になる。次に新潟県護国神社にお立ち寄りになり、御拝礼になる。その後、国体レスリング会場の新潟高等学校体育館に御到着になり、一般フリースタイル等の競技を御覧になる。次に新潟県営中央埠頭よりお召し船「おけさ丸」にて佐渡に向かわれる。船中御座所において御昼食後、上甲板にお出ましになり、両津湾ヨットハーバーにおいて進行中の国体ヨットレースを御覧になる。午後二時二十五分、新潟県営両津埠頭に御到着になる。両津市役所に向かわれ、御着後、屋上より加茂湖上の国体漕艇競技を御覧になる。ついで真野町競技場に移動され、民芸「鬼太鼓」を御覧になる。その際、鬼の髪の色、能楽の影響がある部分、後継者数の問題などについて御質問になる。四時三十六分、御泊所八幡館に御

昭和二十九年六月

到着になる。天皇と共に二階大広間において、両津甚句・佐渡おけさ等の郷土芸能を御覧になる。御夕食後、屋上より真野灣を御展望になる。なお、荒天で佐渡へ出航できない場合にお立ち寄りが予定されていた肢体不自由児施設はまぐみ学園に思いを寄せられ、この日、天皇・皇后より財団法人はまぐみ学園に菓子料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、新潟県護国神社所蔵資料、両陛下を越佐路にお迎えして、大久保賢治郎追想録、佐渡汽船、佐渡汽船株式会社六十年のあゆみ、月刊佐渡、青山、天皇陛下皇后陛下佐渡行幸啓記念誌

八日 月曜日 午前九時四十五分、天皇と共に御泊所八幡館を御出発、順徳天皇火葬塚にお着きになり、御拝礼になる。ついで隣接する真野宮を拝礼される。終わって御泊所にて御夕食後、御徒歩にて佐渡博物館に移られ、展示を御巡覧になる。御泊所において御昼食後、新潟県営両津埠頭よりお召し船「おけさ丸」に御乗船になる。新潟県営中央埠頭北側岸壁に御着、四時四十八分御泊所ホテル新潟に御到着になる。御夕食後、この度の国民体育大会に臨場のため来県した故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、多摩監区真野部順徳天皇火葬塚所蔵資料、両陛下を越佐路にお迎えして、行幸啓記念、大久保賢治郎追想録、佐渡博物館々報、天皇陛下皇后陛下佐渡行幸啓記念誌

九日 火曜日 午前九時十七分、天皇と共に御泊所ホテル新潟を御出発、松下電器産業株式会社新潟営業所に設けられた第十八回日本体力医学学会展示会場を御訪問になる。次に国体ラグビー会場の新潟市営鳥屋野ラグビー場に御到着になり、高校生の準決勝を御覧になる。ついで新発田市に向かわれ、国体軟式野球競技場の新発田市営球場において一般の準決勝を御覧になる。終わって午後、新発田駅

より長岡市に向かわれる。長岡駅にて御降車になり、国体バスケットボール会場の長岡市厚生会館に御着後、高校生男子の準々決勝を御覧になる。次に新潟県農業試験場を御視察になる。午後四時六分御泊所ホテルニュー長岡に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、両陛下を越佐路にお迎えして、大久保賢治郎追想録、行幸啓記念

**十日 水曜日** 午前九時三十九分、天皇と共に御泊所ホテルニュー長岡を御出発、長岡駅より直江津駅を経て、三菱化成工業株式会社直江津工場に御到着、同工場を御視察になる。社員クラブの越山荘にて御昼食の後、高田市に向かわれ、国体フェンシング会場の高田高等学校体育館において一般女子のフルール決勝を御覧になる。終わって高田駅より田口駅を経て、午後三時三十七分中頸城郡妙高々原町の御泊所赤倉観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、両陛下を越佐路にお迎えして

**十一日 木曜日** この日は公式日程はなく、終日御休養に充てられる。午前十時四分、天皇と共に御泊所赤倉観光ホテルを御出発、笹ヶ峰の県営放牧場に御到着になる。周囲を御展望の後、牧場内を御散策になる。高田宮林署杉野沢林道作業場において御昼食後、自動車にて御出発、杉野沢橋に到着され、真川の清流沿いに湿地帯を上流へとお進みになりつつ植物を觀察される。終わって杉野沢橋に戻られ、皇后は火打岳を御写生になる。ついで天皇と共に杉野沢林道作業場まで戻られ、五八木において植物を御觀察になる。午後四時御泊所に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、両陛下を越佐路にお迎えして

**十二日 金曜日** 午前十時、お一方にて御泊所赤倉観光ホテルを御出発、赤倉温泉の細川別邸を御訪

問になる。この邸は大正十二年八月に御避暑のため滞在された久邇宮別邸であり、早津三造の案内により、前庭の池を御覧になりつつ邸内にお入りになる。二階において、当時御使用の鏡台・机など調度品のほか、御署名簿をめくりつつ御自署や邦彦王の署名などを御覧になる。階下に降りられ浴室・食堂を御覧になり、お供の女官に当時の様子をお話しになる。十一時御出発、御泊所赤倉観光ホテルに還御される。十一時四十七分、天皇と共に御泊所赤倉観光ホテルを御出発、田口駅より原宿駅を経て、午後五時五十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、両陛下を越佐路にお迎えして

**十三日** 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所において元奉仕者等百八十六名の賜謁があり、お言葉を述べられた後、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

**十五日** 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、マレーシア国駐劔特命全権大使甲斐文比古より、同国の国情についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報

拝謁の間において、新任の侍従職御用掛本野盛幸・大森誠一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

**十六日** 火曜日 国賓として来日のマレーシア国王サイド・プートラ及び同王妃ブドリアをお出迎えるのため、午後一時二十九分天皇と共に御出門、東京国際空港に行啓される。御到着の国王・王妃と御対面後、王妃と同乗され、二時四十八分皇居に御到着になる。直ちに天皇と共に謁見の間において、国王・王妃と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、天皇・皇后にそれぞれマーコタ・ネガラ

最高勲章が贈られる。七時三十分、天皇と共に、国王・王妃のため、北の間において宮中晚餐を催され、その後、西の間において宮中夜会を催される。この度の御来訪に際し、天皇・皇后より国王に綴錦額「池庭老松」伝長谷川等伯筆を、王妃に金蒔絵手箱椀におしどり、木曾塗、手塚有三作を御贈進になる。また、国王・王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、国王より皇后に宝石箱、国王・王妃より天皇・皇后にカイン・ソッケット金の刺繍をした布地が贈られる。なお、国王・王妃の御入京の際に、皇后より王妃に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、

宮内庁序報、官報

十七日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、アルゼンチン国陸軍最高司令官ファン・カルロス・オンガニア及び同夫人を御引見になる。同夫人より、ワニ皮の化粧小箱の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

十八日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度英国へ赴任の特命全権大使島重信及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

マレーシア国王妃ブドリアの日本赤十字社産院御視察に当たり、午後二時四十二分御出門、日本赤十字社名誉総裁として同産院に行啓される。御到着後、日本赤十字社長島津忠承・産院院長久慈直太郎・副院長三谷茂・助産部長竹谷アサヨのお出迎えをお受けになり、御休所において名誉副総裁故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。三時過ぎ、御到着の王妃と御休所において御対面になり、御一緒に御贈呈室にお入りになる。王妃に金色有功章・名誉社員章を贈呈される旨のお言葉を述べられ、王妃

の左胸部にお手ずから金色有功章、ついで名誉社員章をお付けになる。次にマレーシア国王にも両章をお贈りになる旨のお言葉を述べられ、王妃にお渡しになる。ついで王妃より日本赤十字社社長に寄付金が渡される。

その後、王妃・故雍仁親王妃と共に乳児院サンルームに移られ、久慈産院院長の説明をお受けになりつつ御視察になる。終わって王妃を玄關までお見送りの後、三時四十三分皇居に還啓される。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、宣召録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

去る十六日に発生した新潟地震により甚大な被害を受けた新潟・山形両県に、この日、天皇・皇后より御救恤金を賜う。また、思召しにより、日本赤十字社に災害義捐品として衣類<sup>お手許お買上品</sup>を匿名にてお

下げ渡しになる。○御差遣録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、氣象百年史

十九日 金曜日 天皇と共に表一の間において、マレーシア紛争をめぐるフィリピン・マレーシア・インドネシア三箇国首脳会談<sup>東京にて開催</sup>に出席のため来日したフィリピン大統領ディオスダド・マカパガルをお招きになり、宮中午餐を催される。この日、大統領より天皇・皇后にお礼の親書が寄せられる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 天皇と共に表一の間において、マレーシア紛争をめぐるフィリピン・マレーシア・インドネシア三箇国首脳会談に出席のため来日したインドネシア大統領スカルノをお招きになり、宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、私的旅行の途次に来日したモロッコ国王妹ララ・ヌズハ及び同義兄ムーライ・アリと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 午後、天皇と共に東の間において、衆議院議長の招きにより来日中のブラジル国下院議員団団長、ジョアン・ススム・ヒラタ等を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る八月十三日の光厳天皇六百年式年祭に先立ち、東京大学史料編纂所助教奥野高広より光厳天皇御事蹟についての進講をお聴きになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

マレーシア国国王サイド・プートラ及び王妃ブドリア御主催の御晩餐に御出席のため、午後七時二十分天皇と共に御出門、光輪閣に行啓される。九時五十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十五日 木曜日 マレーシア国国王サイド・プートラ及び王妃ブドリア御帰国のお見送りのため、

午前十時五分天皇と共に御出門、東京国際空港に行啓される。十一時三十七分還啓される。この日、マレーシア国国王・王妃より天皇・皇后に、日本国滞在中にお受けになった款待についての礼電が寄せられる。これに対し二十七日、答電を御発送になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、幸啓録、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に吹上御所より内廷庁舎に向かわれる途中、去る五月完成の皇居正門鉄橋にお出ましになり、御徒歩にてお渡りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇居造

営月報、土木学会雑誌

昭和二十九年七月

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、菊栄親睦会録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有料試写会に御臨席のため、午後六時五十分、天皇と共に御出門、千代田区のスカラ座に行啓される。英国総天然色映画「サミール南へ行く」を御覧になり、上映終了後、八時五十七分還啓される。この度の行幸啓に際し、天皇・皇后より社会福祉法人恩賜財団済生会に金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

## 七月

一日 水曜日 この度離任のスペイン国特命全権大使アントニオ・ヴィリヤシエロス・イ・ベニト及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使アドルフ・アルフレド・ポリニ及び同夫人、新任のタイ国特命全権大使ウイトウーン・ハンサウエーサー及び同夫人、ポーランド国特命全権大使ヴラディ斯拉フ・ドマガーラ及び同夫人を招かれ、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭東側にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

七日 火曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のインドネシア国特命全権大使ハルソノ・レクソアトモジョ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この度離任のラオス国特命全権大使ウートン・スヴァナヴォン及び同夫人、フランス国特命全権大使エティエンヌ・ロラン・デンヌリ、新任のインドネシア国特命全権大使ハルソノ・レクソアトモジョ及び同夫人を招かれ、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、宮内庁病院に入院中の北白川房子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

八日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時二分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、天皇と共に皇太子・同妃を伴われ、三戸海岸西崎にお出ましになる。天皇の海洋生物御採集に同行され、浜辺で御昼食を御会食の後、御帰邸になる。御用邸御滞在中は、しばしば天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

十四日 火曜日 前田青邨をお召しになり、午後、絵画の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

十八日 土曜日 一時御帰京のため、午前九時葉山御用邸を天皇と共に御出門、十時三十七分皇居に

昭和二十九年七月

還啓される。その後、天皇は認証官任命式に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午後三時御出門、四時三十七分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 午後、拝謁の間において、この度イタリア国へ赴任の特命全権大使中川融及び同夫人、ラオス国へ赴任の特命全権大使和田周作及び同夫人、カンボジア国へ赴任の特命全権大使田村幸久及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 一時御帰京のため、午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 東久邇成子三年式年祭墓所祭の儀につき、午後二時二十五分御出門、天皇と共に豊島岡墓地に行啓され、天皇に続いて東久邇家墓所を御拝礼になる。同五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

今般の山陰地方の豪雨により甚大な被害を受けた島根県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 昨日東久邇成子三年式年祭滞りなく終了につき、吹上御所において天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹

司和子、池田隆政、東久邇稔彦・同夫人聡子・東久邇盛厚・同信彦・同文子・同秀彦・同真彦・同優子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

元侍従小倉庫次元帝室林野局出仕 昨二十三日死去につき、天皇・皇后より祭塗料を賜う。また、天皇・皇后より菓子・切り花を靈前に賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時二分御出門、十一時三十七分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 夕刻、前田青邨の拝謁をお受けになり、鯖の絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、

葉山行幸啓録

二十八日 火曜日 午後、山口蓬春の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十九日 水曜日 午前十時十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午前、謁見の間において、スペイン国工業大臣グレゴリオ・ロペス・ブラーボ・カストロ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁

見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

昭和二十九年八月

八月

一日 土曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十七分御出門、午後一時十二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三日 月曜日 午後、天皇と共に、正仁親王結婚後の宮号に関するこれまでの審議経過を侍従次長稲田周一よりお聞きになる。○侍従日誌、稲田周一関係資料

十一日 火曜日 午後、天皇と共に、新任の皇宮警察本部長中原英典、及び前任の皇宮警察本部長本多武雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

十二日 水曜日 一時御帰京のため、午前九時四十八分、天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午前、光厳天皇六百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時五十分御出門、天皇と共に靖国神社境内<sup>式場</sup>に行啓される。午後零時二十二分還啓される。なお、同式挙行に当たり、天皇・皇后より厚生大臣に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報、靖国神社社務日誌、靖国神社百年史

十六日 日曜日 午前、吹上御所において、島津斉視より同夫人朝子の<sup>御兄朝融の息女</sup>の病状についてお聞きに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

夕刻、宮内庁病院に入院中の北白川房子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時十七分御出門、午後一時十二分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午前、山口玉糸の指導により、鯉を描かれる。二十七日まで、同人より絵の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、那須行幸啓録、贈賜録

島津朝子 御兄久邇朝融の息女 島津斉視夫人 去る二十一日死去につき、この日、女官長保科武子を葬儀に参列させられる。同人の死去に際し、盛菓子・切り花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、皇親録、旧皇族雜録

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に参殿者休所において、宮内記者会会員十五名に御会釈を賜い、同記者会幹事より来る九月末の正仁親王結婚の祝辞をお受けになった後、各記者からの質問にお答えになる。その際に、正仁親王の結婚について、また海外生活を送る島津貴子についての質問をお受けになる。正仁親王の結婚に関しては、長い間一人でいたので心配していたが、結婚が決まって喜んでいる旨、島津貴子に関しては、手紙を二回やり取りし、元気でいるようで喜んでいますが、お互いに筆無精である旨を、ほほえまれながらお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、天皇記者会見、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に、参議院議長重宗雄三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

昭和二十九年九月

三十日 日曜日 御夕餐後、天皇及び正仁親王と共に、川合玉堂に関する記録映画、及び前田青邨に関する記録映画等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

## 九月

一日 火曜日 関東大震災の日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

四日 金曜日 午後、前田青邨をお召しになり、御作品をお見せになる。ススキの絵も描かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、入江相政日記

七日 月曜日 午前九時四十八分天皇と共に那須御用邸を御出門になり、午後零時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

四時三十分、天皇と共に北の間始め各間において、国際通貨基金<sup>FIM</sup>・国際復興開発銀行<sup>IDB</sup>・国際金融公社<sup>IFC</sup>・国際開発協会<sup>IDA</sup>・四機関の合同総務会年次総会に参会する各国の総務及び総務代理各夫妻等のため、茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮中茶会、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、佐藤栄作日記

八日 火曜日 天皇と共に表一の間において、昨七日より非公式にて来日されたタイ国皇太后ラムバイ・バルニのため、宮中午餐を催される。なお、二十日の離日に際し、皇太后より天皇・皇后に切り花の御贈進があり、同日夕刻、吹上御所において披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、皇族雜録、外交贈答録、宮内庁庁報

九日 水曜日 久邇侁子<sup>御母</sup>の祥月命日につき、正午前、侁子の写真に菓子・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度ヘルー国へ赴任の特命全権大使山津善衛及び同夫人、インドネシア国へ赴任の特命全権大使齊藤鎮男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十一日 金曜日 午前十時御出門、高松宮邸に行啓される。去る八月に箱根で第十二胸椎を骨折し、この日ギブスベッドから離床する宣仁親王妃喜久子をお見舞いになる。十一時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇族雜録、宮内庁庁報、菊と葵のものがたり

十二日 土曜日 午後、内廷庁舎において、装束を着用した正仁親王・津軽華子の習礼及び写真撮影の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、オリンピック東京大会組織委員会会長安川第五郎・同副会長竹田恒徳・同事務総長与謝野秀より、オリンピック東京大会についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 この日、正仁親王結婚式中告期の儀が行われる。午前、吹上御所において、津軽邸への御使を務めた侍従次長稲田周一より復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、正仁親王御結婚関係書類、稲田周一関係資料

十六日 水曜日 午前、天皇と共に表三の間において、来る二十一日の崇徳天皇八百年式年祭に先立

昭和二十九年九月

ち、書陵部編修課長後藤四郎より崇徳天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

東の間において、皇室経済会議が開催される。会議の結果、来る九月三十日の結婚の儀以降、正仁親王を独立の生計を営む皇族と認定する旨が決議される。○内舎人日誌、皇室経済会議録

十七日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、元オックスフォード大学教授ロバート・ロビンソン及び同夫人、ついでアメリカ銀行頭取ルドルフ・A・ピーターソン及び同夫人を御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後一時皇后を御出門、義宮御殿に行啓される。御到着後、津軽華子の婚儀の衣装等を御覧になる。故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・北白川祥子も同席する。四時四十分、皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

十八日 金曜日 午前、謁見の間において、新任のポルトガル国特命全権大使ヴィルジリオ・アルマンド・マルティンス及び同夫人、中華民国特命全権大使魏道明及び同夫人、ホンジュラス国特命全権公使ジャック・ハラリを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録

この日、ギリシャ国王コンスタンティノス二世とデンマーク国王女アンヌ・マリー御結婚につき、天皇・皇后より国王に祝電を発せられる。これに対し二十四日、答電が寄せられる。また、特派大使

土屋隼ギリシャ国駐節  
特命全権大使を通じて天皇・皇后より祝意を表され、お祝品の輪島塗金蒔絵手筥桜に紅  
葉文を国王に御

贈進になる。○外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

十九日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のチェコスロバキア国特命全権大使ズデネク・フル

ドリチカ及び同夫人、アルジェリア国特命全権公使アブデル・マレク・ベナビレス及び同夫人、アルゼンチン国特命全権大使ギリエルモ・ホータ・カーノ及び同夫人・息女、ラオス国特命全権大使ニツト・シンハラ及び息女二人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十一日 月曜日 午前、崇徳天皇八百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十三日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十五日 金曜日 午前、拝謁の間において、この度カナダ国へ赴任の特命全権大使島津久大の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、第十六回保健文化賞<sup>第一生命保険相互会主催、厚生省・朝日新聞厚生文化事業団・NHK厚生文化事業団後援</sup>を受賞した者等の賜謁があり、天皇と共に

東の間にお出ましになり、厚生大臣神田博の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

二十六日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のスペイン国特命全権大使ルイス・ガルシア・デ・リエーラ、マダガスカル国特命全権大使ルイ・ラコトマララ、エクアドル国特命全権大使リシマコ・グスマン・アギーレを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、

宮内庁序報

二十八日 月曜日 午後、謁見の間において、コスタリカ国大統領夫人マリータ・デ・オルリツチと

昭和二十九年九月

御会見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

来る十月一日より昭和二十九年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 午前、拝謁の間において、先般宮内庁御用掛を拝命した井上秀子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

台風二十号により甚大な被害を受けた鹿児島県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午後二時二十五分、正仁親王結婚式中朝見の儀につき、天皇と共に西の間に出御される。式中、天皇・皇后の御前に参進した正仁親王・同妃華子より謝恩の辞をお受けになる。これに対し、天皇に続いてお言葉を賜う。

夕刻、天皇と共に拝謁の間において、皇族・元皇族等の祝賀を、ついで宮内庁長官等、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官の祝賀をお受けになる。

この日、宮内庁告示をもって、正仁親王が津軽華子と結婚の礼を行った旨、及び天皇より正仁親王に常陸宮の称号を賜う旨が発表される。また、この日以降、東京都渋谷区の常盤松御用邸内の義宮御殿ひたちのみやは常陸宮邸と称される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、正仁親王御結婚関係書類、臨時儀式録、宮内庁庁報、官報

正仁親王結婚につき、ベルギー国国王・王妃、オランダ国女王・王配より、天皇・皇后に祝電が寄せられる。これに対し、それぞれ答電を發せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十月

一日 木曜日 東海道新幹線開業式に御臨席のため、午前九時五十八分御出門、天皇と共に日本国有鉄道本社に行啓される。十時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

幸啓録、宮内庁序報、官報

表三の間において、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、お写真の撮影をお受けになる。ついで天皇と共に拝謁の間において、津軽義孝・同夫人久子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、正仁親王御結婚関係書類

正仁親王結婚につき、正午、天皇と共に西の間において、菊栄親睦会会員その他を招いての祝宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、正仁親王御結婚関係書類、臨時儀式録、宮内庁序報

天皇と共に吹上御所において、池田隆政・同夫人厚子と御夕餐を御会食になる。御食後、ハミリ映画「池田厚子さん全快おめでとう」を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

人日誌

二日 金曜日 午前十一時四十五分、正仁親王結婚式中祝宴の儀が行われる。天皇と共に正仁親王・同妃華子を伴われ、西の間・南の間・東の間にそれぞれお出ましになり、参集の諸員に御会釈を賜う。謁見の間において御少憩の後、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、甯子内親王と共に、北の間において祝宴に臨まれる。衆議院議長の前祝詞及び参議院議長の挙杯をお受けになる。

午後三時五十分、正仁親王結婚式中茶会の儀に臨まれる。天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃、

昭和二十九年十月

故雍仁親王妃、宣仁親王と共に西の間において、各国特命全權大使及び同夫人等より順次祝詞をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁親王御結婚関係書類、臨時儀式録、謁見録、宮内庁庁報

三日 土曜日 日本武道館開館の演武始に御臨席のため、午後二時五十六分御出門、天皇と共に同館に行啓される。御着後、弓道・相撲・剣道・柔道の各演武を御覧になる。三時五十一分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、佐藤榮作日記、日本武道館三十年、武道評論

四日 日曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、昨日結婚した東久邇盛厚・同夫人佳子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より東久邇稔彦<sup>盛厚の父</sup>に清酒及び鮮鯛代料を、同盛厚に白羽二重を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、例規録、贈賜録

六日 火曜日 第六十二次国際オリンピック委員会<sup>IO</sup>。総会開会式に御臨席のため、午後二時四十三分御出門、天皇と共に日生劇場に行啓される。四時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

夕刻、国際オリンピック委員会会長アベリー・ブランドージ及び同夫人ほか、各委員夫妻等及びオリンピック東京大会組織委員会委員夫妻等をお招きになり、北の間において天皇と共に茶会を催される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮中茶会、典式録、宮殿行事録、皇族雜録、宮内庁庁報

七日 水曜日 IOC総会に出席のため来日中のベルギー国王弟アルベール及び同妃パオラのため、表一の間において天皇と共に宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

外賓参内録、典式録、宮殿行事録、皇族雜録、宮内庁庁報

靖国神社合祀臨時大祭に参列した各都道府県代表遺族等の賜謁があり、天皇と共に賢所通用門脇にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良八の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

前田青邨に御絵をお見せになるため、侍従入江相政を差し遣わされる。○女官長日記、贈賜録

八日 木曜日 オリンピック東京大会協賛芸術展示として開催の「三大宗家いけばな展」株式会社主婦の友社主催を

御覧になるため、午前九時三十六分御出門、日本橋高島屋に行啓される。御到着後、同展総裁宣仁親王妃喜久子及び故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と共に展覧会場を御巡覧になる。その間、株式会社主婦の友社事業部副部長高村トシの説明により在日各国大使夫人等二十八名の作品を、池坊専永の説明・総理事長山本忠男の補助説明により池坊作品を、小原豊雲の説明により小原流作品を、勅使河原蒼風の説明により草月流作品を御覧になる。十時二十九分還啓される。その後、吹上御所において、宣仁親王妃よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇族御身分録、宮内庁庁報

九日 金曜日 午前、謁見の間において、元山梨英和女学校校長K・M・グリーンバンクを御引見になる。同人は、山梨英和学院創立七十五周年に際し、同県の招待により来日した。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、ノルウェー国皇太子ハラルド、及びイラン国皇弟ゴールム・レザー・パハラヴィーのため、宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内

昭和二十九年十月

録、典式録、宮殿行事録、皇族雜録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇と共に皇居正門の鉄橋にお出ましになり、皇居前広場に設置されたオリンピック聖火を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 土曜日 第十八回オリンピック東京大会開会式に御臨席のため、午後一時三十五分御出門、天皇と共に国立競技場に行啓される。式場に臨まれ、各国選手団の入場、天皇の開会宣言、聖火の入場及び点火などを御覧になる。三時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、菊と星と五輪、東京都政五十年史

十二日 月曜日 オリピック東京大会蹴球競技を御覧になるため、午後一時三十六分御出門、天皇と共に駒沢陸上競技場に行啓される。ブラジル国対アラブ連合共和国の蹴球競技前半戦を御覧になる。

三時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 水曜日 午前、拝謁の間において、新任の下総御料牧場長高野守雄、及び前任の下総御料牧場長田中二郎の拝謁をお受けになる。続いて前任の宮内庁御用掛吉川綾子の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御対面になり、結婚行事終了についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十五日 木曜日 オリピック東京大会バレーボール競技を御覧になるため、午後一時三十六分天皇と共に御出門、世田谷区の駒沢バレーボール場に行啓される。御着後、ルーマニア国対ブルガリア国の男子の試合の第五セットを、ついでソビエト連邦対ポーランド国の女子の試合の第一セット終了ま

でを御覧になる。二時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 オリンピック東京大会水泳及び飛込競技を御覧になるため、午前十一時二十分天皇と共に御出門、渋谷区の国立屋内総合競技場本館に行啓される。御着後、男子高飛び込み予選・男子二百メートルバタフライ予選競技を御覧になる。午後零時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所より神宮を御遙拝になる。ついで賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、拝謁の間において、この度タイ国へ赴任の特命全権大使粕谷孝夫及び同夫人、並びにケニア国へ赴任の特命全権大使ト部敏男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

オリンピック東京大会陸上競技を御覧になるため、午後二時十分御出門、天皇と共に国立競技場に行啓される。御着後、六種目の競技を御覧になる。三時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 火曜日 オリンピック東京大会体操競技を御覧になるため、午前九時五十分御出門、天皇と共に東京体育館に行啓される。御着後、男子自由競技Bグループの鉄棒・平行棒・跳馬・つり輪などの競技を御覧になる。十一時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

昭和二十九年十月

皇太子妃の誕生日につき、午後、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になる。ついで宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 オリンピック東京大会柔道競技を御覧になるため、午後二時五十六分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓される。御着後、重量級決勝トーナメントを御覧になる。四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十四日 土曜日 オリンピック東京大会馬術競技を御覧になるため、午前九時三十二分御出門、天皇と共に国立競技場に行啓される。御到着後、大賞典障害飛越競技を御覧になる。十一時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

オリンピック東京大会閉会式に御臨席のため、午後四時四十二分御出門、天皇と共に再び国立競技場に行啓される。六時三十分還啓される。閉会式に寄せた御歌は次のとおり。

あふぎみる聖火次第に消えゆきて旗のみしるく浮ぶ夜空に

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、毎日新聞

天皇と共に表一の間において、オランダ国王配ベルンハルト及び同国王嗣ベアトリックス王女のため、宮中晩餐を催される。なお、王配の帰国に際し、皇后よりオランダ国女王へ御贈進の波模様無地の裂地<sup>紅葉山御養蚕所製</sup>をお託しになる。これに対し、二十七日、女王より札電が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午後、吹上御所において、怪我が全快した宣仁親王妃喜久子と御対面になる。後刻、天皇も御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

病氣入院中の内閣総理大臣池田勇人に、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を賜う。○贈賜録

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。天皇・

皇后より各会員にそれぞれお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮

殿行事録

二十九日 木曜日 来る十一月一日常磐会において恒例のバザー開催につき、この日、切り花を下賜される。○贈賜録

三十日 金曜日 午前、拝謁の間において、この度コンゴ<sup>レオボル</sup>ド<sup>ドヴィル</sup>国へ赴任の特命全権大使杉浦徳及び

同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁  
序報

三十一日 土曜日 午後、吹上御所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になる。御一緒にバラ園にお出ましになり、お手ずからバラの花をお切りになり、親王妃にお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

学習院大学教授レジナルド・ホレイス・ブライス去る二十八日死去につき、この日、天皇・皇后より  
祭筵料を賜う。○恩賜録、宮内庁序報、学習院百年史

## 十一月

一日 日曜日 午前、徳仁親王の着袴の儀が行われる。儀終了後、天皇と共に拝謁の間において、童形服姿の同親王と御対面になる。この日、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、徳仁親王

昭和二十九年十一月

に鮮鯛代料・御台人形代料を賜う。これとは別に、天皇・皇后より徳仁親王にお品を賜う。また、皇太子・同妃より天皇・皇后に万那料の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午後、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援で選ばれた健康優良児童及び全日

本健康優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。同会長代理広岡知男朝日新聞社代表取締役の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

四日 水曜日 シンガリラ・ヒマラヤ展朝日新聞社主催、東京大学後援を御覧になるため、午前九時四十一分天皇と共に

御出門、日本橋高島屋に行啓される。十一時十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、第八回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞した中学生・高校生等の賜謁があり、天皇と共に

吹上正門外にお出ましになる。読売新聞社副社長高橋雄豹の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報、読売新聞

天皇と共に謁見の間において、パラグアイ国土木郵政大臣マルシアル・サマニエゴ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

皇太子・同妃主催の徳仁親王着袴の儀を祝う内宴に御出席のため、五時五十五分、天皇と共に御出門、

東宮御所に行啓される。九時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇族雜録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、オリンピック東京大会の入賞者・監督等の賜謁があり、天皇と共に西の間にお出ましになる。選手団団長大島鎌吉の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。引き続き、同大会組織委員会会長安川第五郎以下関係官公庁代表ほかの賜謁があり、天皇と共に表三の間にお出ましになり、安川会長の挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に北の間においてお茶の席を設けられ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子と共に、参会のオリンピック入賞者・監督・関係者等の話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、第十八回オリンピック競技大会報告書

午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に西の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者島田孝一前早稲田大学総長の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 金曜日 オリピック東京大会日本古美術展を御覧になるため、午前九時二十分天皇と共に御出門、東京国立博物館に行啓される。十一時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

七日 土曜日 午前、文部大臣から表彰された教育事業功労者等の賜謁があり、天皇と共に賢所通用門脇にお出ましになる。東京都立白鷗高等学校校長両角英運の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

九日 月曜日 午前、謁見の間において、ラオス国特命全権大使ニット・シンハラ及び同夫人、サウジアラビア国特命全権大使ナーセル・アル・マンクール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十日 火曜日 午前、藍綬褒章を授与された調停委員等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。東京地方家庭裁判所調停委員金末多志雄の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に赤坂御苑において、園遊会を催される。午後二時二十五分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、園遊会録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

十一日 水曜日 午前、イレエヌ・ストライカーより英語の進講をお受けになる。以後、同人よりしばしば進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

国際身体障害者スポーツ大会を御覧になるため、午後二時四十八分御出門、国立屋内総合競技場本館に行啓される。御到着後、皇太子・同妃のお出迎えをお受けになり、国際ストークマンデビル競技委員会会長ルードウィヒ・グットマンに御握手を賜う。別館に移られ、日本バスケットボール協理事鈴木正三の説明により、日本対英国のバスケットボール競技前半を御覧になる。それより同所を御出発、代々木オリンピック選手村内洋弓場に御到着になる。日本アーチェリー協会理事長小沼英治の説明により、洋弓競技を御覧になる。グットマンにお言葉を賜い、三時五十分還啓される。なお、国際身体障害者スポーツ大会開催につき、その資として財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員

会に金一封を賜う。また、次の御歌をお詠みになる。

バラリンピックを見て

楽しみのなきあけくれによるこびの力づよくもよみがへるらし

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、毎日新聞

この夏の冷害により農作物に甚大な被害を受けた北海道に、この日、天皇・皇后より御救恤金を賜う。なお、この北海道冷害に際し、十二月二十六日、災害義捐品として天皇・皇后の御料品中からの御整

理品さらし・服地・毛布等を日本赤十字社に匿名にて寄託される。○賜与録、贈賜録

十五日 日曜日 午後、吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。

両妃より、正仁親王の婚儀に際しての御贈進についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、大谷光暢及び同夫人智子、並びに去る十二日に結婚した大谷光紹及び同夫人貴代子の拝謁をお受けになる。大谷光紹の結婚に際し、天皇・皇后よりお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣神田博の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉をお賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午後、拝謁の間において、東京国立文化財研究所長田中一松及び徳川義知の拝謁をお受けになる。ついで田中の説明にて「源氏物語絵巻」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

十八日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国オレゴン州知事マーク・O・ハットフィールド及び同夫人を御引見になる。この度の来日に際し、州知事夫人より皇后にウール地の献上がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 天皇と共に表一の間において、今般離任のメキシコ国特命全権大使ラファエル・デ・ラ・コリーナ、新任のポルトガル国特命全権大使ヴィルジリオ・アルマンド・マルティンス及び同夫人、中華民国特命全権大使魏道明及び同夫人、ホンジュラス国特命全権公使ジャック・ハラリをお招きになり、午餐を催される。天皇は御風気のためお出ましにならず、この度の午餐は皇后お一方にて臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、楽部にお出ましになり、宮内庁職員総合美術展を御覧になる。特別御出品の生姜・茄子・虹鱒の御絵、皇太子撮影の写真三点、崇仁親王撮影の写真一点などを御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、朝日新聞、毎日新聞

二十七日 金曜日 天皇と共に表一の間において、デンマーク国王弟クスード及び同妃カロリーネ・マティルデ来訪につき、宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外資

参内録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 月曜日 午前、拝謁の間において、パン・アメリカン航空会社副社長サミュエル・F・プライヤー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、読売新聞

正仁親王・同妃華子の招待をお受けになり、午後六時一分御出門、天皇と共に渋谷区の常陸宮邸に行啓され、御夕餐を御会食になる。九時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

## 十二月

二日 水曜日 多摩陵・多摩東陵に御参拝のため、午前十時天皇と共に御出門になる。御到着後、天皇に続いて両陵を御拝礼になり、午後は御休所前庭において苔を御採集になる。二時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ベトナム共和国元首特使ドウオン・ヴァン・ミン及び同夫人を御引見になる。この度の来日に際し、夫妻より天皇・皇后に宝石箱一個・テーブルクロス一組の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

拝謁の間において、京都在住の堂上会総代持明院基邦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、楽部にお出ましになり、糸竹会会員による雅楽の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、糸竹会

四日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のタイ国訪問に随行する首席随員渋谷信一・東宮侍従山田康彦の拝謁をお受けになる。引き続き天皇と共に、随員の外務大臣官房儀典

長安倍勲等の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録

五日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のイラク国特命全権大使ファイサル・ハビーブ・アル・ハイザラーン、カンボジア国特命全権大使クン・ウィック及び同夫人をそれぞれ御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

中宮寺門跡の日野西光尊より、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七日 月曜日 久邇朝融五年式年祭につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

八日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のオランダ国特命全権大使ニコラス・アリ・ヨハネス・デ・フォーフト及び同夫人、インド国特命全権大使ラルジ・メロトラ及び同夫人、新任のチエコスロバキア国特命全権大使ズデネク・フルドリチカ及び同夫人、アルジェリア国特命全権大使アブデル・マレク・ベナビレス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、皇族雑録、宮内庁庁報

十日 木曜日 午後、天皇と共に花蔭亭東側にお出ましになり、第十五回全日本弓道選手権大会において優勝し天皇杯を授与された皇宮警察本部職員柳章三<sup>皇宮  
巡查</sup>の拝謁をお受けになり、天皇に続いてお言葉をお授う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十一日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のチリ国特命全権大使ロベルト・スアレ・ス・バロス及び同夫人、ベネズエラ国特命全権大使カルロス・ロドリゲス・ヒメネス及び同夫人・息女、ニュージーランド国特命全権大使エドワード・ビックモアー・エリソン・テイラー及び同夫

人・息女、新任のアルゼンチン国特命全権大使ギリエルモ・ホータ・カーノ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に御奨励金を賜い、これとは別に恒例賜金として金一封を賜う。また、皇后より、歳末無料健康相談を実施する東京都、及び財団法人結核予防会にそれぞれ金一封を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十三日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、翌十四日タイ国に出発する皇太子・同妃の暇乞いをお受けになる。なお、この度の訪問に際し、天皇・皇后より皇太子を通じ、同国王に赤地菊梅文七宝花瓶を、同王妃に銀製宝石箱御所車  
彫金を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、賜与録、外交雑録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、皇太子・同妃タイ国訪問に出発につき、天皇・皇后の御使として侍従長三谷隆信を東京国際空港に差し遣わされる。天皇と共に吹上御所において、出発の模様を中継したNHKテレビ放送を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、空港行事録

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、新任の皇室経済主管並木四郎ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報  
夕刻、天皇と共に吹上御所において、谷崎潤一郎作『春琴抄』の批評会に臨まれる。侍従長・侍従次

長のほか、侍従・侍医・女官長・女官等が参加する。十八日の御夕餐後、天皇と共に、『春琴抄』を映画化した「お琴と佐助」を御覧になり、この日と同様に批評会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

十八日 金曜日 天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、菊栄親睦会録、宣召録、宮殿行事録

この日、日本赤十字社病院救助收容患者及び恩賜財団済生会病院救助收容患者合計八千五百九十三人に手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御苑内を御散策になる。その際、この年五月に竣工の林鳥亭にお立ち寄りになり、初めて内部を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、例規録

二十一日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の侍従職御用掛天羽民雄外務省欧亜局長  
連邦課長心得及び前任の侍従職御用掛大森誠一外務大臣秘書  
官事務取扱の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

皇太子・同妃タイ国訪問より帰国につき、天皇・皇后の御使として侍従次長稲田周一侍従長  
代理を東京国際空港に差し遣わされる。御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になる。なお、タイ国国王より天皇・皇后にレコードタイ国国王御  
自作音楽入り等、タイ国王妃より皇后に水色金模様御服地の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、空港行事録、稲田周一関係資料

二十三日 水曜日 午前、拝謁の間において、柳原博光柳原家  
当主の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

皇太子の誕生日につき、午後、天皇と共に拝謁の間において、皇太子の挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、女官長始め女官、元女官の祝賀をお受けになる。○

女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、

皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁

庁報

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子・同妃のタイ国訪問に随員した首席

随員渋沢信一ほか随員の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

拝謁の間において、前任の侍医遠藤卓夫・向後勉の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 歳末につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、正仁親王・同妃華子始め皇族・

元皇族・御縁故者より、ついで宮内庁長官始め総代、女官長始め女官等より祝詞言上をお受けになる。

その後、天皇と共に表御座所において、正仁親王・同妃と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、皇族雑録

三十日 水曜日 歳末につき、午後、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王より挨拶

をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この月 向陽会に、恒例により金一封を賜う。○賜与録

昭和四十年（西曆一九六五年） 六十二歳

一月

一日 金曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、宮殿行事録、官報

二日 土曜日 午前、天皇と共に表三の間において、元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

この年の一般参賀は、昨年引き続き新宮殿造営中のため、参賀者への御会釈はなく、仮宮殿前において記帳又は名刺提出のみをお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌、典式録

三日 日曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

新年につき、天皇と共に奥一の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

午後、天皇と共に吹上御所において、この日還暦の誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 火曜日 午前、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日雍仁親王祥月命日に当たり豊島岡墓地へ女官御代拝につき、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、正仁親王妃華子と御夕餐を御会食になる。その後、正仁親王も参殿し、御対面になる。以後、この年は月に二、三回程度、概ね日曜日に吹上御所にて行われた御会食を始め、

随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。以

降、この年は概ね水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子・同妃・徳仁親王と御対面・御会食になる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、女官日誌、幸啓録

七日 木曜日 午前、拝謁の間において、今般バチカン国へ赴任の特命全権大使小川清四郎の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に吹上御所において、元宮内府御用掛島津伊楚子始め元女官等の祝賀をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

拝謁の間において、元学習院女学部教授の佐野正造、元女子学習院教授の今井熊太郎・松島彝、御学

昭和四十年一月

友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、典式録

天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 金曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。京都大学教授吉川幸次郎より「中国文学の性質」、日本学士院会員有沢広巳より「近代統計学の起源―ジョン・グラントの一つの著作について―」、同山県昌夫より「造船における技術革新」と題する進講をお聴きになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、講書始録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十一日 月曜日 元女子学習院長下村寿一去る九日死去につき、この日、天皇・皇后より祭葬料を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「鳥」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

吹上と赤坂の空を飛びかひしおほづるの姿いまも目にみゆ

儀終了後、拝謁の間において召人・選者・諸役の賜謁が、ついで内廷西玄関前において預選者の賜謁があり、天皇と共にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、歌会始録、典式録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

十三日 水曜日 午前、吹上御所において、イレーヌ・ストライカーより英語の進講をお聴きになる。

夜、英語の勉強のため、ソノシート「ミセス・ヘインズ」をおかけになる。以後、この年は水曜日を定例として、同人より英語を学ばれる。○女官日誌、内舎人日誌

去る十一日東京都大島町において発生した大火により甚大な被害を受けた東京都に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午後、山口玉糸をお召しになり、宝珠玉等を描かれる。○女官日誌

天皇と共に吹上御所において、昨年十二月タイ国を訪問の皇太子・同妃、及び正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子、鷹司平通・同夫人和子と御夕餐を御会食になる。ついで御一緒に、皇太子・同妃のタイ国訪問の記録映画及びスライドを、皇太子の説明により御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録

渋谷簗子渋谷隆教夫人、九条道孝息女、貞明皇后の妹 昨十三日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を、皇后より生花を霊前にお供えになる。○贈賜録

十五日 金曜日 成人の日に当たり、午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年成年に達した竹田

恒治恒徳王第三王子・久邇朝宏御兄朝融王第三王子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より白羽二重・万那料等をそれぞれに賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十九日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、元侍医遠藤卓夫・同向後勉と御夕餐を共にされる。

以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録  
この日、元侍医寮嘱託梅林寺こうが死去する。後日、お花料・菓子をお供えになる。梅林寺は、皇后の御出産に際し、産婆として奉仕した。○贈賜録

昭和四十年二月

二十二日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報  
午後、天皇と共に甘鯛場付近の海上において、海洋生物を御採集になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十五日 月曜日 午後、拝謁の間において、近くベネズエラ国へ赴任の特命全権大使光藤俊雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、拝謁録、宮内庁庁報  
前田青邨をお召しになり、絵の指導をお受けになる。御作品を披露された後、ツバキの写生をされる。  
以後、同人より、絵の指導や御作品に対する批評をお受けになる。○女官日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録  
二十七日 水曜日 邦彦王<sup>御</sup>父の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十九日 金曜日 午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

## 二月

一日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、ワシントン・ポスト社長キャサリン・グレハム、『ニューズウィーク』誌編集長オスボーン・エリオット及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 火曜日 午前、内廷庁舎において、財団法人結核予防会理事長山口正義より進講をお聴きになる。○女官日誌

三日 水曜日 午後、拝謁の間において、近くフィリピン国へ赴任の特命全権大使竹内春海及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、内廷庁舎において、宮内庁御用掛武者小路不二子よりフランス語の指導をお受けになる。以後、同人より、不定期にフランス語を学ばれる。○女官日誌

天皇と共に東の間において、今般衆議院の賓客として来日のフランス国国民議会議員団団長ジャン・シャマン及び同夫人ほかを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 金曜日 午前、拝謁の間において、日本赤十字社社長島津忠承より進講をお聴きになる。○女官日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 午後、吹上御所において、元女子学習院教授今井熊太郎の拝謁をお受けになり、同人自作・献上の健康器について御下問になる。○女官日誌、侍従職日誌

八日 月曜日 葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分天皇と共に御出門になり、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

九日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に映画「近代養蚕」「絹の記録」「明日ある養蚕」「絹の讃歌」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

昭和四十年二月

十一日 木曜日 午後、前田青邨参邸につき、ススキの御絵を披露される。その他の御作品についても批評・助言等をお受けになる。○女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十二日 金曜日 午後、天皇と共に吉田茂<sup>元内閣総理大臣</sup>・木戸幸一<sup>元内大臣</sup>・石坂泰三<sup>経済団体連合会会長</sup>・小泉信三<sup>元侍從職御用掛</sup>・

田島道治<sup>前宮内庁長官</sup>の拝謁をお受けになる。なお、吉田・石坂・小泉・田島は、昨年四月六日に、皇室の重

要事項に参与すべき旨の天皇の御沙汰を拝した<sup>木戸への御沙汰も予定さ。れていたが本人が固辞</sup>。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、内

廷職員進退録、葉山行幸啓録

十三日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に、去る一月二日より岡山大学医学部附属病院に入院中の池田厚子の容体について、侍従次長稲田周一より御聴取になる。なお、一月十日より三月十七日までの間に五回、天皇・皇后より池田厚子にスープ・パン等を賜い、また、三月にはお見舞金を賜う。二月十七日には、宮内庁より敗血症と診断された旨の発表があり、同日、天皇・皇后の御使として侍従徳川義寛がお見舞いのため岡山に向かい、天皇・皇后からのお言葉を池田厚子に伝達する。○侍従日誌、重要雑録、稲田周一関係資料、入江相政日記、岡山新聞、読売新聞

十五日 月曜日 午前、天皇と共に甘鯛場にお出ましになり、海洋生物を御採集になる。ついで三崎港内城ヶ島崎にて御停船になり、御昼餐をお召し上がりになる。映写機にてウミネコ等を御撮影の後、城ヶ島近海において海洋生物を御採集になり、御用邸にお戻りになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十六日 火曜日 午前十時十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十分皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 天皇と共に表一の間において、新任のラオス国特命全権大使ニット・シンハラ、スペイン国特命全権大使ルイス・ガルシア・デ・リエーラ、フランス国特命全権大使フランソワ・ミソフ及び同夫人、エクアドル国特命全権大使リシマコ・グスマン・アギーレをお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 入院中の池田厚子をお見舞いのため、午前九時四十分御出門、天皇と共に岡山県に行啓される。東京国際空港より御搭乗、機内において池田宣政<sup>厚子の夫</sup>の<sup>隆政の父</sup> 拝謁をお受けになる。岡山空港着陸後、午後零時二十五分、御泊所後楽に御到着になる。同所において池田隆政の拝謁をお受けになる。御昼食後、岡山大学医学部附属病院を御訪問になり、御休所において主治医の医学部教授平木潔及び助教大藤真より池田厚子の病状についての説明をお聞きになる。ついで厚子の病室にお入りになり、一時間余り御対面になる。その際、御持参のお見舞品を御披露になる。三時二十五分御泊所後楽にお戻りになり、お礼のため参上の池田隆政の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、岡山県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、岡山県庁所蔵資料、岡山大学医学部百年史、岡山大学学報、

山陽新聞、読売新聞

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、

侍従職日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十時三十分、天皇と共に御泊所後楽を御出発、岡山大学医学部附属病院を訪問され、医学部教授平木潔より池田厚子の病状をお聞きになり、ついで病室において厚子と御対面になる。御昼食のため一旦

昭和四十年二月

御泊所に戻られた後、天皇と共に再び厚子をお見舞いになる。午後四時四十分御泊所後楽にお戻りになる。ついでお礼のため参上の池田隆政の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山

県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前九時五十分、天皇と共に御泊所後楽を御出発になり、岡山大学医学部附属病院を御訪問、池田厚子をお見舞いになる。午後零時十分御泊所後楽に戻られ、池田隆政の拝謁をお受けになる。一時三十五分、天皇と共に御泊所を御出発になり、岡山空港より御搭乗、東京国際空港に着陸後、四時十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岡山県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 徳仁親王の風気のため、この日誕生日を迎えた同親王との御対面がお取りやめとなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十四日 水曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のフィリピン国特命全権大使ハシント・C・ボルハ及び同夫人、グアテマラ国特命全権大使カルロス・エンリケ・モリーナ・ムニョス及び同夫人をそれぞれ御引見になる。ついで天皇と共に表一の間において、フィリピン国・グアテマラ国両大使夫妻、同じく新任のサウジアラビア国特命全権大使ナーセル・アル・マンクル、イラク国特命全権大使ファイサル・ハビーブ・アル・ハイザランをお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、拝謁の間において、近くギリシャ国へ赴任の特命全権大使大隈涉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 午前、拝謁の間において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会副会長新居善太郎より、同会についての進講をお聴きになる。○女官日誌、内舍人日誌、母子愛育会五十年史

来る三月一日、北海道炭礦汽船株式会社夕張鉱業所坑内爆発事故去る二十  
二日発生の被災者合同葬執行につき、この日、天皇・皇后より同合同葬にお花料を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

### 三月

二日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、勤務先からドイツ連邦共和国への留学を命じられて近く出発の竹田恒正恒徳王第  
一王子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に万那料及びお品を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 木曜日 東伏見周子依仁親  
王妃 十年式年祭及び久邇邦久御  
兄三十年式年祭につき、午前、お出ましをお控えになる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 土曜日 満六十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間において吉田茂・田島道治・石坂泰三・小泉信三、続いて元皇太后宮女官等、元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元皇太后宮女官・元女官

等の祝賀を順次お受けになる。

午後、常侍官候所脇階段下において元女孀等の祝賀を、奥一の間において元御用掛服部豊子ウァイオ、リニスト

続いて元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授松島彝及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、鷹司平通・同和子、東久邇信彦・同文子と御晚餐を御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

元帝室博物館総長土岐政夫昨五日死去につき、この日、天皇・皇后より祭染料を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

八日 月曜日 祐子内親王の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録  
スウェーデン国王妃ルイーゼ昨七日崩御につき、この日より十二日まで五日間の宮中喪が発せられる。

また、この日、天皇・皇后より国王グスタフ六世アドルフに弔電を発せられ、これに対し十二日、答電がある。九日には、天皇・皇后より弔問使として侍従松平潔を同国大使館に差し遣わされる。十三日には、天皇・皇后の御使として同国駐劔特命全権大使鶴岡千仞を葬儀に参列させられ、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。これに対し後日、外務大臣を通じ、国王より謝意が伝えられる。なお、去る六日、天皇・皇后より国王にお見舞電報を発せられる。○侍従職日誌、内舍人日誌、上奏モノ控簿、外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、皇親録、宮内庁庁報、官報

十日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎え成年に達した東久邇信彦の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に白羽二重・万那料・洋服地・菓子を賜う。○女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、例規録、贈賜録

午後零時五十四分天皇と共に御出門、東京宝塚劇場に行啓され、オリンピック東京大会記録映画試写会に御臨席になる。先着の皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と共に映画「東京オリンピック」総監督 市川崑を御覧になり、四時十四分還啓される。○女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 金曜日 午前、拝謁の間において、近くインド国へ赴任の特命全権大使板垣修及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、ニジェル国法務大臣イスーフ・サイドウ・ジェルマコーエ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、この日、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十五日 月曜日 午後、吹上御所において、東伏見慈治御弟・同夫人保子及び同息女邦子と御対面になる。今般結婚の邦子より暇乞いをお受けになり、お祝いの品を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

元宮内庁御用掛河合りょう子去る十日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糒料・切り花・菓子を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午前、天皇と共に東の間において、日本政府の招待により来日中のスペイン国外務大臣フェルナンド・マリーア・カステイェリヤ・イ・マイース及び同夫人、ビリャベルデ侯爵クリス

昭和四十年三月

トバル・マルテイネス・ボルデイーウ及び同夫人カルメン同国主席フランシスコ・フランコ・バアモンドの息女並びに随行者を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十七日 水曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、渋谷有教去る一月死去した渋谷蓬子の子息の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 金曜日 午後、天皇と共に初めて宮内庁病院昨年五月に落成、同年九月開院にお出ましになる。まずレントゲン

撮影をお受けになり、ついで臨時皇居造営部造営課長小幡祥一郎の説明により特別病室等を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に吹上御所において、元侍従野口明制作の油彩画を御覧になり、同人の説明をお聞きになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十一日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前、内廷庁舎において、日本赤十字社社長川西実三及び前社長島津忠承の拝謁をお受けになる。川西に菓子をお品・菓子をそれぞれ賜う。○女官日誌、典式録、賜与録、贈賜録

二十三日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に表一の間において、今般離任のオーストラリア国特命全権大使ローレンス・ルバート・マッキンタイヤー及び同夫人、ペルー国特命全権大使アニバル・ポンセ・ソープレヴィーリヤ及び同夫人、ギリシャ国特命全権大使アレキシス・S・リアティス及び同夫人、セイロン国特命全権大使モハメッド・モハムード・マハーフ及び同夫人をお招きになり、午餐

を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前十時二十七分御出門、日本赤十字社有功章及び特別社員章の親授式に名譽総裁として御臨席のため、東京プリンスホテルに行啓される。御休所において、名譽副総裁の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面、衆議院議長船田中、日本赤十字社社長川西実三以下の拝謁をお受けになる。ついで式場にお出ましになり、社長の挨拶に続き有功章及び特別社員章を御親授になり、左のお言葉を賜う。

本日ここに、赤十字の事業に貢献し、功労のあつた皆さんに接し、日本赤十字社有功章並びに特別社員章を授与できましたことを大変うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来八十八年の永きにわたり、人道と博愛を基調として、幾多の有益な事業を行なつてまいりましたが、赤十字の人道的な任務は、今後ますます重要性を加えて来るものと思ひます。

社員並びに役職員の皆さんは、今後ともよく協力して、赤十字の活動を大きく推進し、国民の期待にこたえらるとともに、各国の赤十字と提携して、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう切に望みます。

社長の奉答、厚生大臣の祝辞<sup>厚生政務次官代読</sup>の後、御退場になる。皇族妃休所において赤十字関係外国人に御会釈を賜い、さらに写真場において記念撮影に臨まれる。十一時四十二分還啓される。○女官日誌、内舎

人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

宣仁親王・同妃喜久子結婚三十五周年並びに宣仁親王還暦につき、天皇と共に、皇太子・同妃始め皇

族及び御親族をお招きになり、お祝いの御晩餐を催される。表一の間において御会食になり、続いて表三の間において茶菓を供される。その後、西の間において、女官長・侍従等による合唱などの余興を楽しまれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 土曜日 午前、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、昨夜のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

二十八日 日曜日 午前十時八分天皇と共に御出門、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に行啓される。十時十七分還啓される。同式を行うに当たり、天皇・皇后より厚生省に生花を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁序報、官報

二十九日 月曜日 午後、吹上御所において、宮内庁御用掛高木多都雄をお相手に英語を学ばれる。以後、随時、同人をお相手に英語を学ばれる。○女官日誌

三十日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、新任の侍従長稲田周一、及び前任の侍従長三谷隆信の拝謁をお受けになる。ついで新任の侍従次長永積寅彦の拝謁をお受けになる。なお、この日退職の三谷に対し、天皇・皇后より御紋付銀花瓶を賜い、皇后よりもお品を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁序報、官報

拝謁の間において、近くオーストリア国へ赴任の特命全権大使法眼晋作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

英国女王メアリー<sup>同国女王エリザベス二世の叔母</sup> 去る二十八日薨去につき、この日、天皇・皇后より同国女王エリザベス二世に弔電を発せられる。これに対し翌三十一日、答電をお受けになる。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

三十一日 水曜日 正午前、拝謁の間において、新任の管理部長西原英次、書陵部長山田康彦、東宮侍従長戸田康英、及び本日付をもつて退職の前任の管理部長三井安弥、侍従職参事村井長正ほかの拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、三井安弥日記

#### 四月

三日 土曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

四日 日曜日 午前、米国滞在中の島津貴子へ御送付の録音テープに音声を収録される。正午過ぎ、

宮内庁御用掛高木多都雄参殿につき、島津貴子への御贈進品を託される。○女官日誌、侍従日誌

午後、吹上御所に東伏見慈洽、及び今般結婚の西川昇・同夫人邦子<sup>東伏見慈洽息女</sup>参殿につき、御対面になり、

お礼の言上をお受けになる。ついで婚礼写真を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

吹上御所に東久邇信彦・同秀彦・同真彦・同優子参殿につき、天皇と共に花蔭亭付近を御散策になる。

ついで吹上御所において正仁親王・同妃華子も加わり、信彦の成年を祝うため御夕餐を御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 午後一時三十八分吹上御所御発、なでしこ会主催の有田焼展示即売会を御覧になるため、高松宮邸に行啓される。御着後、光輪閣のシルクギャラリーにお出ましになり、会長宣仁親王妃喜久子の先導・説明にて、正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御一緒に有田

焼の展示品を御覧になる。ついで高松宮御殿にお出ましになり、石灯籠を御覧になる。再び光輪閣にお出ましになり、茶菓をお召し上がりになる。四時二十五分還啓される。その後、参殿の宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午後、吹上御所に愛媛県知事久松定武参殿につき、拝謁をお受けになる。久松より母

貞子 島津忠義息女、御母久邇倪子の姉 の米寿に際してのお祝い拝受につきお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌

八日 木曜日 午前、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、去る五日までしこ会主催の有田焼展示即売会にてお買い上げの陶器をお受け取りになる。○女官日誌、内舍人日誌

午後、今般財団法人結核予防会総裁 故雅仁親王妃勢津子 より表彰された結核予防事業功労者五十六名の賜謁があ

り、賢所通用門脇にお出ましになる。結核予防会理事長山口正義より挨拶をお受けになる。○女官日誌、

内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十日 土曜日 午前、拝謁の間において、前ラオス国駐劄特命全權大使蓮見幸雄より同国についての進講を聴取される。○女官日誌、内舍人日誌

十一日 日曜日 午前、吹上御所に東久邇聡子参殿につき、天皇と共に拝謁をお受けになる。その際、

目黒区上目黒への移居につきお礼言上をお受けになる。なお、今般移居の東久邇稔彦・同夫人聡子に對し、天皇・皇后より万那料及び清酒等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十三日 火曜日 正午、天皇と共に謁見の間において、来日のラオス国皇太子ヴオン・サヴァン及び同妃と御会見になる。その後、天皇と共に北の間において宮中午餐を催される。なお御会見の際、ラ

オス国皇太子・同妃から天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはスカーフが贈られる。天皇・皇后からは、ラオス国皇太子に梅樹金蒔絵輪島塗広蓋を、同妃に早雲寺文台模様絹服地を御贈進になる。

また、前日の入京に際しては、皇后より同妃に花束の御贈進がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、儀礼軌範

**十六日 金曜日** 午前、第十五回身体障害者福祉大会に当たり厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労があった者等の賜謁があり、天皇と共に内廷西玄閣にお出ましになる。厚生政務次官徳永正利の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

**十七日 土曜日** 午前九時四十分御出門、東京日本橋三越本店において開催中の第七回花の文化展社団法人

園芸文化協会主催、農林省・文部省・厚生省・東京都・読売新聞社後援 に行啓される。御着後、株式会社三越社長松田伊三雄・取締役本店長岩波東

平ほかのお出迎えをお受けになる。エレベーターにて七階会場にお出ましになり、社団法人園芸文化協会会長島津忠重の先導、同協会常務理事加藤光治の説明にて、参加各団体により出陳の花弁を御覧になる。終わって一同の見送りの中を御発、十時四十分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

幸啓録、宮内庁庁報

**十九日 月曜日** 午前、天皇と共に新宮殿工事現場にお立ち寄りになる。臨時皇居造営部造営課長小幡祥一郎より造営工事についての説明をお聞きになり、工事現場を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿造営記録

午後、東京大学教授原寛を召され、吹上御苑のサクラ四十六本をお見せになり、御自身も原の説明に

昭和四十年四月

て観察される。○女官日誌、内舎人日誌

二十日 火曜日 静岡・神奈川両県行啓のため、午前八時五十分天皇と共に御出門、原宿駅を御発車、三島駅にて御降車になる。国立遺伝学研究所を御視察の後、午後二時十五分お一方にて同所をお発車になり、東洋レーヨン株式会社三島工場に御着、二階御休所において社長森広三郎より工場概況について奏上を、常務藤吉次英より製造工程についての説明をお受けになる。自動車にて第三製糸工場に移動され、工場長森静男の説明にて二階において溶融紡糸を、一階において巻取、延伸・引伸、撰別、梱包、製品を順次御覧になる。三時御発、社会福祉法人静岡恵明学園に向かわれる。御着後、園長杉村伸平の先導にて沿革概要資料、児童の寢室を御覧になる。また室内における幼児のお絵描き、庭における幼児のブランコ遊び、小中高在園生、卒園生数名を御覧になる。一旦国立遺伝学研究所に戻られた後、天皇と共に同所を御発、三島駅御発、小田原駅御着、五時御泊所富士屋ホテルに御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、静岡神奈川両県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁

国立遺伝学研究所年報

第十回ユニセフ協力募金を実施中の財団法人日本ユニセフ協会に対し、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁  
庁報

二十一日 水曜日 午前十時四十分、天皇と共に御泊所富士屋ホテルを御出発、強羅公園、駒ヶ岳頂上、芦ノ湖に行啓される。終わって小田原駅を御発車、原宿駅にて御降車、午後三時五十分、皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、静岡神奈川両県下行幸啓録、幸啓録、宮内

庁報、官報

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、社団法人海外電力調査会の招待により来日のペルー国灌漑庁長官ルイス・ソルデイ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二十二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時十八分還啓される。春の園遊会は昭和三十五年以来の開催となり、以後、毎年春と秋に園遊会を催されることが恒例となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

二十四日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のニュージーランド国特命全権大使ジョン・ヴィアン・スコット及び同夫人、オランダ国特命全権大使ロバート・ハンス・ファン・ヒューリック及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アブドゥル・ラヒーム及び同夫人並びに息女二人、インド国特命全権大使バドルツェイン・ティアブジー及び同夫人並びに息女を順次御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見の間において、イラン国皇妹アシュラフ・パハラヴィー及び同夫人メーディ・ブーシェーリと御会見になる。ついで天皇と共に西の間において、宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、天皇・皇后よりイラン国皇妹に金時絵色紙箱平目地扇を、同夫君に九谷焼飾皿竹に桜花の図を御贈進になる。なお、五月一日、皇妹及び同夫君より天皇・皇后に、日本国滞在中の款待についての礼電が寄せられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈

答録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

二十七日 火曜日 天皇と共に表一の間において、新任のニュージーランド国特命全権大使ジョン・ヴィヴィアン・スコット及び同夫人、オランダ国特命全権大使ロバート・ハンス・ファン・ヒューリック及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ラヒーム及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、宝鏡寺において第二十三世浄照明院宮二百年遠忌法要が行われるに当たり、盛菓子・香華料を同寺に賜う。○贈賜録

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、元東宮御学問所御用掛加藤真一より、老寿長命体操についての説明をお聞きになり、同人の指導により体操をされる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十九日 木曜日 天皇誕生日につき、午前、祝賀に先立ち、天皇と共に内廷庁舎の御座所において、東久邇文子等四名より祝詞言上をお受けになる。その後お一方にて、奥一の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。

正午、奥二の間において内宴を催される。お出ましの際に、廊下において元女官の賜謁がある。皇太子妃及び正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・甯子内親王と御会食になり、御食後、皇太子以下も加わり果物をお召し上がりになる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国特命全権大使等が出席する。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王より祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五月

四日 火曜日 午後、拝謁の間において、近く赴任のドイツ連邦共和国駐劄特命全権大使内田藤雄及び同夫人、コロンビア国駐劄特命全権大使吉村又三郎及び同夫人、フィンランド国駐劄特命全権大使大郷正夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 金曜日 鳥取県において開催の昭和四十年年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に岡山県・鳥取県・島根県・京都府に行啓される。午前九時二十分御出門、東京駅より新大阪駅まで初めて新幹線に御乗車になる。新大阪駅にてお乗り換え、岡山駅にて御降車、午後四時三十一分御泊所延養亭に御到着になる。御着後、池田隆政の拝謁をお受けになる。御夕食後お一方にて、茶室の天井の竜の雲を起す図を写生される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

去る三日元御歌所参候杉溪由言死去につき、天皇・皇后より祭筵料を賜う。また、皇后より菓子を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

八日 土曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所延養亭を御出発、岡山大学医学部附属病院に入院中の池田厚子をお見舞いになる。終わって同所を御発、午後零時三十分岡山駅を御発車、米子駅にて御降車、四時二十九分御泊所東光園に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁

報、官報

九日 日曜日 午前十時六分天皇と共に御泊所東光園を御出発、西伯郡大山町上楨原の植栽地における植樹行事に臨まれ、国土緑化推進委員会委員長船田中衆議院議長・鳥取県知事石破二郎等の介添えにより、天皇に続き、ダイセンマツ三本をお手植えになる。ついで大山町博労座のお手播地に臨まれる。

天皇はダイセンマツの種子を、皇后は鳥取県山林種苗協同組合理事長山本晃の介添えによりオキノヤマスギの種子をお播きになる。隣接の鳥取県立大山観光会館において御昼食の後、米子市に戻られ、日本パルプ工業株式会社米子工場、鳥取県立整肢学園を御視察になる。午後三時五十六分御泊所東光園に戻られる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十日 月曜日 午前十時十三分天皇と共に御泊所東光園を御出発、米子駅を御発車、境港駅にて御降車、境港木工団地、境港外港を御視察になる。境港市役所において御昼食の後、鳥根県へ向けて境港駅を御発車になる。松江駅にて御降車になり、鳥根県庁に訪問され、市内を御展望になる。ついで松江護国神社に立ち寄られ、参道において御拝礼の後、鳥根県身体障害者総合指導所を御視察になる。午後五時十六分御泊所長楽園に御到着になる。その後、出雲教主管北島英孝三条西公正息女、御姪・同夫人洋子及びその子息等の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一日 火曜日 午前十時三十七分天皇と共に御泊所長楽園を御出発、玉造温泉駅を御発車、大社駅にて御降車になり、出雲大社に行啓される。御到着後、天皇の御拝礼に続き、本殿浜床下の御座において御拝礼、神前に玉串を奉奠される。御昼食後、鳥根県立中央病院を御視察になり、ついで八束郡宍道町のお野立所より宍道湖の景観を御展望になる。午後四時四十六分御泊所長楽園に戻られる。○

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報

十二日 水曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所長楽園より鳥取県へ向けて御出発になる。松江駅を御発車、浦安駅にて御降車になり、伯耆酪農農業協同組合を御視察になる。御昼食後、浦安駅を御発車、上井駅にて御降車、鳥取県立母来寮、郡是製糸株式会社倉吉工場を御視察になる。午後三時三十九分御泊所依山楼岩崎旧岩崎旅館に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十三日 木曜日 午前九時二十三分天皇と共に御泊所依山楼岩崎を御出発になり、上井駅を御発車、鳥取駅にて御降車、鳥取県庁に行啓される。御昼食後、鳥取県立鳥取西高等学校を御視察、鳥取県護国神社に立ち寄られ、参道において御拝礼になる。ついで紙子谷お野立所に臨まれ、集団梨園の様子を御覧の後、午後二時三十六分御泊所小銭屋に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 金曜日 天皇と共に御泊所小銭屋の屋上より鳥取市内を御展望になる。午前九時三十分天皇と共に御泊所を御出発、鳥取ゴルフクラブに行啓され、鳥取砂丘を御展望になる。次に鳥取大学農学部附属砂丘利用研究施設を御視察になる。午後零時三十分鳥取駅を御発車、京都府へ向かわれ、二条駅にて御降車、五時二十六分京都大宮御所に御到着になる。その後、天皇と共に拝謁の間において京都府知事蟻川虎三ほかの拝謁をお受けになり、続いて御車寄において旧堂上華族及び門跡寺院住職等に御会釈を賜う。さらに、渋谷有教及び同夫人笑子等の拝謁をお受けになる。御夕餐後、大谷光暢及び同夫人智子御妹ほかとの御対面又は拝謁がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内

庁庁報、官報

十五日 土曜日 御朝餐後、天皇と共に仙洞御所の庭園を御散策になる。お戻りの際、この日葵祭を御一緒に観覧する故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子、甯子内親王と御対面になる。午前九時五十七分天皇と共に京都大宮御所を御発、建礼門前の御観覧席にお着きになり、葵祭の行列を御覧になる。十時四十三分一旦京都大宮御所にお戻りになる。同五十八分お一方にて御出門、西芳寺<sup>寺</sup>にお出ましになり、天竜寺管長関牧翁の先導、住職藤田价浩の説明により庭園を御巡覧になる。午後零時四十八分京都大宮御所に還御される。御昼食後、天皇と共に京都府知事蜷川虎三ほかの拝謁をお受けになる。続いて東伏見慈洽・九条成子<sup>故九条道秀夫人</sup>等との御対面又は拝謁がある。二時八分天皇と共に京都大宮御所を御出発になり、京都駅より東京駅まで新幹線に御乗車、六時二十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十七日 月曜日 午前、貞明皇后例祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、拝謁の間において、新任の侍従職御用掛大川美雄、及び前任の侍従職御用掛本野盛幸の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官日誌

二十日 木曜日 元皇太后宮職御用掛山中貞子去る十八日死去につき、この日、天皇・皇后より祭料を賜う。また別に天皇・皇后より切り花・菓子<sup>菓子</sup>を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

この日及び翌二十一日、仁和寺において第五世覚性法親王八百年遠忌、第六世守覚法親王七百五十年遠忌、第二十一世覚深法親王二百五十年遠忌法要執行につき、盛菓子・香華料を同寺に賜う。○贈賜録

二十一日 金曜日 大相撲五月場所十三日目を御覧になるため、午後三時十分天皇と共に御出門、蔵前国技館に行啓される。幕内力士土俵入りから結びの一番まで御覧になり、五時五十一分還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 日曜日 午後零時十九分天皇と共に御出門、白金迎賓館に行啓され、朝彦会故朝彦親王の縁故者による親睦会の

会合に御臨席になる。会員と余興を御覧になり、また記念写真の撮影、模擬店でのお食事等をしてお過ごしになり、四時十三分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、今般来日の赤十字国際委員会委員長サムエル・ゴナール及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交雑録、宮内庁庁報

謁見の間において、今般来日のフィリピン国大統領夫人エヴァンジェリーナ・M・マカバガル、及びその母イレネア・マカラエグ、同国下院議長夫人アンジェレス・ビリヤリアルを御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、財団法人藤楓協会理事長浜野規矩雄より、貞明皇后の御事蹟を中心とした「藤楓協会とらについて」の進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、藤楓協会創立三十周年誌

二十六日 水曜日 午前、拝謁の間において、本日付にて退職する侍従職御用掛天羽民雄ほかの拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午前、拝謁の間において、ドイツ連邦共和国より帰国の特命全権大使成田勝四郎

及び同夫人、エルサルバドル国へ赴任の特命全權大使鈴木耕一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、藍綬褒章を受章の文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。受章者鈴木董富士見高等小学校長の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

楽部にお出ましになり、糸竹会会員による黄鐘調音取、海青楽、西王楽破、越天楽残楽三返、拾翠楽、千秋楽の演奏を御鑑賞になる。○女官日誌、内舍人日誌

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、オランダ国経済使節団名誉団長ヨハネス・マルテン・デン・アイル経済大臣、並びに同団長シドニー・ジェームス・ファン・デン・ベルフ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後一時二十一分御出門、第一百回常磐会総会に御臨席のため、椿山荘に行啓される。御着後、御休所において故雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・元皇族と御対面になる。ついで会員一同による「金剛石」の合唱の中、懇親会場の噴水の間にお出ましになり、柳沢よしな緒方知三郎の助手によるフラワーマジック並びに緒方知三郎東京アマチュア・マジシャンズクラブ会員、東京大学名誉教授の緒方料理教室を御覧になり、柳兼子昭和三十九年度日本芸術院恩賜賞受賞者、国立音楽大学教授の独唱をお聴きになる。その後、茶菓をお召し上がりになり、斎藤英美のエレクトーン演奏をお聴きになる。終わって御散策になり、今般完成の滝を御覧になる。四時椿山荘御発、還啓される。その後、椿山荘より献上の茶釜を御覧になる。○女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

この日、岡山大学医学部附属病院に入院中の池田厚子退院につき、御使として女官小川梅子を岡山市に差し遣わされる。退院の池田厚子に天皇・皇后より万那料等を、また入院加療中に諸事尽力の者に皇后より菓子・清酒を賜う。○女官日誌、重要雑録

二十九日 土曜日 午後五時五十四分天皇と共に御出門、ホテルオークラに行啓され、菊栄親睦会の会合に御臨席になる。この度の会合は、正仁親王及び東久邇盛厚の結婚祝い、並びに甯子内親王・朝香誠彦・東久邇信彦の入会歓迎のために催され、会員一同と御会食、御歓談になる。八時五十六分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 夕刻、天皇及び正仁親王・同妃華子と共に紅葉山御養蚕所を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十一日 月曜日 午後、吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子菊栄親睦会幹事と御対面になり、去る二十九日の菊栄親睦会会合への御臨席につき、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

## 六月

一日 火曜日 午後、天皇と共に生物学御研究所に隣接の水田にお出ましになり、皇太子妃・徳仁親王と御対面になる。ついで天皇のお田植えの模様を皇太子妃・徳仁親王と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、バラ園拝見のため参殿の龍田正子龍田徳彦夫人、朝融王第一王女、御姪・木下英子木下雄三夫人、朝融王第四王女、御姪・

昭和四十年六月

久邇典子

朝融王第五王女、御姪

の拝謁をお受けになり、ついでお一方にて御絵を披露される。○女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌

三日 木曜日 毎日新聞社主催の文化財保護法制定十五周年記念「人間国宝新作展」を御覧のため、

午前九時四十三分天皇と共に御出門、台東区の上野松坂屋に行啓される。染織・人形・漆芸・金工・

陶芸各部門の作品を御覧になる。十時四十九分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸

啓録、宮内庁庁報、官報

四日 金曜日 午前、拝謁の間において、近くルーマニア国へ赴任の特命全権大使重光晶及び同夫人

の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、典式録、宮内庁庁報

紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る一日福岡県嘉穂郡稲築町の山野炭鉱爆発事故により多数の犠牲者発生につき、天皇・皇后より通

商産業省に御救恤金を賜う。八日、ベルギー国王ボードワン一世及び同王妃ファビオラより天皇・

皇后にお見舞電報が寄せられ、十日に答電を寄せられる。○賜与録、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

五日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のメキシコ国特命全権大使フェルナンド・カサス・ア

レマン、ブラジル国特命全権大使アルヴァロ・テイシエイラ・ソアーレス及び同夫人をそれぞれ御引

見になる。○女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 月曜日 午後一時二十六分御出門、ホテルニューオータニにおいて開催の御卒業四十五周年あ

げぼの会に行啓される。幹事伏見朝子の先導にて御休所の桂一の間において御少憩の後、お庭にお出

ましになり、記念撮影に臨まれる。ついで会場の桂二の間・桂三の間に御臨席になり、会員と御歓談

になる。四時四分還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、先着のイレース・ストライカー、宮内庁御用掛高木多都雄のお出迎えをお受けになり、御一緒に内部を御覧になる。五齡蚕、上蔟蚕、天蚕等を御披露になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

去る七日元帝室博物館総長杉栄三郎死去につき、天皇・皇后より祭料を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午前、天皇と共に吹上御所において池田隆政の拝謁をお受けになる。なお、同夫人厚子はこの年一月二日より岡山大学医学部附属病院に入院中のところ、去る五月二十八日に退院する。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後六時五十三分天皇及び皇太子・同妃と共に御出門、丸の内ピカデリー劇場に行啓され、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の慈善有料試写会に御臨席になる。米国ミュージカル映画「サウンド・オブ・ミュージック」を御覧になり、また本作品の監督ロバート・ワイズに御会釈を賜う。十時七分還啓される。なお、行啓に際し、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会に対し、天皇・皇后より金一封を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十三日 日曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官日誌、内舎人日誌

十四日 月曜日 葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分天皇と共に御出門、十一時三十五分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、天皇と共に笠島の磯にお出ましになり、海洋生物を御採集になる。立石御茶屋において御昼食後、御帰邸になる。以後、葉山御用邸御滞在中、折に触れて海上等における天皇の

昭和四十年六月

海洋生物御採集に同行される。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十七日 木曜日 午後、前田青邨参邸につき、先日来描かれた梅の下絵をお見せになり、また、昨十六日に描かれた鯛の御絵を再びお描きになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十日 日曜日 故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子参邸につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、親王妃と共に、前田青邨より絵の指導をお受けになる。梅の御絵を御披露になり、また、庭の花から、皇后はザクロの花、故雍仁親王妃はホタルブクロ、宣仁親王妃はハナシヨウブ、崇仁親王妃はドクダミを選び、写生をされる。親王妃が退出する際に、それぞれの雅号の印を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 水曜日 午前十時十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時四十分皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十六日 土曜日 午前十時十四分御出門、第二十回フーロレンス・ナイチンゲール記章授与式に名誉総裁として御臨席のため、日本赤十字社に行啓される。御着後、御休所において名誉副総裁の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、衆議院議長船田中、日本赤十字社社長川西実三、同副社長田辺繁雄の拝謁をお受けになる。その後、「あこがれの赤十字」奏楽の中、式場にお出ましになり、開式の言葉、「君が代」斉唱、社長挨拶に続き、ナイチンゲール章記及び記章を岡山赤十字病院看護部長内山喜久代、水戸赤十字病院看護部長潮田きよ、高山赤十字病院高等看護学院講師牧田きせに御親授になる。ついで、左のお言葉を賜う。

このたび、内山喜久代、潮田きよ、牧田きせの三人の方々が、赤十字国際委員会から、看護婦

としての最高の名誉であるフロレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年の献身的奉仕のたまものであり、本人の榮譽はもとより、わが国としても、まことに喜ばしいことでもあります。

受章の方々が、今後も更にこの道に尽し、後進の指導に当たるとともに、他の看護婦の皆さんも、これを模範としてその職に励み、広く内外の人々から信頼と感謝を受けるよう、切に希望します。

続いて衆議院議長ほかの祝辞、受章者内山喜久代の答辞、看護学生による御歌「四方の国」の合唱がある。終わって、「あこがれの赤十字」奏樂の中を御退場になり、御休所隣室において赤十字関係の外国人参列者五名に御会釈を賜う。十一時二十六分還啓される。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十八日 月曜日 午前、拝謁の間において、エルサルバドル国より帰国の特命全権大使林不二雄の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、今般東久邇信彦・同文子外遊につき、兩名のほか同秀彦・同優子をお招きになり、御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

二十九日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に表一の間において、今般離任のレバノン国特命全権大使エミール・マタール及び同夫人、新任のインド国特命全権大使バドルディン・ティアブジー及び同夫人、メキシコ国特命全権大使フェルナンド・カサス・アレマン、ブラジル国特命全権大使アルヴァロ・テイシエイラ・ソアールレス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和四十年七月

内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇と共に皇太子・同妃始め皇族・御親族十八方をお招きになり、映画と奇術の催しを行われる。吹上御所において映画「那須高原の植物」を御覧になり、ついで花蔭亭において緒方知三郎ほかの奇術を御覧になる。再び吹上御所に移られ、茶菓を供される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、幸啓録、宮内庁庁報

昨二十八日、オランダ国女王ユリア及び王配ベルンハルトより天皇に、王嗣ベアトリックス<sup>王女</sup>とクラウス・フォン・アムスベルグの婚約を伝える親電が寄せられる。これに対しこの日、天皇・皇后より祝電を寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

## 七月

一日 木曜日 午前、拝謁の間において、新任の侍従田中直の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 土曜日 午前、天皇と共に花蔭亭東側にお出ましになり、紅葉山御養蚕所の主任宮崎清及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

五日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米大統領特別顧問<sup>東南アジアの開発に関する特別顧問</sup>ユージン・ロバート・ブラック及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、

天皇と共に吹上御所において、来る十三日より渡欧の鷹司平通及び同夫人、及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雜録

六日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のニュージールランド国首相兼外務大臣ケース・ジャツカ・ホリオーク及び同夫人を御引見になる。その後、天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。今般の来日に際し、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、首相夫妻より天皇・皇后に献上があり、皇后には羊皮の敷物が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、賜与録、外交贈答録、宮内庁庁報、儀礼軌範

七日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、この日内着帯を終えた旨の挨拶をお受けになる。天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ五種交魚代料を、皇后より同妃に帯を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、礼宮御誕生関係書類、幸啓録

八日 木曜日 午前、謁見の間において、新任のギリシャ国特命全権大使ニコラス・ハジ・ヴァシリウ、ペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・フェレイロス・バルタ、オーストラリア国特命全権大使アレン・スタンレー・ブラウン及び同夫人をそれぞれ御引見になる。○女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、来る十三日より渡欧の鷹司和子と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 月曜日 去る十日ギリシャ国王コンスタンティノス二世の第一王女<sup>アレクシア</sup>誕生につき、この

昭和四十年七月

日、天皇・皇后より同国国王及び王妃に祝電を発せられる。これに対し二十一日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

十三日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に北の間において、今般離任のクウェート国特命全権大使スレイマン・アル・モハマッド・アル・サネ、エルサルバドル国特命全権大使ワルテル・ベネケ・メデイーナ、新任のギリシャ国特命全権大使ニコラス・ハジ・ヴァシリウをお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

十五日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、本日付にて自治省へ転出の前侍従白戸厚の拝謁をお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、恩賜録、宮内庁序報、官報

那須御用邸に行啓のため、午前十時二十分天皇と共に御出門、午後一時七分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報  
天皇と共に附属邸付近を御散策になり、植物を御調査になる。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の御調査に同行される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十日 火曜日 午後、天皇と共に、去る十六日付にて侍従を拝命の諏訪部信の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、例規録

二十一日 水曜日 御夕食後、米国滞在中の島津貴子より送付のカセットテープにて島津久永・同夫人貴子、及び同子息禎久の声をお聞きになる。○女官日誌

二十三日 金曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌

誌、侍従職日誌、典式録

二十七日 火曜日 一時御帰京のため、午後一時十三分、天皇と共に那須御用邸を御出門、四時皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、今般近衛護輝と婚約内定の甯子内親王、及び崇仁親王妃百合子と御対面になる。その際、天皇・皇后より甯子内親王に、万那料及びお祝いの品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 木曜日 午前、謁見の間において、新任のカンボジア国特命全権大使ヘム・ヘン・ファンラシイを御引見になる。○女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 土曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時二十分天皇と共に御出門、午後一時九分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

## 八月

三日 火曜日 午後、去る五月二十八日に岡山大学医学部附属病院を退院の池田厚子、及びその夫池田隆政参郎につき、天皇と共に御対面になる。滞在中の東久邇秀彦・同真彦・同優子も加わり、御昼餐及び御夕食を御会食になる。池田隆政は翌四日に退邸し、厚子は静養のため暫く御用邸に滞在する。

昭和四十年八月

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

五日 木曜日 午前、天皇と御一緒に池田厚子、東久邇彦彦・同真彦・同優子を伴われ、弁天温泉方面へ御散策にお出ましになる。苔を御採集の後、天皇及び東久邇彦彦等とお別れになり、池田厚子と共に高雄温泉に赴かれ、御休息になる。それより御登山を終えた天皇及び東久邇彦彦等をお出迎えになり、御一緒に御用邸に戻られる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

六日 金曜日 夕刻、皇太子参邸につき、天皇と共に御対面になる。ついで東宮侍従長戸田康英、東宮侍従八木貞二、東宮侍医星川光正の拝謁をお受けになる。皇太子は八日まで附属邸に滞在する。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十三日 金曜日 一時御帰京のため、午前九時四十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時三十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那

須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日の中華民国外交部長沈昌煥及び同夫人を御引見になる。その際、沈外交部長より天皇・皇后へ墨絵掛軸及びサンゴ首飾が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になる。同妃は昨夏の負傷以来一年経過したことを契機として、その際のお礼言上のため参殿する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昨十三日前内閣総理大臣池田勇人死去につき、天皇・皇后より柩前使兼賜物使として侍従徳川義寛を池田邸に差し遣わされ、祭葬料及び生花を賜う。十七日の自由民主党葬には、葬場の日本武道館に天

皇・皇后より御使として侍従松平潔を差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報

十五日 日曜日 午前十一時四十八分天皇と共に御出門、日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十四分還啓される。なお全国戦没者追悼式に当たり、天皇・皇后より厚生省に生花を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

昨日ヨーロッパより帰国の鷹司平通及び同夫人和子参殿につき、天皇と共に吹上御所において御対面になり、御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 月曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時二十分天皇と共に御出門、午後一時九分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、天皇と共に御車寄前において栃木県教育委員会委員長荻野英二以下の委員に御会釈を賜う。以後、那須御用邸御滞在中、折に触れて栃木県関係者等に御会釈がある。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に参殿者休所にお出ましになり、宮内記者会会員に御会釈を賜い、幹事より挨拶をお受けになる。皇后は記者からの御絵についての質問に対し、春から大作に取り組み、秋までに完成を予定している旨をお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、天皇記者会見

午後、山口玉糸を召され、掛け軸に富士山の絵を描かれる。翌日も山口を召され、掛け軸に富士山の絵を描かれる。○女官日誌

昭和四十年九月

日本貝類学会理事中上川小六郎昨二十四日死去につき、この日、天皇・皇后より菓子を賜う。○贈賜録、ちりぼたん

二十七日 金曜日 午後、服部豊子参邸につき、拝謁をお受けになり、同人の欧州旅行時のアルバムを御覧になる。○女官日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

## 九月

一日 水曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、那須行幸啓録

三日 金曜日 午前九時四十八分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時三十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

宮内庁病院にお出ましになり、去る八月三十一日より左大腿部の皮様囊腫の手術のため入院中の正仁親王をお見舞いになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、朝日新聞、読売新聞

夕刻、天皇と共に、国際大学協会第四回総会に参会する各国加盟大学代表者等をお招きになり、茶会を催される。表三の間において、国際連合教育科学文化機関<sup>ユネスコ</sup>執行委員会議長モハメッド・エル・ファッシ以下の関係者を御引見になり、内閣総理大臣始め関係閣僚等の拝謁をお受けになる。ついで西の間において、各国加盟大学代表者等を順次御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

宮中茶会、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

五日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王と御対面に

なり、米国及びカナダ国訪問へ出発の挨拶をお受けになる。崇仁親王は、米国カリフォルニア州クレアモントにおいて開催の第十一回国際宗教史会議への出席並びに国際親善のため、同妃・内親王を伴い、この日より十月四日まで両国を訪問する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、崇仁親王殿下同妃百合子殿下・甯子内親王殿下アメリカ合衆国・カナダ御訪問記録、宮内庁庁報

午後、正仁親王のお見舞いのため、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになり、正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 月曜日 宮内庁病院に入院中の正仁親王に、この日、サギソウの切り花を御贈進になる。○女官日誌

七日 火曜日 午前、拝謁の間において、前任のチェコスロバキア国駐劔特命全権大使三宅喜二郎及び同夫人、新任の同国駐劔特命全権大使徳永太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、正仁親王妃華子と御対面になり、この日正仁親王退院につきお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より正仁親王に、万那料・果物等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

九日 木曜日 久邇倂子<sup>御母</sup>の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌  
夕刻、吹上御所において、この日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従

職日誌、贈賜録

十日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る十二日の二条天皇八百年式年祭に先立ち、

昭和四十年九月

上智大学教授吉村茂樹より二条天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

ドイツ連邦共和国特命全権大使ヘルベルト・ドイツトマンこの月六日死去の葬儀につき、この日、天皇・皇后

より柩前に花環をお供えになる。同人の死去に際して、駐西独大使を通じ、天皇・皇后からの弔意が

同夫人に伝達される。○外交慶弔録、賜与録、外交贈答録

十二日 日曜日 午前、二条天皇八百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午後、謁見の間において、新任のペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・フェレイ

ロス・バルタ及び同夫人・息女、ベトナム共和国特命全権大使グエン・ドワイ・クワンを御引見にな

る。○女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、拝謁の間において、近くソビエト連邦へ赴任の特命全権大使中川融及び同夫

人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

今般台風二十三号により甚大な被害を受けた兵庫県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内

庁庁報

十五日 水曜日 正午過ぎ、天皇と共に表御座所において、正仁親王・同妃華子と御対面になり、退

院後初参内の同親王より治療の経過をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に表一の間において、今般離任のイタリヤ国特命全権大使マウリリオ・コッピニ及び同夫人、

エチオピア国特命全権大使ヨハネス・レダ・エグジ及び同夫人、新任のペルー国特命全権大使ホセ・

カルロス・フェレイロス・バルタ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

社会福祉法人聖心愛子会会長聖園テレジア昨十四日死去につき、この日、霊前に切り花をお供えになる。聖園テレジアは、大正二年にドイツ国より来日し、聖霊会の修道女としてキリスト教布教に努め、秋田市に邦人修道女会の聖心愛子会、養護施設の聖園天使園を設立し、その後、日本国籍を取得した。ついで神奈川県藤沢市に拠点を移して活動し、終戦後は社会事業功労者として天皇・皇后にしばしば拝謁した。○贈賜録

十六日 木曜日 午後、第十七回保健文化賞<sup>第一生命保険相互会社主催、厚生省・朝日新聞厚生文化事業団・NHK厚生文化事業団後援</sup>の受賞者等の賜謁があり、

天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣鈴木善幸の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 午前、拝謁の間において、新任の宮内庁御用掛加賀美秀夫の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

今般『昭憲皇太后実録』完成<sup>抄本一部四十五冊がこの月天皇・皇后それぞれに奉呈</sup>につき、天皇・皇后より書陵部関係員一同に酒肴料を、元書陵部長西原英次ほかにお品を賜う。○恩賜録

二十日 月曜日 午前、拝謁の間において、オーストラリア国より帰国の特命全権大使太田三郎及び同夫人、メキシコ国へ赴任の特命全権大使石黒四郎及び同夫人、メキシコ国より帰国の特命全権大使林馨及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 天皇と共に表一の間において、東京にて開催中の英国博覧会に出席のため来日中の英国王女アレキサンドラ及び同夫君アングス・オグルビーをお招きになり、宮中午餐を催される。

その際、天皇・皇后に御贈進があり、皇后には書籍『音楽の歴史』等が贈られる。後日、王女より天皇・皇后それぞれに、この度の歓待についての謝意を表する書簡<sup>九月二十三日付</sup>が寄せられる。なお、昨二十

日の来日及び三十日の離日に際しての送迎は、故雍仁親王妃勢津子が務める。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、外賓参内録、外交雑録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に拝謁の間において、近くヨーロッパ諸国を訪問の正仁親王・同妃の随員成田勝四郎ほかの拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁親王同妃両殿下ヨーロッパ諸国等御訪問記録

二十二日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日岐阜・愛知両県行啓より帰京した皇太子、並びに同妃・徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

今般台風二十四号・二十五号に伴う集中豪雨により甚大な被害を受けた福井県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午後一時十分天皇と共に御出門、東京都立園芸高等学校、ついでキャノンカメラ株式会社下丸子工場に行啓され、御視察になる。四時十四分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 土曜日 午後六時十六分御出門、日本赤十字社主催日本放送協会・NHKサービスセンター後援 外務省・ブルガリア国大使館・ユーゴスラビア国大使館協賛の

血液事業資金造成のためのスラブ歌劇団特別演奏会に御臨場のため、東京文化会館に行啓される。日本赤十字社社長川西実三の先導にて、玄関外において同副社長、日本放送協会会長・同副会長、東京文化会館館長のお出迎えを、ホワイエにおいて皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子のお出迎えをお受けになる。ついでユーゴスラビア国特命全権大使・同夫人、ブルガリア国特命全権大使・同夫人と御握手になり、二階のお席に着かれる。八時十五分に第一部終了、御休所において御休憩になる。第二部開始前に皇太子妃は退出する。この日、ヴェルディ作曲歌劇「アイーダ」第二幕より「勝利の合唱」等の演目を御鑑賞になる。九時三十九分還啓される。なお、行啓に当たり、日本赤十字社に金一封を賜う。この日の純益金は、同社の血液事業資金に繰り入れられる。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に東の間において、第二回アジア司法会議に参加のため来日のオーストラリア国高等法院長官ガーフィールド・エドワード・ジョン・バーウィック及び同夫人始め各国代表夫妻を御引見になる。最高裁判所長官横田喜三郎より、各代表の紹介をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 来る十月一日より昭和四十年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 正午過ぎ、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に吹上御所において、この日東京国際空港にて英国王女アレキサンドラ及び同夫君を見送りの後参殿した故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓  
参内録

正仁親王・同妃華子結婚満一年のお祝いとして、この日、天皇・皇后より万那料及びお品を賜う。○  
女官日誌、贈賜録

十月

一日 金曜日 午前、天皇と共に両陛下御座所において、新任の侍従職事務主管松平潔侍従、及び前任の侍従職事務主管徳川義寛侍従の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

拝謁の間において、昨九月三十日付にて宮内庁御用掛を退職した高木多都雄の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

二日 土曜日 元宮内庁御用掛服部広太郎去る九月三十日死去につき、この日、天皇・皇后より祭料を賜い、霊前に菓子・切り花を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

増上寺徳川家墓地内の静寛院宮親子内親王墓改葬に当たり祭典執行につき、この日、天皇・皇后より菓子をお供えになる。なお、改葬により、従来芝公園内に所在の増上寺徳川家墓地が、同寺西方の新墓地に移転する。○贈賜録

四日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、社会福祉法人恩賜財団済生会理事長犬丸実より

済生会の事業についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

米国及びカナダ国訪問よりこの日帰国の崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王をお出迎えのため、女官長保科武子・女官今城誼子を東京国際空港に差し遣わされる。○女官日誌、宮内庁庁報

五日 火曜日 午前、拝謁の間において、近くイタリヤ国へ赴任の特命全権大使与謝野秀及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に新宮殿建築現場にお出ましになる。まず正殿北側において臨時皇居造営部長高尾亮一より工事の進行状況等をお聞きになり、それより鉄骨組み立て完了の正殿内部に進まれ、御視察になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿造営記録、皇居新宮殿

午後、天皇と共に拝謁の間において、昨四日米国及びカナダ国より帰国の崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 水曜日 午後、藍綬褒章を受章の調停委員等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。東京家庭裁判所調停委員阿比留兼吉の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、来る十二日よりヨーロッパ諸国を訪問の正仁親王・同妃華子、並びに去る四日米国及びカナダ国より帰国の崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王のため御晩餐を催され、皇太子・同妃始め皇族・御親族と御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前九時四十六分御出門、国立近代美術館において開催中の「院展芸術の歩み―戦前―」

展に行啓される。館長稲田清助の先導にて、同館次長河北倫明並びに前田青邨の説明をお聞きになりつつ、日本画五十三点と彫刻十点を御覧になる。一階では前田の作品「京名所八題」や中原悌二郎作の彫刻「若きカフカス人」等を、二階では横山大観作「瀟湘八景」等を、中二階では安田靉彦作「黄瀬川の陣」等を、三階では横山の作品「生々流転」等を、四階では小倉遊亀作「浴女」等を御巡覧になる。その後、四階館長室において稲田館長より挨拶をお受けになる。十一時十四分還啓される。本展覧会は、再興院展がこの年第五十回展を迎えたことを記念し、再興院展に参加の主要作家連の代表作を集め、その歩みを回顧し再認識することを目的に開催された。○女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午後、徳仁親王と共に生物学御研究所の水田において、天皇の稲刈りの模様を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 土曜日 午後一時四十分御出門、常陸宮邸に行啓される。御着後、先着の皇太子妃、正仁親王・同妃華子と御対面になり、親王・同妃のヨーロッパ旅行の支度を御覧になる。皇太子妃退出後、茶菓を共にされる。四時十分還啓される。○女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十日 日曜日 山梨市の有泉善三<sup>元臨時皇后  
宮職御用掛</sup>墓地において紅葉山会が建立した同人の記念碑除幕式挙行に当たり、この日、清酒を賜う。○贈賜録

十一日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御対面になり、翌十二日よりヨーロッパ諸国訪問へ出発の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁

親王同妃両殿下ヨーロッパ諸国等御訪問記録

天皇と共に吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、着帯のお礼言上をお受けになる。この日午

前、東宮御所において御帯進献の儀御帯進献者の宣仁親王より皇太子妃に進献及び着帯の儀が、また、皇居において賢所皇靈殿

神殿に着帯奉告の儀がそれぞれ行われる。なお、同妃の着帯に当たり、天皇・皇后より皇太子及び同妃に鮮鯛代料をそれぞれ賜い、御帯進献者の宣仁親王に白縮緬・肴料を賜う。また、皇太子・同妃より天皇・皇后に、鮮鯛代料及び小戴が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、臨時祭祀録、礼宮御誕生関係書類、幸啓録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 午前十時天皇と共に御出門、多摩陵大正天皇陵・多摩東陵貞明皇后陵に行啓され、天皇に続き、

両陵を御拝礼になる。御昼食後、日本国有鉄道技術研究所、ついで神代植物公園を御視察になる。午後四時六分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、官報

十五日 金曜日 午前十時二十分天皇と共に御出門、日本武道館に行啓され、政府主催の国民参政七十五周年・普通選挙四十周年・婦人参政二十周年記念式典に御臨席になる。十一時還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に謁見の間において、日本のキリスト教団の招請により来日したドイツ福音主義教会総会議長クルト・シャルフ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、拝謁の間において、新任の参事官小畑忠、書陵部長井下田孝一の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

この年数え年で八十八歳を迎えた元内閣総理大臣吉田茂に、天皇・皇后よりお祝いとして同人邸に御

使を差し遣わされ、御紋章入宮中杖鳩杖を賜う。○賜与録、贈賜録

十七日 日曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、謁見の間において、ギッタ・デイトマンドイツ連邦共和国特命全權大使故ヘルベルト・デイトマンの夫人を御引見に

なる。○女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、靖国神社霊壘奉安祭に各都道府県代表沖繩を含むとして参列した遺族の謁謁があり、天皇と共に賢所

通用門脇にお出ましになる。同社権宮司池田良八の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 戦後二十周年に際して靖国神社に御参拝のため、午前十時六分天皇と共に御出門、

同社に行啓される。御到着後、天皇の御拝礼に続き、本殿御拝座に進まれ、御参拝になり、玉串を奉奠される。十時五十分還啓される。御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料及び神饌料をお供えになる。

また、翌二十日に同社において財団法人日本遺族会主催の終戦二十周年記念全国戦没者大慰霊祭執行につき、天皇・皇后より同会に金一封を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、神宮及神社諸件、賜与録、宮内庁庁報、官報

日本バラ会にバラを御出品になる。○女官日誌

二十日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、第四回日英定期協議のため来日の英国外務大臣マイケル・スチュアート及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に拝謁の間において、去る四日米国及びカナダ国訪問より帰国の崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王の随員今城登<sup>式部</sup>・同加藤弓子<sup>宮内庁</sup>の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

皇太子妃の誕生日につき、天皇と共に拝謁の間において、皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、幸啓録

午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を受章の厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣鈴木善幸の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に表三の間において、元宮内次官大谷正男始め松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

拝謁の間において、日本画家平福百穂作の秋の草の六曲屏風二双を御覧になる。○女官日誌  
二十二日 金曜日 午後、全国公立小中学校婦人校長会東京大会に参加の女性校長約六十名の賜謁があり、賢所前にお出ましになる。代表者の東京都新宿区立落合第五小学校長日下部しげより挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

翌二十三日より岐阜県下へ行幸啓につき、天皇と共に吹上御所において皇太子と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報

昭和四十年十月

二十三日 土曜日 岐阜県において開催の第二十回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて県内事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前十時二十五分御出門、原宿駅を御発車、岐阜駅にて御降車になり、午後四時五十三分御泊所万松館に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十四日 日曜日 午前十時天皇と共に御泊所万松館を御出発、岐阜県身体障害者更生指導所を御視察になる。終わって御泊所にお戻りになり、御昼食をお召し上がりになる。ついで岐阜県総合運動場陸上競技場を御訪問になり、第二十回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場になる。その後、株式会社社後藤孵卵場を御視察になり、午後四時四十六分御泊所万松館に還御される。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 月曜日 午前九時三十七分天皇と共に御泊所万松館を御出発、関市民会館に行啓され、国体剣道競技高校の部を御覧になる。なお、この度の行啓に際し、次の御歌をお詠みになる。

わかもの声はりあげてひとうちとうちこむ竹刀の音のさえたり

それより美濃関駅を御発車、郡上八幡駅にて御降車になり、郡上八幡観光センターにおいて御昼食、周囲を御展望になる。ついで城山相撲場に臨まれ、国体相撲競技高校団体戦及び個人戦を御覧になる。終わって郡上八幡駅を御発車、岐阜駅にて御降車になり、午後四時二十分御泊所万松館にお戻りになる。その後、五時五十四分天皇と共に御泊所を御出発、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子の招きにより、グランドホテル岐阜において御夕食を御会食になる。八時三十六分御泊所にお戻りになる。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 火曜日 午前十時天皇と共に御泊所万松館を御出発、岐阜県立岐阜豊学校を御視察になる。  
なお、この度の行啓に際し、次の御歌をお詠みになる。

きく耳をもたぬ人らの鼓笛隊むねふたがるる思ひこそすれ

次に穂積町営バレーボールコートに臨まれ、国体バレーボール競技高校女子の部を御覧になる。穂積町役場において御昼食の後、美津濃株式会社養老工場を御視察になる。ついで濃飛護国神社にお立ち寄りになり、参道より御拝礼になる。次に大垣市スポーツセンターを御訪問になり、国体体操競技高校女子及び男子の部を御覧になる。終わって午後四時四十九分、御泊所万松館にお戻りになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 水曜日 午前九時四十六分天皇と共に御泊所万松館を御出発になり、岐阜駅を御発車、多治見駅にて御降車、多治見市民センターに行啓され、美濃焼三試験研究機関合同展<sup>国体に協賛して開催</sup>を御覧になる。ついで岐阜県陶磁器試験場において御昼食の後、土岐市立西陵中学校を御視察になる。次に土岐市民センターを御訪問になり、国体ウェイトリフティング競技一般の部を御覧になる。終わって土岐市駅を御発車、岐阜駅にて御降車になり、午後四時七分御泊所万松館に戻られる。御着後お一方にて、岐阜県陶磁器試験場より献上の皿五枚に絵を描かれる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十八日 木曜日 午前十時四分天皇と共に御泊所万松館を御出発、岐阜県総合運動場陸上競技場に行啓され、国体陸上競技男子ハンマー投げ決勝などを御覧になる。終わって岐阜駅を御発車、原宿駅にて御降車になり、午後五時十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

昭和四十年十一月

奉日誌、岐阜県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になり、昨二十八日還幸啓につき挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十一日 日曜日 常磐会のバザーに、吹上御苑のバラ等約九十本を賜う。○女官日誌、贈賜録

## 十一月

三日 水曜日 午後、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援にて選出の健康優良児童及び健康

優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。同会長美土路昌一朝日新聞の社長の

挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内

庁庁報

四日 木曜日 午前、第九回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援を受賞の中学生・高校生等の賜謁があ

り、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。読売新聞社代表取締役副社長小林与三次の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

五日 金曜日 午後零時二十五分御出門、日本赤十字社関東山静支部連合社員大会に御臨席のため、

歌舞伎座に行啓される。御休所において名誉副総裁の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対

面になり、日本赤十字社社長川西実三、副社長田辺繁雄、神奈川県支部長内山岩太郎の拜謁をお受けになる。それより名誉総裁として式場に臨まれる。平和宣言、式辞に続き、日本赤十字社有功章、特別社員章を御親授になる。社長特別表彰の後、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社関東山静支部連合社員大会に臨み、日頃から赤十字の事業に尽力されている皆さんに、親しく接することができましたことを、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来八十八年の永い間、各国赤十字社と提携し、博愛と人道とをもとにして、世界の平和と人類の幸福の実現に努めてきましたが、その使命はますます重要性を加えてくると思います。

今後も、社会の人々の深い理解と支援とを得て、更に、赤十字の活動を大きく推進し、いつもの成果をあげられることを望んでやみません。

ついで奉答の辞、社長挨拶、厚生大臣祝辞<sup>厚生事務次官代読</sup>がある。式後、御休所において茶菓をお召し上がりになる。それより二階のお席に着かれ、芸術祭参加大歌舞伎「新薄雪物語」を御鑑賞になる。四時四十五分還啓される。○女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、事業年報（日本赤十字社）

天皇と共に吹上御所において、昨四日オーストラリア国より帰国の大谷光暢及び同夫人智子と御夕食を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のネパール国特命全権大使バラット・ラージ・バンドリイ及び同夫人、ナイジェリア国特命全権大使アツバ・アンナス・ババ・ガナ及び同夫人、イタリア国特命全権大使アルベリコ・カサルディ及び同夫人をそれぞれ御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁

昭和四十年十一月

見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を受章の文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者阿部義宗<sup>学校法人弘前学院理事長</sup>の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

九日 火曜日 午前、天皇と共に表三の間において、来る十四日の淳仁天皇千二百年式年祭に先立ち、元正倉院事務所長和田軍一より淳仁天皇御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

天皇と共に表一の間において、今般離任のマレーシア国特命全権大使サイド・シェフ・シャハブディン及び同夫人、新任のオーストラリア国特命全権大使アレン・スタンレー・ブラウン及び同夫人、ベトナム共和国特命全権大使グエン・ドワイ・クワン、ネパール国特命全権大使ブラット・ラージ・バングリイ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、米国タイム社主筆ヘドリー・ドノバン及び同夫人を御引見にする。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 水曜日 午前十時五十六分天皇と共に御出門、国立教育会館虎ノ門ホールに行啓され、産業教育八十年記念式典に御臨席になる。十一時四十三分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。二時二分御出門、天皇と共に赤坂御苑

に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十八分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、幸啓録、宮内庁序報、官報

内廷庁舎において、円照寺門跡の山本静山、中宮寺門跡の日野西光尊、法華寺門跡の久我高照の拝謁をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

十一日 木曜日 午前九時四十六分御出門、日本橋高島屋において開催の「はじめて公開される名利三門跡 円照寺、中宮寺、法華寺 大和の尼門跡展」主婦の友社主催、文部省・奈良県・奈良県教育委員会後援に行啓される。八階サロン

ギャラリーにおいて宣仁親王妃喜久子本展 総裁・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子のお出迎えをお受

けになり、円照寺門跡の山本静山、中宮寺門跡の日野西光尊、法華寺門跡の久我高照に御会釈を賜う。

ついで主婦の友社社長石川教雄の先導にて、各寺の外観写真、三門跡の生け花の展示、付近の史跡紹介、行事紹介、文化財を、各門跡の説明をお受けになりつつ御巡覧になる。終わって一階にお立ち寄りになり、三妃と共に各種売場を御覧になる。十一時十五分還啓される。還啓後、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、この日の行啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌、

幸啓録、宮内庁序報

午後、内廷庁舎において、初代モロッコ国特命全権大使タイエブ・セブティ、新任のウルグアイ国特命全権大使パウテイスタ・オチョテーコ及び息女二人をそれぞれ御引見になる。○女官日誌、内舍人日誌、

謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

十二日 金曜日 夕刻、天皇及び皇太子・崇仁親王・同妃百合子と共に表三の間において、来る十六日のマダガスカル国大統領来日に先立ち、同国の自然に関する映画「マダガスカル島の生物」を御覧

昭和四十年十一月

になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報

十三日 土曜日 午前、拝謁の間において、日本赤十字社社長川西実三より、映画「ソ連へ招かれて」を御覧になりつつ進講をお聴きになる。○女官日誌、内舎人日誌

十四日 日曜日 午前、淳仁天皇千二百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、マダガスカル国駐箚特命全權大使萩原徹より、

同国についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁  
報

十六日 火曜日 午前九時四十二分天皇と共に御出門、東京国際空港に行啓され、国賓として来日のマダガスカル国大統領フィリベール・チラナ及び同夫人をお出迎えになる。空港行事の後、夫人と御同乗になり、十一時一分皇居に御到着になる。引き続き天皇と共に謁見の間において、大統領夫妻と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはマダガスカル共和国勲章大十字章が贈られる。なお、大統領夫妻の入京の際、夫人に花束をお贈りになる。

天皇と共に、大統領夫妻のため宮中晚餐及び宮中夜会を催される。午後七時三十分、北の間において宮中晚餐を催される。御食後、東の間において御贈進品が披露され、天皇・皇后より大統領に九谷焼喰籠<sup>菓子</sup>を、同夫人に絹服地<sup>菊も</sup>を御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進があり、

皇后には金製腕輪、金製ブローチ、木製物入れ箱、バナラとその製品<sup>籠入</sup>、同国産物標本の書籍が贈られる。引き続き九時二十分より天皇と共に宮中夜会を催される。なお、二十三日の大統領夫妻の帰国

に際しては、夜間のためお見送りの行幸啓はなく、内閣総理大臣佐藤栄作以下が見送る。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、幸啓録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十七日 水曜日 午後、天皇と共に表三の間において、侍従職御用掛富山一郎より、同人参加の米国における学術会議についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

十八日 木曜日 午後、吹上御所において、松平信子・同豊子信子の子息松平一郎の夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 土曜日 午後、文部大臣より表彰の教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。私立富山女子高等学校監藤井義天の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、厚生省環境衛生局長館林宣夫より、公害についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

二十四日 水曜日 午後、吹上御所において、宮内庁職員総合美術展を参観のため参内した元宮内庁御用掛高木多都雄の拝謁をお受けになる。○女官日誌

二十五日 木曜日 午前、宮内庁職員総合美術展を御覧になるため、天皇と共に楽部にお出ましになり、御自身が出品されたススキ御屏風のほか、たけのこ・ねこやなぎの御絵二点、徳仁親王のほか職員等の作品を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、錦芳集、皇室二十年

吹上御所において、鷹司和子と御昼餐を御会食になる。午後、奥一の間において、宮内庁職員総合美

術展を参観のため参内した御同級生、元皇后宮女官・元皇太后宮女官の拝謁をお受けになり、別室にて茶菓を賜う。その後、美術展の参観を終えた鷹司和子と茶菓を共にされる。○女官日誌、内舎人日誌

ベルギー国王ボードワン一世より去る二十三日の太皇太后エリザベートの崩御を報じる天皇宛ての親電<sup>昨二十四日付</sup>が寄せられ、この日、天皇・皇后より国王に弔電を發せられる。また、天皇・皇后の弔問使として

侍従山本岩雄をベルギー国大使館に差し遣わされる。三十日にベルギー本国において行われる葬儀には、天皇・皇后の御使として同国駐在大使を参列させられ、柩前に花環をお供えになる。なお、去る十九日には、太皇太后の御病気に際し、天皇・皇后より国王にお見舞電報を發せられる。これに対し、二十三日に答電がある。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

二十六日 金曜日 午前、吹上御所において、梅の御大作十二枚のほか鷺、菖蒲等の御絵を前田青邨に御披露になり、批評をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に謁見の間において、近く離任のキューバ国特命全権大使ギリエルモ・レオン・アンティッチ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、拝謁の間において、アラブ連合共和国より帰国の特命全権大使倭島英二及び同夫人、デンマーク国より帰国の特命全権大使高木広一及び同夫人、ガーナ国より帰国の特命全権大使大城斉敏、アルジェリア国より帰国の特命全権大使瓜生復男及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後六時五十二分天皇と共に御出門、有楽座に行啓され、社会福祉法人恩賜財団済生会主催の慈善有

料試写会に御臨席になる。米国のミュージカル映画「メリー・ポピンズ」を御覧になり、九時二十五分還啓される。なお、行幸啓に際し、天皇・皇后より済生会に金一封を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、宮内庁病院院長兼侍医長村山浩一の拝謁をお受けになる。この日午後、懐妊中の皇太子妃が宮内庁病院に入院する。○女官日誌、侍従日誌

三十日 火曜日 午前零時二十二分、皇太子妃が出産し親王が誕生する。同四十分頃、上直の側近奉仕者より、親王誕生の報告をお聞きになる。十時過ぎ、拝謁の間において、京都在住堂上会総代唐橋在知の拝謁をお受けになった後、天皇と共に表御座所において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に表一の間において、今般デンマーク国から帰国の特命全権大使高木広一より、同国の情勢、特に正仁親王・同妃華子の回国訪問の模様についての進講をお聴きになる。

午後、天皇及び皇太子と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになり、ついで故雍仁親王妃勢津子始め皇族・元皇族・御縁故者、皇室の重要事項への参与を命じられた田島道治・石坂泰三・小泉信三の祝賀をお受けになる。続いて内閣総理大臣・衆議院副議長・参議院議長・最高裁判所長官の祝賀をお受けになる。

御夕食後、天皇と共に吹上御所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、親王誕生につき祝詞言上をお受けになる。なお、この日、御使として女官長保科武子を宮内庁病院に差し遣わされる。また、親王の誕生に際し、天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ五種交魚代料を賜う。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、礼宮御誕生関係書類、宮殿行事録、幸啓録、典式録、進講録、官報、稲田周一関係資料

昭和四十年十二月

十二月

一日 水曜日 午後、謁見の間において、今般同志社女子大学創立記念式に参加のため来日した同大  
学名誉教授フランシス・ベントン・クラブを御引見になる。同人は、大正七年宣教師として来日し、  
翌年同志社女学校専門学部の教授となる。昭和十六年大東亜戦争のため帰国するが、終戦後再び来日  
し、三十二年に停年退職となるまで、同校及びその後身の同志社女子大学等において教鞭を執った。

○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午後、宮内庁病院にお出ましになり、院長村山浩一の拝謁をお受けになる。二階御静  
養室において出産後の皇太子妃をお見舞いになり、新誕の皇孫と初めて御対面になり、皇太子妃にお  
庭のバラの花束を御贈進になる。その後、楽部にお出ましになり、糸竹会会員による盤渉調音取、青  
海波、白柱、越天楽残楽三返、蘇莫者破、千秋楽の演奏を御鑑賞になる。○女官日誌、内舎人日誌、礼宮御誕  
生関係書類、糸竹会

三日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日ヨーロッパ諸国等の訪問より帰国した正  
仁親王・同妃華子と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、正仁  
親王同妃両殿下ヨーロッパ諸国等御訪問記録

五日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日の  
雍仁親王例祭への女官御差遣についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人  
日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に宮内庁病院にお出ましになる。先着の皇太子よりお出迎えをお受けになった後、皇

太子妃の主治医東京大学教授小林隆より説明をお聞きになり、また、東宮大夫鈴木菊男より関係医師の紹介をお受けになる。ついで皇太子妃をお見舞いになり、新誕の皇孫と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 月曜日 皇孫誕生第七日につき、午前八時五十分宮内庁病院において浴湯の儀が行われ、十一時命名の儀が行われる。皇孫の親王は、ふみひと文仁と命名され、あやのみや礼宮と称する。命名の儀と同時刻、賢所皇霊殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われる。また、天皇・皇后の御使として女官長保科武子を東宮御所に差し遣わされ、皇太子・同妃それぞれに鮮鯛代料を、文仁親王に鮮鯛代料及び御紋付御初召一重を御贈進になる。正午前、天皇と共に内廷庁舎表御座所において皇太子と御対面になり、この日の命名の儀についてのお札言上をお受けになる。

午後、天皇及び皇太子と共に拝謁の間において、宮内庁長官以下より祝詞言上をお受けになる。次に天皇と共に表三の間において、内閣総理大臣及び同夫人ほか国務大臣・参議院議長・衆議院副議長議長は病・最高裁判所長官等の祝賀をお受けになる。なお、祝賀者には西の間において酒肴が供される。気のた  
め不参

夕刻、天皇及び皇太子と共に表三の間において、皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。六時、天皇と共に北の間において、内宴を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、重要雑録、幸啓録、皇孫文仁親王御誕生関係記録、礼宮御誕生関係書類、臨時祭祀録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

八日 水曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、正仁親王・同妃のヨーロッパ諸国等訪問の随員成田勝四郎以下の拝謁をお受けになる。続いて同随行員の賜謁があり、天皇と共に常侍官候所脇廊下にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に表一の間において、今般離任のノルウェー国特命全権大使エイギル・ニーゴールド及び同夫人、ガーナ国特命全権大使ウイリアム・ペイドウ・アンサー、新任のナイジェリア国特命全権大使アツバ・アンナス・ババ・ガナ、イタリア国特命全権大使アルベリコ・カサルディ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、

宮内庁序報

元女官東貞子去る六日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糝料・切り花・菓子を賜う。○恩賜録、

贈賜録、宮内庁序報

十日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃のヨーロッパ諸国等訪問の随員

東園基文侍従職  
参事の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、去る三日にヨーロッパ訪問より帰国した正仁親王・同妃華子、及び皇太子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司平通・同夫人和子、池田隆政と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報

十三日 月曜日 天皇と共に表一の間において、今般離任のドミニカ共和国特命全権大使カルロス・フェデリコ・ペレス・イ・ペレス及び同夫人、タイ国特命全権大使ウイトウーン・ハンサウエーサー及び同夫人、ルーマニア国特命全権大使イオン・オブラドヴィイチ、ホンジュラス国特命全権公使ジャック・ハラリをお招きになり、午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、

宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

去る十一月十八日カンボジア国元首ノロドム・シハヌークの第四王子チャクラポン結婚につき、この

日、天皇・皇后から祝意を同元首に伝えるよう御下命があり、翌十五日に宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。なお、翌年一月一日、同国駐在大使を通じ、天皇・皇后より同元首にお祝品の有田焼濁手花瓶竹の図、十二代酒井田柿右衛門作をお贈りになる。○上奏モノ控簿、外交贈答録、外交慶弔録、賜与録

**十五日** 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

元掌典長室町公藤去る十三日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糝料を賜う。また別に、天皇・皇后より菓子を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

**十七日** 金曜日 午前、拝謁の間において、ボリビア国より帰国の特命全権大使川崎栄治、ウルグアイ国より帰国の特命全権大使高橋明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐の御陪食を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、幸啓録、宮内庁庁報

**二十日** 月曜日 この日、日本赤十字社の事業御奨励、並びに医療・児童福祉事業に対する補助として、天皇・皇后より金一封を下賜される。また、皇后より、財団法人結核予防会に事業御奨励のため金一封を、歳末無料健康相談を実施する東京都に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

**二十一日** 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、今般岡山県へお成りの際に池田厚子より託された手紙をお受け取りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

昭和四十年十二月

舍人日誌、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、拝謁の間において、オーストラリア国へ赴任の特命全権大使千葉皓及び同夫人、シリア国へ赴任の特命全権大使吉岡俊夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、拝謁の間において、柳原博光<sup>柳原家  
当主</sup>の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

皇太子の誕生日につき、天皇と共に拝謁の間において、皇太子の挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、女官等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、贈賜録、幸啓録、宮内庁庁報

歳末につき、日本赤十字社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者の合計九千四百九十一人に、手拭い一筋ずつを下賜される。また、向陽会に金一封を下賜される。○賜与録、贈賜録、事業年報

(日本赤十字社)

二十五日 土曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十七日 月曜日 午前、内廷庁舎において、新任のエチオピア国特命全権大使・ペトロス・サハルー、エルサルバドル国特命全権大使サルヴァドル・ハウレギ、キューバ国特命全権大使マヌエル・クエル

ヴォ・メンデス及び同夫人をそれぞれ御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

『新輯明治天皇御集』昭和三十一年刊行及び『新輯昭憲皇太后御集』この年刊行完成につき、正午頃、天皇と共に拝謁の間において、明治神宮宮司甘露寺受長明治天皇・昭憲皇太后御集編集委員長・同権宮司伊達巽同委員の拝謁をお受けになる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 水曜日 歳末につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、正仁親王始め皇族、元皇族等より祝詞言上をお受けになる。ついで宮内庁長官始め総代、及び女官等の祝詞言上をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に謁見の間において、米国副大統領ヒューバート・ホレイショー・ハンフリー及び同夫人を御引見になる。その際、大統領リンドン・ベインズ・ジョンソンよりの伝言をお聞きになる。また、同副大統領より皇后に、ガラス製花器の御贈進がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

三十日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子、及び去る十一日宮内庁病院を退院し文仁親王出産後初参殿となる同妃と御対面になる。これに先立ち、昨二十九日皇太子妃のお清めが行われ、天皇・皇后より同妃に三種交魚代料等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、礼宮御誕生関係書類

昭和四十一年（西曆一九六六年） 六十三歳

一月

一日 土曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・甯子内親王の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報、官報

二日 日曜日 午前、天皇と共に表三の間において、元側近奉仕者・元部局長及び元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

この年の新年一般参賀は、新宮殿造営中のため、昨年と同様に参賀者への御会釈はなく、仮宮殿前において記帳のみをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

三日 月曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

新年につき、天皇と共に奥一の間において、寛仁親王始め未成年の皇族・元皇族等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 水曜日 午前、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日雍仁親王祥月命日に当たり墓所へ女官御差遣につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に西の間において、寛仁親王成年式朝見の儀に御臨席になる。式中、同親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続き次のお言葉を賜う。

このたびはおめでとう、いよいよ健やかに学業に励まれることを祈ります。

その後、天皇と共に拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子、並びに勲章佩用の寛仁親王よりお礼言上をお受けになる。なお、天皇・皇后より寛仁親王に金員を賜い、別に白羽二重・洋服地・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、寛仁親王殿下成年式記録、宮内庁序報、官報

六日 木曜日 寛仁親王の成年式終了に伴う三笠宮主催の祝宴に御臨席のため、午後五時五十二分天皇と共に御出門、港区の三井倶楽部に行啓される。御着後、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王と御対面になり、皇太子・同妃始め菊栄親睦会会員と御夕餐を御会食になる。八時二十四分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

七日 金曜日 新年につき、午後、天皇と共に吹上御所において、元女官等の祝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

拝謁の間において、元御用掛服部豊子<sup>ウファイオ</sup>のリニストの拝賀をお受けになる。ついで元学習院女学部教授佐野

正造・元女子学習院教授今井熊太郎、並びに御学友・御同級生の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、内舎人日誌、典式録

十日 月曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。東京女子大学名誉学

長石原謙<sup>日本学士院会員</sup>より「アウグステイヌスとその平和思想」、東京大学名誉教授岡義武<sup>学習院大</sup>より「近

代日本における国際意識の変遷」、東京大学名誉教授坂口謹一郎<sup>日本学士院会員</sup>より「醜酔学の進歩について」

と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報

十一日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴く。パキスタン国駐劄特命全権大使高木広一

及び同夫人、ウルグアイ国駐劄特命全権大使都村新次郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、去る二日より来日中のスペイン国王族ファン・カルロス及び同

妃ソフィアと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行

事録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午後、天皇と共に内廷庁舎第一応接室において、元内閣総理大臣吉田茂献上の大理

石像<sup>新宮殿に飾り付けるためのもの</sup>を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年はほぼ毎週、概ね水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 木曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「声」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

外つ国のワシントンなる孫の声テープの声をいま耳にしつ

儀終了後、拝謁の間において召人・選者・諸役の賜謁が、ついで内廷西玄関前において預選者の賜謁があり、天皇と共にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、歌会始録、典式録、宮内庁序報、官報、あけぼの集

十四日 金曜日 午前、拝謁の間において、アルゼンチン国駐劔特命全権大使田中三男の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

去る十一日青森県三沢市において大火<sup>三沢</sup>により被害発生につき、天皇・皇后より青森県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁序報

十五日 土曜日 成人の日に当たり、午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年十一月に成年に達した朝香美乃子<sup>孚彦王第  
二王女</sup>の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より美乃子に白羽二重・万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子よ

昭和四十一年一月

り、寒中の御機嫌奉伺をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御昼餐を御会食になる。以後、この年は月に二、三回程度、概ね日曜日に吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

十八日 火曜日 午後、前田青邨をお召しになり、屏風の下絵となる梅の絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十九日 水曜日 午前、英語教師イレヌ・ストライカーの進講をお聴きになる。以後、この年一年を通じ、同人よりしばしば英語の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十一日 金曜日 午後、新任の東宮侍従小河清の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 日曜日 午前、自動車にて城ヶ島にお出ましになる。船にて御到着の天皇と共に、船室においてお弁当をお召し上がりになる。終わってお一方にて下船され、御用邸にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

午後、天皇と共に、参邸の財団法人山階鳥類研究所理事長山階芳麿の拝謁をお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十四日 月曜日 午後、参邸の元女官小倉満子、及び松岡鎮枝元久邇宮宮務監 督国分三亥の妹の拝謁をお受けになる。

この年九十歳となる松岡に、真綿紅葉山御 養蚕所製、及びお手許で御使用のお品を賜う。以後、この年も随時、

元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十五日 火曜日 午後一時二十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、二時四十五分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

二十六日 水曜日 午前、英語教師イレヌ・ストライカーの進講をお聴きになる。この日は御結婚記念日につき、同人より手製のデコレーションケーキの献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

午後、吹上御所前において、財団法人日本ばら会理事梅田美樹ほかに御会釈を賜う。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、贈賜録

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のフランス国特命全権大使フランスソワ・ミソフ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮内庁序報

二十九日 土曜日 鷹司平通去る二十七日死去につき、お出ましをお控えになる。

午前、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御対面になり、鷹司平通死去につき御機嫌伺いをお受けになる。午後、皇太子・同妃と御対面になる。また、天皇・皇后より、弔問使として侍従入江相政を鷹司邸に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、

鷹司平通葬儀録

昭和四十一年二月

三十日 日曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭典録、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

故鷹司平通の通夜につき御弔問のため、午後五時御出門、千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。御着後、葬儀委員長山中忠雄元交通博物館館長の先導にて二階御休所に入られ、鷹司和子・同綏子平通母と御対面に

なり、故鷹司平通の霊前に進まれ御拝礼になる。五時三十四分還啓される。この日、天皇・皇后より、賜物使・枢前使として侍従徳川義寛を鷹司邸に差し遣わされ、祭糝料を賜い、霊前に切り花・菓子・野菜をお供えになる。三十一日に行われる葬儀には、葬場使として入江相政を宮内庁分室に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、鷹司平通葬儀録、宮内庁庁報、入江相政日記

三十一日 月曜日 午前、拝謁の間において、今般帰国した前ポルトガル国駐劔特命全権大使吉田賢吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

## 二月

一日 火曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のインドネシア国特命全権大使ハルソノ・レクソアトモジヨ及び同夫人、新任のモロッコ国特命全権大使タイエブ・セブテイ、ウルグアイ国特命全権大使バウテイスタ・オチョテーク及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午後、拝謁の間において、道明新兵衛第七代より、古代から現在に至る組紐の沿革・発達

についての進講をお聴きになり、終わって実演を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

四日 金曜日 午後、吹上御所において、山口玉糸より進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

舎人日誌

七日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁

序報

九日 水曜日 故鷹司平通二七日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 木曜日 正午過ぎ、天皇と共に、昭和三十九年に皇室の重要事項に参与すべき旨の御沙汰を受けた吉田茂<sup>元内閣総理大臣</sup>・石坂泰三<sup>経済団体連合会会長</sup>・田島道治<sup>元宮内庁長官</sup>・小泉信三<sup>元侍従職御用掛</sup>、並びに元内大臣木戸幸一の拝

謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録

十四日 月曜日 午後、前田青邨をお召しになり、富士山の絵をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、

内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十六日 水曜日 午前九時五十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門になり、十一時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁序報

十八日 金曜日 午前、拝謁の間において、新任の皇室医務主管西野重孝及び侍医西川一郎、また前任の皇室医務主管村山浩一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に謁見の間において、去る十六日に来日した国際司法裁判所長。パーシィ・C・スペンダー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、

昭和四十一年二月

宮内庁庁報

天皇と共に内廷庁舎の廊下において、キューバ国大統領オスヴァルド・ドルテイコス・トラードより御贈進の絵画同国の画家ポルトカレロ筆を御覧になる。○侍従日誌、内舍人日誌、外交贈答録

二十一日 月曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任の大韓民国駐劔特命全權大使木村四郎七の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

皇后還暦記念の宮内庁楽部音楽堂が皇居旧本丸の楽部の隣に完成し、この日、落成式が挙行される。

設計者の今井兼次早稲田大学、名誉教授、音響設計の日本放送協会総合技術研究所、工事施工者の前田建設工業株式会社ほか新築工事に尽力の工事関係者にそれぞれ賜品がある。

皇后の還暦記念事業については、天皇の還暦記念として北の丸公園の整備事業が進められていたことと併せて、政府において検討が進められ、皇后が音楽に御造詣が深いこと等が考慮され、音楽堂の建設が計画された。その場所は、昭和三十五年一月二十九日の皇居造営に関する閣議決定に基づき、近い将来公開される予定の皇居東側地区とされた。

この音楽堂は、今井の設計により昭和三十八年八月八日起工、建設面積千百九十四平方メートル、収

容人員約二百人、総工費一億二千八百万円、鉄筋コンクリート造りにて地上二十一メートル、八角形の建物で、屋根は八弁の花を形どり、外壁八面は淡い色調のタイル張りで、各面それぞれ「日月星辰」「松竹梅」「楽の音」「雪月花」「鶴亀」「春夏秋冬」「風水火」「衣食住」が陶片で表現される。また、音楽堂周囲に黒御影石の柱が五基設置され、それぞれに皇后のお誕生月の春を讃え、あるいは御長寿を祝う古歌が刻まれる。三月五日、皇后の思召しにより、この楽部音楽堂は「桃華楽堂」と称される。

この名称は、皇后の雅号「桃苑」と、還暦を意味する「華」を併せて考えられる。○賜与録、重要雑録、皇后陛下御還暦記念ホール（桃華楽堂）、皇后陛下御還暦記念ホール落成式関係、官報、今井兼次建築創作論、読売新聞

二十四日 木曜日 午後、拝謁の間において、東京国立博物館学芸部長岡田譲より、蒔絵についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

二十五日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のユーゴスラビア国駐劔特命全権大使曾野明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のアルジェリア国特命全権大使アブデル・マレク・ベナビレス及び同夫人、新任のエチオピア国特命全権大使ペトロス・サハルー、キューバ国特命全権大使マヌエル・クエルヴォ・メンデス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三月

一日 火曜日 午前から正午過ぎにかけて、天皇と共に拝謁の間において、初参内の文仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。この日行われた同親王の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀に際し、天皇・皇后より、文仁親王に童形服を賜い、また別に皇太子・同妃に五種交魚代料を、皇太子妃に白紋縮緬等を、文仁親王に御台人形代料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、礼宮御誕生関係書類、皇孫文仁親王御誕生関係記録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二日 水曜日 午前、拝謁の間において、イラク国より一時帰国した同国駐劄特命全権大使深井竜雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。特命全権大使及び公使の一時帰国による拝謁は原則として願い出ることとはできないが、同人は、昨年任地ソールズベリーで任命、赴任となったため、特に拝謁が許された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、『ニューズウィーク』誌並びにワシントン・ポスト紙会長フレデリック・S・ビーブ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後二時御出門、渋谷区の鷹司邸に行啓される。同邸において鷹司和子・同綏子を御慰問になり、二時四十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、宮内庁庁報

去る一日文仁親王初参内終了につき、皇太子・同妃主催の御晩餐に御出席のため、五時五十五分天皇と共に御出門、東宮御所に行啓される。御晩餐には正仁親王・同妃華子も出席し、また、徳仁親王・文仁親王とも御対面になる。お帰りの際に雛人形を御覧になり、八時三十五分還啓される。○女官長日

記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、皇孫文仁親王御誕生関係記録、宮内庁庁報

五日 土曜日 午前、宮内庁庁舎において、新任のマレーシア国特命全権大使トウシク・インドラ・ブトラ及び同夫人・息女、大韓民国特命全権大使金東祚及び同夫人・息女二人、ホンジュラス国特命全権公使アルトゥーロ・トーレス・ウイルスを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後一時四十分御出門、常陸宮邸に行啓される。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六日 日曜日 満六十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間において吉田茂、続いて元皇太后宮女官等、元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元皇后宮女官・元女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、常侍官候所脇階段下において元女嬬等の祝賀を、奥一の間において元御用掛服部豊子、続いて元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、東久邇文子<sup>東久邇盛厚・同夫人成子の息女</sup>・同秀彦<sup>文子の弟</sup>・同優子<sup>秀彦の妹</sup>の祝賀をお受けになり、夕刻、御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 月曜日 甯子内親王と近衛護輝の結婚につき、午前、三笠宮邸において納采の儀が行われる。午後、天皇と共に拝謁の間において、甯子内親王・崇仁親王妃百合子と御対面になり、納采の儀が滞りなく終了した事についてのお礼言上をお受けになる。なお、納采の儀に当たり、天皇・皇后より三笠宮に三種交魚代料を、同内親王に鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、甯子内親王殿下御結婚録、重要雑録、官報

八日 火曜日 祐子内親王の祥月命日につき、内廷庁舎へのお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

九日 水曜日 午前、拝謁の間において、近くセイロン国に赴任の特命全權大使日向精蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

十日 木曜日 東京学芸大学附属世田谷小学校創立九十周年記念式典に御臨席のため、午前十時十分天皇と共に御出門、同校に行啓される。御着後、校内を御巡覧の上、講堂において記念式典に臨まれる。十一時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報  
オランダ国王嗣ベアトリックス王女この日結婚につき、天皇・皇后より同国女王ユリアナに祝電を發せられる。これに対し十六日、女王及び王配ベルンハルトより答電が寄せられる。これより先、二月十四日には天皇・皇后より同王嗣に広蓋<sup>輪島塗</sup>を御贈進になり、三月三日、同王嗣及び婚約者クラウド・フォン・アムスベルグより礼電が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、宮内庁序報、官報

十一日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、去る九日公賓として来日したアルゼンチン国

外務大臣ミゲル・アンヘル・サバラ・オルティス及び同夫人、並びに随員の同国儀典長アントニオ・M・デ・アペリヤニス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

午後、表二の間において、新任のエルサルバドル国特命全権大使サルヴァドル・ハウレギ及び同夫人を御引見になる。その後、天皇と共に表一の間において、同大使及び夫人、マレーシア国特命全権大使トウルク・インドラ・プトラ及び同夫人、大韓民国特命全権大使金東祚及び同夫人、ホンジュラス国特命全権公使アルトゥーロ・トーレス・ウイルスをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日学習院幼稚園を卒園した徳仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、同親王に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 去る七日甯子内親王納采の儀終了につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、近衛正子<sup>護輝の養母</sup>・同護輝の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、甯子内親王殿下御結婚録

十五日 火曜日 午後、宮内庁庁舎において、新任のドミニカ共和国特命全権大使シモン・ディアス・カステリヤーノス、ベネズエラ国特命全権大使ヘスス・マヌエル・ペレス・モラレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 木曜日 文部省及びフランス文化省の共同主催による「フランスを中心とする十七世紀ヨ

昭和四十一年三月

ロッパ名画展」を御覧になるため、午前九時十九分天皇と共に御出門、東京国立博物館に行啓される。

十時四十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十八日 金曜日 皇后の還暦を記念して建設された桃華楽堂が去る二月二十三日に落成し、この日午前、天皇と共に同所にお出ましになる。御着後、設計者今井兼次ほかのお出迎えをお受けになり、お言葉を賜う。ついでモザイク・タイル張りの外壁や内部施設を御覧になる。また、旧楽部演奏室にお

いて、この度の落成記念に寄贈を受けた外国製ピアノ

安宅産業株式会社相談役  
社實安宅英一より寄贈

を御覧になり、海野英秋による

シヨパン作曲「夜想曲」の演奏をお聴きになる。二十一日午後、再び天皇と共にお出ましになり、桃華楽堂外壁の装飾を御覧になった後、天守台に上られ、双眼鏡にて桃華楽堂の屋根及び北の丸方面を御眺望になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、この度離任のパキスタン国特命全権大使ハーリド・マスウド・シエイク及び同夫人、フィリピン国特命全権大使ハシント・C・ボルハ及び同夫人、新任のドミニカ共和国特命全権大使シモン・ディアス・カステリャーノス、ベネズエラ国特命全権大使ヘスス・マヌエル・ペレス・モラレス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、鷹司和子・同綏子と御対面になり、故鷹司平通四十九日法要終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十一日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のクウェート国駐劔特命全權大使貝原庄一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

拝謁の間において、新任の宮内庁御用掛中江要介の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に表一の間において、来日中のベルギー国王弟アルベールをお招きになり、宮中午餐を催される。終わって表三の間において御歓談になる。なお、アルベールを通じ、皇后より同妃。パオラに、

お手許品の裂地紅葉山御養蚕所製及び『京都御所離宮大観』英文を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、賜与録

二十四日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る四月二日に結婚する竹田素子恒徳王第一王女の

拝謁をお受けになる。天皇・皇后より竹田恒徳に清酒及び鮮鯛代料を、素子に扇子代料及び白縮緬を賜う。また別に、天皇・皇后より洋服地等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

御風気御用心のため、午後より御仮床に就かれる。翌二十五日の桃華楽堂へのお出ましを除き、翌月十一日まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十五日 金曜日 午後、桃華楽堂の落成記念演奏会に御臨席のため、天皇と共に同所にお出ましになる。御着後、同ホールにおいて、楽部職員による舞楽「振鉾」、豊田かいによる箏曲「寿くらべ」を、御少憩の後、柳兼子による与謝野晶子作詞・信時潔作曲「こどもの踊り」等のアルト独唱、服

昭和四十一年三月

部豊子によるJ・S・バッハ作曲無伴奏ヴァイオリンソナタ第一番より第一・第二楽章等のヴァイオリン独奏、豊増昇によるベートーヴェン作曲ピアノ・ソナタ第二十一番「ワルトシュタイン」のピアノ独奏を御鑑賞になる。終わって御休所において、演奏者四名の拝謁をお受けになり、吹上御所に還御される。この日の演奏会に際し、天皇・皇后より豊田始め演奏者四名にそれぞれ御紋付銀花瓶・酒肴料を、助奏者六名にそれぞれ御紋付木盃・酒肴料を賜う。また、天皇・皇后より桃華楽堂落成記念演奏会用プログラム扉絵の揮毫に尽力があつた前田青邨に、御紋付木盃を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、儀式録、皇族雜録、賜与録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 去る二月四日東京湾において発生した全日本空輸株式会社所属航空機墜落事故による犠牲者の追悼法要を、来る二十九日本願寺築地別院にて行う同社に、この日、天皇・皇后より生花を賜う。○外交慶弔録、賜与録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 この日、那須の西岩崎において昨年八月四日に御自ら採集された地衣類コフクレサ  
ルオガセ等を

国立科学博物館に下賜される。○女官長日記、国立科学博物館植物標本庫収蔵資料

三十一日 木曜日 文仁親王箸初につき、この日、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、

同親王に御台人形代料及び鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、女官日記、贈賜録

この日、御風気気味のため、東京プリンスホテルにおける日本赤十字社有功章及び特別社員章の親授式への行啓をお取りやめになり、御名代として皇太子妃名誉副  
総裁を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

このたび、赤十字の事業に貢献し、功労のあつた皆さんに、日本赤十字社有功章並びに特別社員章をお渡しできましたことを、大変うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来八十九年のながきにわたり、人道と博愛を基調として、多くの有益な事業を行なつて参りましたが、この赤十字の任務は、一層重要性を加えて来るものと思ひます。社員並びに役職員の皆さんは、今後とも力を合わせ、ますます赤十字の活動を推進し、国民の期待にこたえるとともに、各国の赤十字とも協調して、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう切に望みます。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、事業年報（日本赤十字社）

#### 四月

三日 日曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

八日 金曜日 徳仁親王学習院初等科入学につき、この日、天皇・皇后より同親王に本箱代料・万那料及び『学習百科大事典』社 保育を、皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十三日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度帰国の前オランダ国駐節特命全権大使伊関佑二郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。その後、天皇と共に同所において、伊関より同国等の情況に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、進講録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

十四日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、去る十一日より来日中のデンマーク宮内長

昭和四十一年四月

官エイギル・ヴェルン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者四十八名の賜謁があり、辰巳の庭にお出ましになる。同会理事長山口正義より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。なお、この日お出ましになった賜謁場は、道灌門脇吹上護衛署跡に新設された広場で、昨日、「辰巳の庭」の呼称が定められた。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、重要雑録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 愛媛県において開催される昭和四十一年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情御視察のため、天皇と共に岡山県・愛媛県・香川県及び大阪府に行啓される。午前十一時二十分御出門、東京駅より岡山駅を経て、午後五時二十六分岡山市の御泊所延養亭に御到着になる。その後、天皇及び池田隆政・同夫人厚子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

内舎人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 土曜日 午前九時二分天皇と共に御泊所延養亭を御出発、池田邸にお着きになり、池田隆政及び同夫人厚子と御歓談になる。それより玉野市に向かわれ、宇野港第一突堤からお召し船こはく丸に御乗船になり、瀬戸内海の景観を御展望になる。愛媛県の松山港高浜県営棧橋へ御着後、午後六時五分松山市道後の御泊所ふなやに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山愛媛香

川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛媛県庁所蔵資料、愛媛県国土緑化推進委員会所蔵資料

十七日 日曜日 植樹行事に御臨席のため、午前九時五十五分天皇と共に御泊所ふなやを御出発になり、会場の温泉郡久谷村大久保山の植栽地に御到着になる。お手植地において、雨天の中、国土緑化

推進委員会委員長山口喜久一衆議院議長・同副委員長徳川宗敬・愛媛県知事久松定武の介添えをお受けに

なり、天皇に続きスギ三本を植樹される。それより伊予郡の砥部町物産館に向かわれる。同館において陶磁器などの展示品及び砥部焼製作の実演を御覧になる。隣接する砥部町役場において御昼食後、松山市の愛媛県立果樹試験場に向かわれる。御着後、場内のお手播地に進まれ、同県山林種苗農業協同組合理事長成瀬真一の介添えをお受けになり、ヒノキ・アカマツの種をお手播きになる。天皇もスギ・クロマツの種をお手播きになる。ついで果樹試験場内の諸施設を御視察になる。次に松山市老人福祉センターを御訪問になる。午後四時十六分御泊所ふなやにお戻りになる。御泊所において愛媛県知事久松定武・同夫人春枝、及び定武の母貞子御母、子の姉、弟の定孝の拝謁をお受けになり、お一方にて定

武一家と御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓

録、宮内庁庁報、官報、愛媛県庁所蔵資料、天皇皇后両陛下をお迎えして、愛媛県史、久谷村史、かどりび、伊予路の昭和天皇さま

十八日 月曜日 午前十時天皇と共に御泊所ふなやを御出発、松山市の愛媛県護国神社にお立ち寄りになり御拝礼になる。次に愛媛県盲人福祉センターを訪問される。それより愛媛県庁において物産展示などを御覧になる。ついで万翠荘において御昼食後、松山駅より立間駅を経て北宇和郡の吉田町農業協同組合農業機械センターに向かわれる。御着後、施設内を御視察になる。午後四時四十六分宇和島市の御泊所天赦園ホテルに御到着になる。それより同所において伊達宗彰旧宇和島藩主、家主・同夫人美智子の

拝謁を天皇と共にお受けになる。続いて庭園天赦園を御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供

奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛媛県庁所蔵資料、愛媛県護国神社所蔵資料、愛媛県盲

昭和四十一年四月

人福祉センター所蔵資料、天皇后両陛下をお迎えして、伊予路の昭和天皇さま、かぐりび

**十九日 火曜日** 午前九時三十分天皇と共に御泊所天赦園ホテルを御出発、宇和島市の愛媛県水産試験場に御到着になる。天皇が伝馬船にて湾内を御覧の間、お一方にて同県真珠漁業協同組合長大月成男の説明により育成池前において真珠挿核作業を御覧になる。また湾内を御展望になる。天皇と合流された後、愛媛大学助教伊藤猛夫の進講「南宇和海の動物」をお聴きになる。天赦園ホテルにおいて御昼食後、宇和島駅より八幡浜駅・松山駅を経て、午後四時二十四分松山市の御泊所ふなやに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛媛県庁所蔵資料、宇和島市役所所蔵資料、天皇后両陛下をお迎えして、愛媛県史、かぐりび、伊予路の昭和天皇さま

**二十日 水曜日** 午前九時六分天皇と共に御泊所ふなやを御出発になり、松山駅より今治駅を経て、今治市の田中産業株式会社拝志工場を御視察になる。次に東予国民休暇村ひうちなだ荘にお着きになる。同所において御昼食をお召し上がりになられた後、壬生川駅より伊予西条駅を経て香川県に入られ、高松駅に御到着になる。それより香川県庁に向かわれる。御着後、屋上展望所において市内を御展望になる。午後五時三十五分高松市の御泊所高松国際ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、愛媛県庁所蔵資料、香川県庁所蔵資料、天皇后両陛下をお迎えして、愛媛県史、四国鉄道七五年史、日本国有鉄道四国支社報、かぐりび、伊予路の昭和天皇さま

事業御奨励のため、財団法人日本ユニセフ協会に金員を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

**二十一日 木曜日** 午前十時天皇と共に御泊所高松国際ホテルを御出発、香川県立養護学校、香川県立ひかり整肢学園を御訪問、ついで県立体育館において小学生のリズム運動などを御覧になる。一旦

御泊所に戻られて御昼食の後、児童厚生施設五色台山の家を御訪問になり、さらに、くるまえび養殖株式会社を御視察になる。午後五時十二分御泊所高松国際ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、香川県庁所蔵資料、香川県立高松養護学校所蔵資料、香川県立五色台少年自然の家所蔵資料、ひかり整肢学園十年のあゆみ、体育館のあゆみ

二十二日 金曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所高松国際ホテルを御出発になり、第三十一回香川県美術展覧会会場の香川県文化会館に向かわれる。御着後、郷土作家の漆工芸及び入選作品等を御覧になる。次に栗林公園内の県商工奨励館において、漆器・工芸品等を御覧になる。ついで高松港営第一棧橋よりお召し船むらさき丸に御乗船になり、大阪府へ向かわれる。御昼食後、大阪市の安治川突堤北岸壁<sup>弁天埠頭</sup>において船を下りられ、大阪国際見本市港会場を御視察になり、午後五時十五分大阪市の御泊所大阪ロイヤルホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、大阪府庁所蔵資料、大阪市役所所蔵資料、稲田周一関係資料、続高松市史年表、四国鉄道七五年史、日本国有鉄道四国支社報

二十三日 土曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所大阪ロイヤルホテルを御出発、大阪市立盲学校を御訪問になる。その際、中学部の弱視女子学生のための視覚障害者用の糸通しを手にとつて御覧になり、励ましのお言葉をかけられる。次に吹田市の千里ニュータウン南地区センターに御到着になり、そこから豊中市の御展望所に移られ、四年後に開催予定の大阪万国博覧会会場などを御展望になる。終わつて新大阪駅に向かわれ、同駅特別応接室において御昼食後、大阪府知事左藤義詮・大阪府警察本部長養老絢雄の拝謁をお受けになる。新大阪駅より東京駅を経て、午後四時五十四分皇居に還

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岡山愛媛香川大阪各府県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、大阪府庁所蔵資料、大阪市盲教育七〇年史、大阪市立盲学校創立八〇周年記念誌、育誠

二十五日 月曜日 午前、第十六回身体障害者福祉大会に当たり厚生大臣から表彰された、身体障害者で自立更生し他の模範となる者及び身体障害者の更生援護に功労のあった者等の賜謁があり、天皇と共に内廷西玄閣にお出ましになる。厚生大臣より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 この度離任のオートヴォルタ国特命全権大使ドウグコール・アンリ・ウアッタラ及び同夫人、カナダ国特命全権大使リチャード・プラント・バウアー及び同夫人、メキシコ国特命全権大使フェルナンド・カサス・アレマン及び同夫人を招かれ、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度帰国の前キューバ国駐箚特命全権大使矢口麓蔵及び同夫人、近く任地へ赴くオランダ国駐箚特命全権大使後宮虎郎及び同夫人、及びモロッコ国駐箚特命全権大使蓮見幸雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、祝賀に先立ち、天皇と共に内廷庁舎の御座所において、東久邇文子等四名より祝詞言上をお受けになる。その後お一方にて、奥一の間において宮内庁長官始め総代、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになり、ついで奥御座所において女官長始め女官より祝詞言上をお受けになる。

正午、拝謁の間において内宴を催され、皇太子妃及び正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子・甯子内親王と御会食になり、御食後、皇太子以下も加わり果物をお召し上がりになる。その後、廊下において内閣総理大臣佐藤栄作の拝謁をお受けになる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族が陪席し、各国特命全権大使等が出席する。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王と御対面になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。また、天皇誕生日の一般参賀は、新宮殿造営工事のため、昨年に引き続き一般参賀者への御会積はなく、仮宮殿前において記帳・名刺のみをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、佐藤栄作日記

三十日 土曜日 イラン国皇帝の皇子誕生につき、天皇・皇后より同国皇帝モハンマド・レザー・ハラヴィー及び同皇后に祝電を発せられる。これに対し五月五日答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、

官報

## 五月

二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三日 火曜日 午前、東伏見慈治<sup>御弟</sup>・同子息守俣参殿につき、吹上御所において御対面になる。なお、

去る三月大学を卒業した守俣に洋服地を賜う。併せて就職につき万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 水曜日 午前、謁見の間において、昨日来日したマレーシア国クランタン州サルタンのヤヒヤ・

プトラ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見

録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 木曜日 久邇邦昭<sup>御甥</sup>が海外転勤につき、天皇及び久邇邦昭・同夫人正子、正仁親王・同妃華子

と、吹上御所において御夕餐を御会食になる。その折、天皇・皇后より邦昭にお品及び万那料を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

文仁親王初節句につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、文仁親王に五種交魚代料・

檜兜代料・粽をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、礼宮御誕生関係書類、皇孫文仁親王御誕生関係記録

六日 金曜日 午後、謁見の間において、去る四日より来日中の英国極東軍最高司令官空軍大將ジョ

ン・グランディ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、先日掃立ての蚕、並びに柞蚕・天蚕を御覧

になる。○女官長日記、女官日誌

九日 月曜日 午前、謁見の間において、去る七日より外務省賓客として来日中のオーストラリア国

西オーストラリア州首相デビッド・ブランド及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十日 火曜日 正午過ぎ、謁見の間において、去る七日より公賓として来日中のフィリピン国副大統領フェルナンド・ロペス及び同夫人を天皇と共に御引見になる。ついで北の間において天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来訪に際し、副大統領夫妻より天皇・皇后に献上品があり、皇后にはパイン繊維製品のハンドバッグ・テーブルクロスセット及び麻製品のテーブルクロスセットの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報  
御夕食後、桃華楽堂に天皇と共にお出ましになり、東京オリンピックの記録映画「世紀の感動」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族雑録、贈賜録

十二日 木曜日 午前、常侍官候所脇の廊下において、この日勲章を受けた元皇子傳育官竹田倭子・元女官小倉満子に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌

参与小泉信三昨十一日死去につき、この日、天皇・皇后より御使として侍従入江相政を同人邸に差し遣わされ、祭装料を賜う。また、天皇・皇后より生花を賜い、菓子・切り花を霊前にお供えになる。

○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録

十四日 土曜日 午後、吹上御所において、久邇朝建御兄朝融の子息・同典子朝建の妹・同朝宏朝建の弟と御対面になる。

今般ドイツ連邦共和国へ旅行する久邇典子に、お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

贈賜録

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

昭和四十一年五月

財団法人日本ばら会主催により、この日から二十二日まで、池袋東武百貨店において開催される「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。十九日、二十一日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十九日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、去る四月二十七日に養子縁組をした梨本伊都子と龍田徳彦<sup>多嘉王弟  
三王子</sup>・同夫人正子<sup>朝融王弟  
一王女</sup>より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。また、天

皇・皇后より梨本家にお品及び万那料を、皇后より梨本伊都子並びに梨本徳彦・同夫人正子にそれぞれバラ一束を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録、梨本伊都子日記

二十二日 日曜日 大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後三時十分天皇と共に御出門、蔵前国技館に行啓される。五時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、昨二十二日に来日したイラン国元首相マヌウチエヘル・エクバル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時四分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

二十六日 木曜日 午前十時二十分御出門、高松宮邸に行啓される。小菊会<sup>元皇族等の集まり</sup>の会員と御昼餐を

御会食になり、午後四時十分還啓される。還啓後、吹上御所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のエクアドル国駐劔特命全権大使佐藤日史及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

紅葉山御養蚕所へお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に皇居内の済寧館本館にお出ましになり、皇宮警察本部創立八十周年記念武道大会に御臨場になる。御到着後、柔道・剣道の試合を御覧になり、ついで弓道場において弓道の試合を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、済寧

二十八日 土曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時二十一分御出門、文京区の椿山荘に行啓される。理事長伏見朝子の先導にて御休所に入られ、皇族・元皇族と御対面になる。ついで懇親会場へお出ましになり、結城孫三郎ほかによる操り人形「寿獅子」「小鍛冶」「八百屋お七」を御覧になり、芹沢玲子によるピアノ演奏をお聴きになる。四時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 月曜日 午後、楽部にお出ましになり、糸竹会による太食調音取、仙遊霞、合歓塩、抜頭残楽三返、平調五常楽急・越天楽、御歌をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

六月

一日 水曜日 元皇太后宮大夫坊城俊良去る五月三十日死去につき、この日、天皇・皇后より御使として侍従徳川義寛を同人邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また、天皇・皇后より菓子・切り花を賜う。これとは別に、皇后より果物を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録

二日 木曜日 午前、拝謁の間において、シンガポール国より一時帰国の同国駐劄特命全権大使上田常光及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、この度離任の中華民國特命全権大使魏道明及び同夫人を御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午後、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の謁見があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。受章者比留間安治学校法人昭和第一学園理事長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、第七次南極地域観測隊の隊長村山雅美・砕氷艦「ふじ」艦長本多敏治・隊員星合孝男より、南極関係の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、入江相政日記

七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 水曜日 天皇と共に表一の間において、新任のスーダン国特命全権大使サラハ・エル・ディーン・バビキール・ザルグ、チリ国特命全権大使アウグスト・マランビオ・カブレラ、タイ国

特命全権大使オツブン・ワニツクン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 木曜日 午後、吹上御所において、大谷光暢及び同夫人智子御、並びにこの度結婚の子息暢頭・同夫人と御対面になる。天皇・皇后より大谷暢頭にお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、贈賜録

桃華樂堂にお出ましになる。樂部御休所において先着の久邇正子、竹田紀子、大谷光暢・同夫人智子ほかと御対面になり、演奏会場に移られ、豊英秋によるドビュッシー作曲「月の光」等のピアノ独奏、芝祐靖・本郷晴子によるプーランク作曲「フルートとピアノのためのソナタ」のフルートとピアノの演奏、沖不可止の指揮によるヘンデル作曲組曲「水上の音楽」等の管弦樂の演奏等をお聴きになる。終わって桃華樂堂を詳しく御見学になり、還御される。○女官長日記、女官日記、内舍人日記、幸啓録

元参与安倍能成去る七日死去につき、この日、天皇・皇后より御使として侍従松平潔を同人邸に差し遣わされ、祭染料を賜う。また別に、天皇・皇后より生花及び菓子を賜う。○女官長日記、侍従職日記、侍従職日記、贈賜録、恩賜録

十日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のガーナ国駐劔特命全権大使鶴我七蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きを行われる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記  
十一日 土曜日 午後、吹上御所ベランダにおいて、道明新兵衛第七代より組紐をお習いになる。○女官長

昭和四十一年六月

日記、女官日誌、内舎人日誌

十三日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、国立防災科学技術センター所長和達清夫より「地盤沈下と松代地震について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十四日 火曜日 午前、謁見の間において、新任のドイツ連邦共和国特命全権大使フランツ・クラツプフ及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報  
御夕食後、天皇と共に吹上御所において、この日米国より帰国した島津久永・同夫人貴子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十五日 水曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のビルマ国特命全権大使タン・シエイン及び同夫人、新任のドイツ連邦共和国特命全権大使フランツ・クラツプフ及び同夫人、セイロン国特命全権大使ハーバート・アーネスト・テンアクーン及び同夫人、インドネシア国特命全権大使ルクミト・ヘンドラニングラット及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

十八日 土曜日 午後、前田青邨をお召しになり、絵の練習を行われる。なお、同人の参邸に際し、菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、葉山行幸啓録、贈賜録

二十二日 水曜日 午前、西ヶ崎海岸へお出ましになる。同所にて、御採集のため先発されていた天皇と合流され、お弁当をお召し上がりになる。午後、御採集の天皇とは別に、お一方にて御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十四日 金曜日 午前、城ヶ島公園内展望台へお出ましになる。同所にて付近を御展望になり、それより海岸へ移られ、天皇がお乗りのはたぐもに御乗船になり、御昼餐を御会食になる。午後、御採集の天皇とは別に、お一方にて下船され、御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十七日 月曜日 午前九時五十五分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時二十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十八日 火曜日 午前、拝謁の間において、臨時皇居造営部長高尾亮一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に表御休所において、この日宮内庁病院を退院去る二十四日より入院した正仁親王妃華子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、皇族雑録、贈賜録

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、菊栄親睦会録

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、去る二十五日より来日中の米州開発銀行総裁フエリ・ペ・エレラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十一年七月

午後、天皇と共に表三の間において、日本自然保護協会理事長田村剛より「自然保護運動の発展」、同常務理事本田正次より「自然保護と植物」、同評議員古賀忠道より「自然保護と動物園」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、自然保護

三十日 木曜日 台風四号により甚大な被害が生じた神奈川県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

## 七月

二日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、内舍人日誌

午後、吹上御所において、道明新兵衛<sup>第七代</sup>より組紐作成の指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内

舍人日誌

四日 月曜日 午前、拝謁の間において、東園佐和子、及びこの度結婚した同子息夫妻の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

五日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清及び同助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭脇にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

天皇と共に表一の間において、この度離任のイスラエル国特命全権大使モルデハイ・シュネエルソン及び同夫人、新任のノルウェー国特命全権大使クヌット・トムセン及び同夫人、フィリピン国特命全権大使ホセ・ソテロ・ラウエル三世及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前九時三十四分御出門、天皇と共に栃木県・群馬県に行啓される。原宿駅より日光駅を経て、東京大学理学部附属植物園日光分園を御散策になる。午後一時四十九分日光市の御泊所中禅寺金谷ホテルに御到着になる。御少憩の後、天皇と共に群馬県利根郡片品村の菅沼において、湿原・沼畔を御散策になる。五時二十五分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、奥日光行幸啓録、宮内庁庁報、官報

七日 木曜日 午前十時二分、天皇と共に御泊所中禅寺金谷ホテルを御出発になり、戦場ヶ原自然研究路において植物を御覧になり、ついで湯ノ湖の兎島においてヒカリゴケ等を御覧になる。御泊所において御昼食後、天皇と共に西ノ湖に向かわれる。御着後、降雨の中を散策され、植物を御調査になる。午後四時三十分御泊所中禅寺金谷ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、奥日光行幸啓録、宮内庁庁報、官報

八日 金曜日 午前十時、天皇と共に御泊所中禅寺金谷ホテルを御出発になり、山王峠に向かわれる。御着後、原生林やクマザサの中、植物を御調査になる。十一時四十分中禅寺金谷ホテルにお戻りになる。午後一時十八分天皇と共に御泊所を御出発になり、日光駅より原宿駅を経て、四時二十三分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一日 月曜日 アルトゥール・ルービンシュタインのピアノ演奏会に御臨席のため、午後六時五十分御出門、皇太子・同妃を伴われ、東京文化会館に行啓される。二階のお席にお着きになり、ブラームス作曲ピアノソナタ第三番、ショパン作曲スケルツォ第三番、リスト作曲ハンガリー狂詩曲第十番

昭和四十一年七月

等をお聴きになる。休憩の際に、御休所においてルービンシュタイン及び同息女の挨拶をお受けになる。アンコール曲三曲をお聴きになり、九時二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

去る八日栃木県那須郡黒磯町百村木野俣隧道において災害事故により多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より栃木県に御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日豪間友好親善関係の促進等のため去る九日より外務省賓客として来日中のオーストラリア国ニュー・サウス・ウェールズ州首相ロビン・ウィリアム・アスキン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十六日 土曜日 午後一時三十分御出門、光輪閣に行啓される。御到着後、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・梨本伊都子のお出迎えをお受けになり、御団欒になる。豊田かいによる琴の演奏をお聴きになり、四時四十二分還啓される。後刻、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報、梨本伊都子日記

十九日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のグアテマラ国特命全權大使カルロス・エンリケ・モリーナ・ムニョスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 東久邇成子五年式年祭に当たり、午後二時二十五分天皇と共に御出門、豊島岡墓地に行啓される。御着後、天皇に続き東久邇家墓所を御拝礼になり、同五十九分還啓される。還啓後、天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・同文字・同秀彦・同真彦・同優子以上、成子の子女と御夕餐を御会食になる。なお天皇・皇后より東久邇成子の靈舎に盛菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。この日、青森県浅虫に滞在中の宣仁親王妃喜久子より「御心を想い上げつついとせのむかしをしのぶ北の海辺に」の歌が届けられ、次の返歌をお詠みになり、電報にてお伝えになる。

いくとせの昔しのびて北国の君のたまづさうれしとぞ見る

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十五日 月曜日 午前十時三十五分天皇と共に御出門、途中原宿駅より池田厚子と同道され、午後一時二十二分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に、附属邸付近を御散策になる。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇及び参邸の皇族・御親族等と御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌  
二十七日 水曜日 元東宮侍医長佐藤久昨二十六日死去につき、この日、天皇・皇后より祭染料を賜う。また、天皇・皇后より菓子・切り花・果物をお供えになる。○女官長日記、恩賜録、贈賜録

二十八日 木曜日 午前、御散策に先立ち、天皇と共に御車寄前庭において、那須町長笹沼賢弥始め同町議会議員等に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者等に御会釈を賜う。○侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌

昭和四十一年八月

二十九日 金曜日 一時御帰京のため、午前九時二十三分、天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、去る二十四日より公賓として来日中のソビエト連邦外務大臣アンドレイ・アンドレエヴィチ・グロムイコ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、この度離任の米國特命全權大使エドウィン・オールドファザー・ライシヤワー及び同夫人を御引見になる。なお、皇后よりライシヤワー夫人に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、賜与録、外交贈答録、宮内庁庁報、ライシヤワー大使日録

## 八月

二日 火曜日 那須御用邸に行啓のため、午前十時三十五分天皇と共に御出門、午後一時二十二分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

六日 土曜日 午後、天皇と共に、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、佐藤栄作日記

十四日 日曜日 一時御帰京のため、午前九時二十三分、天皇と共に那須御用邸を御出門になり、午後零時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十五日 月曜日 全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十九分天皇と共に御出門になり、日本武道館に行啓される。午後零時二十四分還啓される。なお、同式挙行に当たり、天皇・皇后より追悼式を行う厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に那須御用邸に行啓のため、二時十五分御出門、五時七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午後、近く赴任のドミニカ共和国駐箚特命全権大使前田憲作及び同夫人、ベトナム共和国駐箚特命全権大使中山賀博及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、典式録、拝謁録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に、参議院議長重宗雄三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十四日 水曜日 一時御帰京のため、午前九時二十三分、天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

昭和四十一年八月

天皇と共に謁見の間において、この度離任のエチオピア国特命全権大使ペトロス・サハルーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に宮中において、第十一回太平洋学術会議に参会した加盟国代表機関の公式代表夫妻ほかをお招きになり、茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮中茶会、宮

殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十五分御出門、午後一時二十二分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行

幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

元日仏会館館長レイ・ルヌー死去につき、同夫人マリー・シモーヌ・ルヌーに弔意を伝えるよう思召しがあり、この日、女官長より同夫人に伝えられる。なお、レイ・ルヌーは、同夫人と共に昭和三十一年五月七日に天皇・皇后が御引見になり、また、同夫人は、昭和二十九年五月十八日にフランス語を進講して以来、三十一年まで定期的に進講を務めた。○重要雑録

二十六日 金曜日 午後、赴任先より帰国の元ベトナム共和国駐劄特命全権大使高橋寛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、拝謁録、典式録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事

務所日誌、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、天皇と共に参殿者休所において、宮内記者会会員十四名に御会釈を賜い、各記者からの質問にお答えになる。その際に、子や孫の訪問について、また、お描きになる絵についての質問をお受けになる。子や孫に関しては、御一緒に楽しく過ごした旨、島津禎久<sup>島津貴子の子息</sup>は朝晩の挨拶

抄などは英語ですが日本語も上手である旨、絵に関しては、那須では描いていないが作品は二、三ある旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見

## 九月

一日 木曜日 関東大震災の日につき、午前中は外出をお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二日 金曜日 午前、天皇と共に、岡山大学助教授大藤真昭和三十八年池田厚子が岡山大学医学部附属病院に入院した際の担当医の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌

五日 月曜日 午前、天皇と共に、元侍従野口明の拝謁をお受けになる。同人の描いた絵画四点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、入江相政日記

八日 木曜日 午前九時二十三分、天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

九日 金曜日 久邇侘子御母十年式年祭につき、午後三時三十分御出門、豊島岡墓地に行啓される。久

邇家の墓所において、久邇侘子の墓、ついで邦彦王御父の墓を御拝礼になる。それより久邇朝建・同正子の挨拶をお受けになり、四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

去る五日から六日にかけて台風十八号により甚大な被害を受けた宮古島等の住民に、天皇・皇后よりお見舞いとして、総理府を通じ金一封を賜う。これに対し、琉球政府行政主席より礼状十一月七日付が寄せられる。○賜与録、宮内庁庁報、読売新聞

十三日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使板垣修及び同夫人、インド国駐箚特命全権大使伊関佑二郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 午後一時四十五分御出門、光輪閣に行啓される。四時四十分還啓される。夕刻、天皇と共に吹上御所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任の中華民国駐箚特命全権大使島津久大及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、ネパール国外務大臣クリテイ・ニデイ・ビスト及び同夫人を御引見になる。なお、同外相の離日に先立ち、外務省を通じ、同外相より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には宝石箱が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

謁見の間において、今般夫人が着京したフランス国特命全権大使ルイ・ド・ギランゴー及び同夫人、クウェート国特命全権大使モハマッド・ザイド・アル・ヘルビッシュ及び同夫人を御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、ビルマ国駐劄特命全權大使高瀬侍郎より同国事情に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録  
ビルマ国革命委員会議長ネ・ウイン及び同夫人が国賓として来日するに当たり、天皇・皇后の御使として、式部官長原田健を白金迎賓館に差し遣わされる。また、同議長夫人の入京に際し、皇后より花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、賜与録、外交贈答録

二十日 火曜日 正午、天皇と共に謁見の間において、国賓のビルマ国革命委員会議長ネ・ウイン及び同夫人と御会見になる。引き続き天皇と共に、北の間において議長夫妻のため宮中午餐を催され、御食後、東の間においてお茶の席を設けられる。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より同議長に綴錦壁掛舞楽「胡蝶の舞の図」を、同夫人に有田焼花瓶染錦「菊牡丹紋」を御贈進になる。また、議長夫妻より天皇・皇后に御贈進品があり、皇后には金台のネックレス・絹布地が贈られる。二十六日、議長夫妻の帰国に際し、天皇・皇后の御使として式部官長原田健を白金迎賓館に差し遣わされ、皇后より議長夫人に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、賜与録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、天皇と共に表三の間において、この度欧米出張宮殿造営に関わる照明・家具・庭園等の調査より帰国した臨時皇居造営部長高尾亮一の進講をお聴きになり、出張中の各地のスライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

午後、第十八回保健文化賞<sup>第一生命保険相互会社主催、厚生省・朝日新聞</sup>を受賞した者等の賜謁があり、天皇と共に

辰巳の庭にお出ましになる。厚生大臣鈴木善幸より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、この度離任のローマ法王庁大使マリオ・カーニヤ<sup>大司教</sup>を御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、拝謁の間において、新任の神宮大宮司徳川宗敬の拝謁をお受けになる。つ

いで、新任の皇宮警察本部長門司良弼、及び前任の皇宮警察本部長中原英典の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭礼録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 共同募金運動二十周年記念全国社会福祉大会に御臨席のため、午前九時四十六分

天皇と共に御出門になり、千代田区の社会事業会館久保講堂に行啓される。式典に臨まれ、十時四十

六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 日曜日 午前、宮内庁病院にお出ましになり、アキレス腱の手術のため昨二十四日より入

院の甯子内親王をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、皇族雑録、贈賜録

二十六日 月曜日 台風二十六号により甚大な被害を受けた山梨県・埼玉県・静岡県・群馬県に、天

皇・皇后より被害に応じそれぞれ御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、謁見の間において、新任のルーミアニア国特命全権大使イオン・ダトク及び

同夫人、パキスタン国特命全権大使シェド・マクブール・ムルシェド及び同夫人を御引見になる。○  
女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

国賓として来日のフィリピン国大統領フェルディナンド・エドラリン・マルコス及び同夫人をお出迎  
えのため、午後二時二十七分天皇と共に御出門になり、東京国際空港に行啓される。空港行事の後、  
皇后は大統領夫人と同乗され、三時四十八分皇居に御到着になる。引き続き同五十分より天皇と共に  
謁見の間において、大統領夫妻と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはゴールデン・  
ハート・プレジデンシャル・アワード一等勲章頸飾が贈られる。この度の来訪に際し、天皇・皇后  
より大統領に七宝花瓶<sup>紫紺地  
菊文</sup>を、同夫人に銀製宝石箱を御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇  
后に御贈進品があり、皇后にはテクタイト入り装飾品・額入版画が贈られる。なお、入京の際に、皇  
后より大統領夫人に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、国  
賓訪日関係、外賓参内録、宮殿行事録、賜与録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、贈るこころ・受けとられた美

二十九日 木曜日 天皇と共に北の間において、フィリピン国大統領フェルディナンド・エドラリ  
ン・マルコス及び同夫人をお招きになり、宮中晩餐を催され、ついで宮中夜会を催される。なお、そ  
の際、カナダ国特命全権大使ハーバート・オーウェン・モラン及び同夫人、レバノン国特命全権大使  
トゥーフイック・アウアド及び同夫人、ビルマ国特命全権大使バ・シユエを御引見になる。○女官長日  
記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、国賓訪日関係、外賓参内録、謁見録、宮内庁庁報、官報、外交記録、入江相政

昭和四十一年十月

日記、佐藤栄作日記

三十日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、平安神宮宮司小松輝久の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十月

三日 月曜日 フィリピン国大統領フェルディナンド・エドラリン・マルコス及び同夫人帰国につき、お見送りのため、午前九時三十九分御出門になり、天皇と共に東京国際空港に行啓される。十一時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報  
午後、天皇と共に謁見の間において、米国ラトガース大学名誉教授セルマン・アブラハム・ワックスマン<sup>ノーベル生理学・医学賞受賞者</sup>及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、拝謁の間において、新任の宮内庁御用掛大野操子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に謁見の間において、去る九月二十六日より外務省賓客として来日中のクウェート国商工大臣アブダッラー・ジャービル・アル・サバーハ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 水曜日 午後、藍綬褒章を授与された調停委員等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。東京地方裁判所調停委員植月浅雄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

七日 金曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、米国リーダーズ・ダイジェスト・アソシエーション会長デウィット・ウォーレス及び同夫人を御引見になる。なお、十一月五日には、米国リーダーズ・ダイジェスト社より天皇・皇后に献上品があり、皇后には日本民謡をアレンジした音楽レコードが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

翌八日北白川道久<sup>永久王第二王子</sup>結婚につき、この日、天皇・皇后より北白川祥子<sup>道久の母</sup>に清酒及び鮮鯛代料を、道久に白羽二重及びお品を賜う。八日には、天皇・皇后よりお悦びとして北白川房子<sup>道久の祖母</sup>に鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

デンマーク国王嗣マルグレーテ王女婚約につき、この日、天皇・皇后より同国王フレデリック九世及び王妃イングリットに祝電を發せられる。これに対し翌八日、答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

九日 日曜日 明治会<sup>学齢以上の明治天皇の曾孫までの会</sup>の第一回の催しに御出席のため、午後、天皇と共に桃華楽堂にお出ましになる。御着後、映画・マジックを御覧になる。その後、天皇と共に仮宮殿に移られ、表二の間において北白川房子より病氣全快のお礼言上をお受けになり、ついで西の間において写真の撮影に続き、お茶の会が催される。その際、皇后の御発案により明治会会員に対し、風水害災害地救援のための募金が呼び掛けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿行事録

十一日 火曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

十二日 水曜日 午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午後、吹上御所において、今般ブラジル国ほかより帰国の大谷光暢・同夫人智子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十四日 金曜日 天皇と共に表一の間において、この度離任のオーストリア国特命全権大使フリードリッヒ・ハルトルマイル及び同夫人、ハンガリー国特命全権大使アンドラス・ザルカ、新任のフランス国特命全権大使ルイ・ド・グランゴー及び同夫人、クウェート国特命全権大使モハマッド・ザイド・アル・ヘルビツシュ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日より日本橋白木屋において開催の財団法人日本ばら会主催「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、天皇と共に新宮殿工事現場にお出ましになり、作業員等に御会釈を賜う。ついで臨時皇居造営部長高尾亮一の説明により、正殿・大食堂などを御視察になる。○女官長日記、女官日誌

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿造宮記録

天皇と共に表一の間において、この度離任のトルコ国特命全権大使メリフ・エセンベル及び同夫人・息女、新任のルーマニア国特命全権大使イオン・ダトク及び同夫人、パキスタン国特命全権大使シエド・マクブール・ムルシエド及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、靖国神社靈璽奉安祭に各都道府県代表沖繩を含むとして参列する遺族の賜謁があり、天皇と共に辰巳の庭にお出ましになる。同神社権宮司池田良八より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

二十日 木曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代より祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十一日 金曜日 大分県において開催される第二十一回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情御視察のため、天皇と共に大分県及び熊本県に行啓される。午前九時二十分御出門、東京国際空港よりお召し機にて福岡空港板付空港に向かわれる。福岡空港より博多駅・小倉駅を経て、大分県の別府

駅にお着きになり、午後四時十四分別府市の御泊所杉乃井ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 土曜日 午前九時五十八分天皇と共に御泊所杉乃井ホテルを御出発になり、別府市の社会福祉法人太陽の家を御訪問になる。御視察を終えられ、亀川駅から大分駅・高城駅を経て大分県護国

昭和四十一年十月

神社にお立ち寄りになり、石階上において御拝礼になる。ついで境内の松栄山展望所に移動され、大分市街地及び臨海工業地帯を御展望になる。次に大分県庁にお着きになる。同所において物産品を御覧になる。御昼食後、御泊所にお戻りになる。午後三時、天皇と共に再び御泊所を御出発になり、別府市郊外の志高湖畔を御散策になる。途中、昭和三十三年の行幸啓の際に植樹されたスギが成長した姿を御覧になる。四時五分御泊所杉乃井ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

崇仁親王・同妃百合子この日結婚満二十五年につき、お悦びとして天皇・皇后より鮮鯛及びお祝いの品を賜う。○女官長日記、重要雑録

二十三日 日曜日 午前十時二十八分天皇と共に御泊所杉乃井ホテルを御出発、大分県立大分図書館に向かわれ、同所において各種文化資料を御覧になる。御昼食後、第二十一回国民体育大会秋季大会開会式が行われる大分市菅陸上競技場に向かわれる。御着後、会場のお席に着かれ、開会式に臨まれる。終わって同所をお発ちになり、株式会社大分生態水族館マリーンパレスを御見学になる。午後五時十四分御泊所杉乃井ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

第二回国民体育大会報告書

二十四日 月曜日 午前九時三十六分天皇と共に御泊所杉乃井ホテルを御出発、別府駅より大分駅・

佐伯駅を経て、国体硬式野球会場の佐伯球場に御到着になり、硬式野球の中京商業高等学校愛知県代表 対平安高等学校京都府代表の試合を御観戦になる。ついで佐伯市役所において御昼食の後、二平合板株式会社を御視

察になる。終わって佐伯駅より大分駅・別府駅を経て、国体庭球会場の別府市営青山庭球コートに御到着になり、東京都代表対長崎県代表の一般男子等の庭球競技を御観戦になる。午後五時六分御泊所杉乃井ホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

二十五日 火曜日 午前九時三十一分天皇と共に御泊所杉乃井ホテルを御出発になり、別府駅より大分駅・三重町駅を経て国体馬術競技会場の大野郡三重町宮大原陸上競技場に御到着になる。同所において一般自馬中障害飛越競技を御覧になる。ついで近接する国体軟式野球会場の三重町宮大原球場に移られ、日田商業高等学校大分県代表 对新潟商業高等学校新潟県代表 の軟式野球の試合を御観戦になる。次に大分

県農業技術センターにおいて施設の説明をお聞きになり、御昼食後、同所を御出発になり、三重町駅より大分駅・由布院駅を経て、国体ホッケー競技会場の陸上自衛隊湯布院駐屯地に向かわれる。同所グラウンドにおいて、湯布院クラブ大分県代表 と名古屋クラブ愛知県代表 とのホッケー競技を御観戦になる。ついで湯布院青少年スポーツセンターにおいて各種施設を御見学になり、少年団によるサッカーの練習等を御覧になる。午後四時五十五分御泊所九重レークサイドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

二十六日 水曜日 この日は御休養日に充てられる。午前十時四分天皇と共に御泊所九重レークサイドホテルを御出発、湯布院町の小田野池湿原地に御到着になる。同地のリンドウ、ヤマラッキョウ、ヌマクロボスゲ等を御観察になる。この際、食虫植物ムラサキミミカキグサを発見され、天皇、知事などにお示しになる。十一時三十分御泊所九重レークサイドホテルに還御される。午後は、雨のため、予定されていた黒嶽北山麓御散策をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸

昭和四十一年十月

啓録、宮内庁序報、官報

二十七日 木曜日 午前九時二十五分天皇と共に御泊所九重レークサイドホテルを御出発、由布院駅より豊後森駅・日田駅を経て、鏡坂展望台にお着きになる。展望台に上られ、日田盆地を御展望になる。次に国体弓道競技会場の日田市弓道場において弓道競技を御覧になる。午後、日田駅より豊後森駅を経て由布院駅にお着きになる。それより水分峠を経て朝日台、ついで牧の戸峠付近において山並みを御展望になる。また大分県と熊本県の県境において、久住高原や阿蘇山を御展望になる。終わって熊本県にお入りになる。三愛レストハウスにて御少憩後、城山展望所において阿蘇盆地、阿蘇カルデラ及び阿蘇五岳等を御展望になる。次に国立阿蘇青年の家を御訪問になり、青年等の討論会をお聞きになる。五時五十分御泊所阿蘇観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉

日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

二十八日 金曜日 午前九時三十分天皇と共に御泊所阿蘇観光ホテルを御出発、赤水駅から立野駅・熊本駅・宇土駅・三角駅を経て、パールライン観光ホテルにお着きになる。同所において御昼食後、熊本県のり研究所の展示等を御覧になり、またベランダから、この年九月二十四日に開通式を迎えた天草五橋の第一号橋を御覧になる。次に天草郡大矢野町の乳牛展示場、同郡松島町の熊本大学理学部附属臨海実験所を御視察になる。その後、合津港よりお召し船初姫丸に御乗船になり、船上より天草五橋と島々を御覧になる。三角港において下船され、三角駅から熊本駅を経て、午後五時四十四分御泊所熊本ホテルキャッスルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁

報、官報

二十九日 土曜日 午前九時四十二分天皇と共に御泊所熊本ホテルキャッスルを御出発になり、熊本駅より博多駅にお着きになる。ついで福岡空港より東京国際空港を経て、午後二時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 日曜日 この日より恒例のバザーを開催する常磐会に、切り花五百七十本キク四百八十本、カーネーション九十本を賜う。○女官長日記、贈賜録

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、去る十月八日に結婚した北白川道久・同夫人慶子の拝謁をお受けになり、結婚後の挨拶をお受けになる。天皇・皇后より道久に洋服地、慶子に洋服地紅葉山御養蚕所産を賜う。さらに、同夫妻にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

午後、吹上御所において、今般チリ国へ出立の久邇正子、及び今般ドイツ国より帰国の久邇典子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

## 十一月

三日 木曜日 午後、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援において選ばれた健康優良児童及

び健康優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。同会会長美土路昌一朝日新聞社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

昭和四十一年十一月

四日 金曜日 午前、第十回日本学生科学賞<sup>全日本科学教育振興委員会主催 読売新聞社後援</sup>を受賞した中学生・高校生等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。読売新聞社代表取締役副社長小林与三次より挨拶を受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁序報

午後、奥一の間において、この日文化功労者として招かれた俳優の東山千栄子の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

六日 日曜日 第七回日米野球大会を御覧になるため、午後一時三十分天皇と共に御出門、後楽園球場に行啓される。御観覧席においてロサンゼルス・ドジャース対全日本の試合を御観戦になる。四時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報

七日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のコートジボワール国駐劄特命全権大使藤建一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

八日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、この度離任のアルゼンチン国特命全権大使ギリェルモ・ホータ・カーノ及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

謁見の間において、今般夫人が着京したチリ国特命全権大使アウグスト・マランビオ・カブレラ及び同夫人を御引見になる。ついで新任の中華民国特命全権大使陳之邁及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

九日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この年結婚二十五周年を迎えた崇仁親王・同妃

百合子、及び故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。ついでお悦びのため御晩餐を催される。なお、天皇・皇后より、御晩餐に招待された五方及び皇太子・同妃始め皇族・元皇族等に御紋章付銀製菊型ボンボニエール双鶴若杉桐彫付きを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

十日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御苑内を御散策になり、皇居の鳥類調査のため参内した山階鳥類研究所員黒田長久より、鳥に関する説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、入江相政日記

十一日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時三分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時一分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 正午過ぎ、天皇と共に広芝において、岩手県から献上されたキジ八羽の放鳥を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、入江相政日記

十三日 日曜日 歌舞伎を御観劇のため、午後四時四分天皇と共に御出門、千代田区隼町に新設された国立劇場に行啓される。六時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 月曜日 今般八十九歳になった元学習院長山梨勝之進に、天皇・皇后より杖御紋章入りを賜う。○恩賜録

十六日 水曜日 午後、天皇と共に、岡山より上京した池田厚子と御対面になる。その後、皇后は厚

子と共に吹上御苑を御散策になり、高尾亮一の説明により、新宮殿の工事現場を御覧になる。ついで庁舎にお立ち寄りになり、表装の完成した皇后の御絵を御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

**十七日** 木曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部秋季洋楽演奏会に御臨席になる。豊英秋によるシヨパン作曲スケルツォ第三番のピアノ独奏、菌隆博・本郷晴子によるヴィエニャフスキー作曲ヴァイオリン協奏曲第二番第二楽章「ロマンス」のヴァイオリン独奏・ピアノ伴奏、東儀俊美の指揮によるモーツァルト作曲喜遊曲K・一三八、沖不可止の指揮によるシヨパン作曲「軍隊ポロネーズ」管弦楽編曲版等をお聴きになる。演奏終了後、御休所において沖不可止・本郷晴子ほか四名の拝謁をお受けになる。また、この日陪聴した御学友・御同級生二十五名に賜茶があり、皇后御自ら楽堂内を御案内になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

**十八日** 金曜日 午前、拝謁の間において前田青邨の拝謁をお受けになり、最近お描きになった御自身の作品 菊・兎・オリブ・尾長鯛をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宿日直勤務控簿

午後、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者齋藤宗久 東京都学  
校医会長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る十月二日に誕生日を迎え、数えで八十歳となった朝香鳩彦に、この日、天皇・皇后よりお品及び万那料等を賜う。○女官長日記、贈賜録

**十九日** 土曜日 午後、文部大臣から表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に辰巳の庭に

お出ましになる。麴町学園女子中・高等学校校長山下重二より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に賢所通用門前において、加島十兵衛・同子息に御会釈を賜う。加島十兵衛は、明治以来、新嘗祭に用いる白酒などの醸造に従事した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十二日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くスーダン国駐劄特命全權大使針谷正之及び同夫人、セネガル国駐劄特命全權大使広瀬達夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、新嘗祭夕の儀に参列した皇太子と御対面になり、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 木曜日 夕刻、天皇と共に、この日より二十六日まで東京で開催されるアジア開発銀行創立総会に参会のアジア極東経済委員会代表ウ・ニョン、フィリピン国大蔵大臣エドワード・Z・ロムアルデス及び同夫人、米国財務長官ヘンリー・H・ファウラー及び同夫人等、並びに内閣総理大臣始め関係閣僚夫妻等約百六十名をお招きになり、宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮中茶会、外交雑録

二十五日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、日本オリンピック委員会委員長竹田恒徳の拝謁をお受けになり、来る十二月九日よりタイ国バンコクにおいて開催される第五回アジア競技大会に参列につき、挨拶をお受けになる。二十九日には、同大会に日本国代表選手団を派遣するに当たり、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

昭和四十一年十一月

人日誌、賜与録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午後、天皇と共に表一の間において、新任のカナダ国特命全権大使ハーバート・オーウェン・モラン及び同夫人、レバノン国特命全権大使トゥーフィック・アウアド及び同夫人、ビルマ国特命全権大使バ・シユエをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

拝謁の間において、宮内庁職員組合総合美術展に出品された皇后の御作品を拝見するために参内した御学友・御同級生二十三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、学習院長麻生磯次より、学習院についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三十日 水曜日 午前、天皇と共に、楽部において開催の宮内庁職員組合総合美術展にお出ましになり、皇后御出品の日本画二点紅白梅図二曲屏風、うぐひ（秩父のハヤ）、皇太子妃・徳仁親王の作品等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、文化

天皇と共に拝謁の間において、この日満一歳の誕生日を迎えた文仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、皇太子妃にお品料を、同親王に鮮鯛及び御台形代料を、正田家に五種交魚代料をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二月

- 二日 金曜日 午前、拝謁の間において、京都在住の堂上会総代梅園篤彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録
- 三日 土曜日 この日誕生日を迎え、数えで八十歳となった東久邇稔彦に、天皇・皇后よりお品及び万那料等を賜う。○女官長日記、贈賜録
- 四日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌
- 五日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日雍仁親王例祭に当たり女官御差遣につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録
- 六日 火曜日 昭和四十八年に神宮式年遷宮執行につき、この日、天皇・皇后より神宮に金一封を賜う。なお、去る十一月八日、財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会が発足した。以後、昭和四十八年まで毎年賜金がある。○宮内庁庁報、神宮彙報
- 十一日 日曜日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、来る十八日甯子内親王結婚につき、同内親王始め皇族・元皇族等十四方をお招きになり、送別の午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録
- 十二日 月曜日 午前、拝謁の間において、元イスラエル国駐節特命全権大使服部比左治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮

昭和四十一年十二月

内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、糸竹会による老越調音取・颯踏・迦陵頻急・酒胡子残楽三返・胡飲酒破・酒清子・御歌の演奏をお聴きになる。終わって御休所において、会員の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

**十三日** 火曜日 午前、宮内庁庁舎皇族休所において、結婚のためこの日宮中三殿の拝礼を終えた甯子内親王と御対面になる。崇仁親王妃百合子も同席する。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、甯子内親王殿下御結婚録

午後、天皇と共に吹上御所において、来る二十五日に行われる大正天皇四十年式年祭皇靈殿の儀において天皇・皇后の御名代を務める正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録

来る十八日甯子内親王と近衛護輝結婚につき、二時三十分、天皇と共に西の間において、朝見の儀に臨まれる。式中、甯子内親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。その後、天皇と共に拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。翌十四日、天皇・皇后より崇仁親王・同妃に清酒・鮮鯛代料を、同内親王に扇子代料・白縮緬及びお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、甯子内親王殿下御結婚録、重要雑録、宮殿行事録、

宮内庁庁報、官報

**十五日** 木曜日 夕刻、賢所御神楽につき御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また、歳末無料健康相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、昨十八日に結婚した近衛護輝・同夫人甯子よりお礼言上をお受けになる。天皇・皇后より護輝・甯子それぞれにお品を、同夫妻に万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

この日、天皇・皇后より日本赤十字社に事業御奨励金を賜い、また、これとは別に恒例賜金として金一封を賜う。このほか御奨励並びに古技保存の思召しにより、皇后より向陽会に金一封を賜う。さらに、皇后より日本赤十字社病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計一万五百七十三名に、手拭い一筋ずつを下賜される。○恩賜録、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のパナマ国駐箚特命全権大使高橋明及び同夫人、ハンガリー国駐箚特命全権大使八木正男及び同夫人、キューバ国駐箚特命全権大使佐藤崎人及び同夫人、イスラエル国駐箚特命全権大使吉川重蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、拝謁の間において、柳原博光<sup>柳原家当主</sup>の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

正午過ぎ、表二の間において、米国特命全権大使ウラル・アレクシス・ジョンソン及び同夫人を御引見になる。引き続き天皇と共に表一の間において、新任のイスラエル国特命全権大使モツシェ・バールトウル及び同夫人、中華民国特命全権大使陳之邁及び同夫人、ジョンソン米国特命全権大使及び同夫

昭和四十一年十二月

人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎え成年に達した東久邇文子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に鮮鯛代料・白羽二重等を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇と共に表一の間において、皇太子始め菊栄親睦会会員に午餐の御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、女官、元女官の祝賀を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 日曜日 大正天皇四十年式年祭山陵の儀並びに多摩東陵貞明皇后陵に御参拝につき、午前九時天皇

と共に御出門、多摩陵大正天皇陵及び多摩東陵に行啓される。御着後、天皇に続き両陵に御拝礼になり、午後一時還啓される。夕刻、御風気気味のため、大正天皇四十年式年祭御神楽の儀に当たり、女官今城

誼子に御代拝を仰せ付けられる。なお、この日午前、大正天皇四十年式年祭皇霊殿の儀が行われ、天皇御名代の正仁親王に続き、皇后御名代の正仁親王妃華子が拝礼する。夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃より御代拝の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午後、謁見の間において、新任のガーナ国特命全権大使サミュエル・パトリック・

オフェイ・クミ、コスタリカ国特命全権大使フェデリコ・ボリオ・ゴンザレス及び同夫人、カンボジア国特命全権大使シソワット・シリク・マタク及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 火曜日 午前、拝謁の間において、今般帰国のインドネシア国駐箚特命全権大使齊藤鎮男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥一の間において、宮内庁長官始め総代、及び女官より祝詞言上を、ついで正仁親王・同妃華子始め皇族、元皇族、御縁故者より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三十日 金曜日 歳末につき、午後、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

昭和四十二年（西曆一九六七年） 六十四歳

一月

一日 日曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。昨年十二月二十七日衆議院解散につき、衆議院議長始め衆議院議員の参列はなし。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、

儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二日 月曜日 午前、天皇と共に、奥一の間において宜仁親王始め未成年の皇族等の祝賀を、ついで表三の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録

この年の新年一般参賀は、新宮殿造営中のため、昨年と同様に参賀者への御会釈はなく、宮内庁庁舎前において記帳・名刺のみをお受けになる。○侍従日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、新年一般参賀関係書類綴、年

末年始関係、業務日誌、宮内庁庁報、官報

三日 火曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 木曜日 午前、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日の雍仁親王祥月命日につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 土曜日 新年につき、午後、天皇と共に、吹上東玄関前において元女嬬等の祝賀を、ついで吹上御所において元女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、昨年十二月十九日に欧州へ新婚旅行に出発し昨六日帰国した近衛護輝・同夫人甯子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

拝謁の間において、元御用掛服部豊子<sup>ヴァイオ</sup>リニストの祝賀をお受けになる。ついで元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

吹上御所において天皇と共に、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は月に三回から五回程度、吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九日 月曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員東京大学名誉教授国学院大学教授坂本太郎より「日本書紀の歴史的意義」、日本学士院会員一橋大学名誉

昭和四十二年一月

教授井藤半弥より「租税原則論の成立」、日本学士院会員東北大学名誉教授財団法人癌研究会附属病院院長黒川利雄より「胃癌について」と題する進講をお聴きになる。進講後、天皇と共に拝謁の間に、進講者及び進講者控の賜謁がある。なお、講書始の儀の進講者及び進講者控の賜謁はこの年より行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、講書始録、年末年始関係、宮内庁庁報、官報、黒川利雄関係文書

十日 火曜日 夕刻、吹上御所において天皇と共に、鷹司和子と御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 水曜日 吹上御所において天皇と共に、皇太子・徳仁親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 木曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「魚」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

#### 皇后宮御歌

秩父のはや屋久島の鯛長良の鮎北海の鮭をゑがきけるかな

儀終了後、拝謁の間において召人・選者・諸役の賜謁が、ついで内廷西玄関前において預選者の賜謁があり、天皇と共にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、

歌会始録、年末年始関係、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十七日 火曜日 公賓として来日中のブラジル国次期大統領アルトゥール・ダ・コスタ・イ・シルヴァ及び同夫人をお招きになり、北の間において天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来日に際し、皇后から次期大統領夫人に紅葉山御養蚕所製の絹洋服地<sup>白地金牡丹唐草模様裂地</sup>を賜い、次期大統領夫人から皇后に宝石入り腕輪の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

午後、東大根の海上における天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十九日 木曜日 午後、前田青邨より指導をお受けになり、水仙を御写生になる。また、以前描かれた作品や近日の御写生について、同人より講評をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、入江相政日記

二十日 金曜日 午後、元女官小倉満子、松岡鎮枝<sup>元久邇宮宮務監 督国分三亥の妹</sup>の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午後一時二十分御出門、二時四十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

二十四日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のブルガリア国駐劄特命全權大使武野義治及

昭和四十二年一月

び同夫人、イラン国駐箚特命全権大使宇山厚及び同夫人、インドネシア国駐箚特命全権大使西山昭及び同夫人、グアテマラ国駐箚特命全権大使藤田久治郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十五日 水曜日 午前、拝謁の間において天皇と共に、来る二十七日より二月七日まで英国を訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。これに先立ち十六日午前、拝謁の間において首席随員麻生和子・随員黒田実の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下連合王国御訪問記録、雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問、銀のボンボニエール

奥一の間において、英語教師イレース・ストライカーより英語の進講をお受けになる。なお、翌二十六日は天皇・皇后の御結婚記念日であるため、同人より手製のクッキーの献上がある。この年も同人の一時帰国時を除き、水曜日を中心にしばしば進講をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

謁見の間において、公賓として来日中のブラジル国外務大臣ジュラシー・モンテネグロ・マガリヤンエス及び同夫人を天皇と共に御引見になる。この度の来日に際し、外相夫妻から天皇・皇后に銀製装飾品及び『リオ・デ・ジャネイロ市史』の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁序報

近く離任するウルグアイ国特命全権大使バウティスタ・オチョテロ及び同夫人・息女、パナマ国特命全権大使セサル・アウグスト・ギリエン・マルクツシ及び同夫人・息女、新任のガーナ国特命全権大使サミュエル・パトリック・オフエイ・クミ、カンボジア国特命全権大使シンワット・シリク・マ

タク及び同夫人をお招きになり、西の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 来る三十日の孝明天皇百年式年祭に先立ち、午前、表三の間において、国学院大  
学教授藤井貞文より孝明天皇の御事蹟に関する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

二十七日 金曜日 邦彦王<sup>御父</sup>の祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌

二十八日 土曜日 午後、吹上御所において天皇と共に、鷹司和子と御対面になり、鷹司平通一周忌  
につきお礼言上をお受けになる。なお、昨二十七日には京都の二尊院において鷹司平通の一周忌法要  
が行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族録、贈賜録

吹上御所において、宮内庁御用掛武者小路不二子<sup>故元駐独大使武者小路公共夫人</sup>を召され、フランス語を学ばれる。以後  
この年も、武者小路をお相手として不定期にフランス語を学ばれる。○女官長日記、女官日誌

三十日 月曜日 午前、孝明天皇百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官  
日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

## 二月

二日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のナイジェリア国駐節特命全権大使服部比左治及  
び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

三日 金曜日 午前、拝謁の間において、平安神宮宮司小松輝久の拝謁を天皇と共にお受けになる。小松は、孝明天皇百年式年祭の年に当たり、天皇・皇后による同神宮への御参拝を願い出るため上京した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

正午過ぎ、表二の間において、新任のトルコ国特命全権大使トゥルグート・アイトゥー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後零時三十分、近く離任するニカラグア国特命全権大使ノエル・ナヴァス・バレート、マレーシア国特命全権大使トゥンク・インドラ・プトラ、新任のトルコ国特命全権大使トゥルグート・アイトゥー及び同夫人をお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 月曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十九分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

七日 火曜日 午後、参邸の前田青邨の指導により絵を描かれる。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、贈賜録、葉山行幸啓録

八日 水曜日 元皇太后宮大夫大谷正男去る六日死去につき、この日、天皇・皇后より賜物使として侍従松平潔を大谷邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また、天皇・皇后より切り花・菓子を賜う。大谷は昭和十一年より二十一年まで皇太后宮大夫を務めた。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、

賜与録、宮内庁庁報

九日 木曜日 この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十四日 火曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前九時五十五分御出門、十一時二十分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において、先般英国より帰国の故雍仁親王妃勢津子に天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のアルゼンチン国駐劄特命全権大使河崎一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、故雍仁親王妃勢津子英国訪問の首席随員麻生和子・随員黒田実の拝謁をお受けになる。続いて随行員の賜謁があり、天皇と共に常侍官候所脇階段下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下連合王国御訪問記録

二十日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、日本自然保護協会会長川北禎一より自然保護についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のオーストリア国特命全権大使オットー・ア

イゼルスベルグ、ハンガリー国特命全権大使カーロイ・シゲティを順次御引見になる。引き続き、近く離任のソビエト連邦特命全権大使ウラジミール・ミハイロヴィチ・ヴィノグラードフ及び同夫人、新任のオーストリア国特命全権大使、ハンガリー国特命全権大使をお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、

宮内庁序報

故雍仁親王妃勢津子が先般英国訪問から帰国につき、吹上御所において天皇と共に御晚餐を催される。同妃のほか、皇太子始め皇族が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁序報  
二十三日 木曜日 午後、吹上御所において天皇と共に、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

### 三月

一日 水曜日 午後、吹上御所において、昨日出来上がった『桃苑画集』の見本刷二部を御覧になる。

この画集は昭和三十一年から四十一年に至るまでの御作品集で、前田青邨の撰に皇后のお好みも加えて編集された。宮内庁職員組合文化祭への御出品を開始されてから十年が経過し、この機会に制作のあとを顧みたいとお考えを示されたことから今般刊行の運びとなった。収録作品は、文化祭御出品作の一部と未発表の作品から構成される。○女官長日記、女官日誌、入江相政日記、桃苑画集

三日 金曜日 午前、天皇と共に、吹上御所御車寄において管理部長西原英次の説明により、新御料車ニッサン・プリンス・ロイヤル<sup>初の国産御料車</sup>を御覧になる。ついで同車にて皇居内を巡られる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、日産自動車社史

四日 土曜日 久邇邦久御兄の祥月命日につき、午前中はお静かに過ごされる。○女官日誌

六日 月曜日 満六十四歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間において石坂泰三、続いて元皇太后宮女官等、元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄関前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元皇后宮女官・元女官等の祝賀を順次お受けになる。午後、常侍官候所脇階段下において元女嬬等の祝賀を、奥一の間において元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。その後、両陛下御座所において、徳仁親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子、東久邇信彦御孫と御晚餐を御会食になる。

この日、『桃園画集』が刊行され、御昼餐御会食の際に皇太子・同妃、正仁親王・同妃が、また、午後の祝賀の際に今井元女子学習院教授と御学友・御同級生が拝見する。御晚餐御会食の際には、皇后の思召しにより、出席した皇族・御親族に各家一部ずつ下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、桃園画集

九日 木曜日 午前、謁見の間において、外務省招客として来日中の日本・パラグアイ混合委員会委

昭和四十二年三月

員長ヌーマ・アルシデス・マジヨルキン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、侍従入江相政を前田青邨邸に遣わされ、御絵を講評に託される。翌十日には入江より復命をお受けになり、午後は同御絵を整理される。○女官長日記、女官日誌、入江相政日記

十四日 火曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のメキシコ国特命全権大使フランシスコ・A・デ・イカサを御引見になる。引き続き、近く離任するデンマーク国特命全権大使トーベン・バスク・ニールセン及び同夫人、新任のメキシコ国特命全権大使をお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、謁見の間において、イスラエル国外務大臣アツバ・エバン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

十七日 金曜日 午後、天皇の御著書『日本産1新属1新種の記載をともなうカゴメウミヒドラ科 *Clathrozoidae* のヒドロ虫類の検討』の御刊行記念祝賀御茶会が、皇后御主催により開かれる。天皇と共に内廷庁舎に御着後、天皇の御座所において、主催者である皇后が天皇に同書を献上される。ついで天皇と共に表三の間にお出ましになり、天皇が宮内庁長官宇佐美毅から祝詞をお受けになった後、侍従職御用掛富山一郎よりヒドロゾアに関するスライドを用いた進講を天皇と共に聴きになる。北海道大学名誉教授内田亨、総理府技官辻村初来、及び宮内庁長官・次長・侍従次長・侍従・女官等出

席者一同も陪聴する。続いて表一の間に会場を移され、天皇にお祝いのお言葉を述べられた後、一同にお茶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、日本産1新属1新種の記載をともなうカゴメウミヒドラ科 *Cathosomidae* のヒドロ虫類の検討

十九日 日曜日 午前、天皇と共に大道庭園にお出ましになり、工務課職員の説明により各種盆栽及び温室を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十日 月曜日 去る十四日より二十二日まで開催の読売新聞社主催「南葵音楽文庫特別公開展」を御覧のため、午前九時五十二分御出門、上野松坂屋に行啓される。御到着後、会場に進まれ、マグシーバーイヤホン付きの小型受信機にてメロデーをお聴きになりながら、東京芸術大学助教授服部幸三の説明により文獻類、復元されたルネッサンス時代の楽器などを御覧になる。途中、「鳥道楽の宴」について服部に御質問になり、二世紀以上昔の古典ピアノを御覧になった際には鍵盤をたたかれる。十一時十八分還啓される。南葵音楽文庫は侯爵徳川頼貞が大正六年に入手した世界的音楽コレクションであるカミングス・コレクションの一部を中核とし、楽譜・音楽関連図書を含むもので、ヘンリー・パーセル、ベートーヴェンを始めとする諸音楽家の自筆楽譜・自筆書簡等が含まれる。関東大震災後長く非公開であったが、その全部が日本に保存されていることが判明し、この度整理のうえ一般に公開された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 女官長保科武子この日退職につき、天皇・皇后よりお品を賜う。○侍従職日誌、賜与

昭和四十二年三月

録、宮内庁序報

二十三日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のチリ国駐箚特命全権大使高橋覚及び同夫人、フィリピン国駐箚特命全権大使安川壯及び同夫人、タンザニア国駐箚特命全権大使吉田健三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十四日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十九分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

二十八日 火曜日 午前、天皇及び参邸の正仁親王・同妃華子と共に三浦市西崎の磯にお出ましになり、海洋生物の採集をされる。同所において御昼食の後、三戸・立石御茶屋方面を御散策になる。二十九日・三十日にも天皇の海洋生物御採集に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

午後、拝謁の間において、近く赴任のニュージーランド国駐箚特命全権大使竹内春海及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、拝謁録、宮内庁序報、稲田周一  
関係資料

二十九日 水曜日 午後、拝謁の間において、神奈川県知事内山岩太郎の拝謁を天皇と共にお受けになる。内山知事は翌四月の退任を前に、挨拶のため参邸した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

三十一日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前九時五十五分御出門、十一時二十分

皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

午後、謁見の間において天皇と共に、公賓として来日中のオーストラリア国外務大臣ポール・ハズラック及び同夫人を御引見になる。なお、この度の来日に際し、外相夫妻より天皇・皇后へ同国出身の画家ウイリアム・サーモンの絵画 *Mountain and Rocks* 及び羊毛敷物の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

#### 四月

一日 土曜日 第十二回ユニセフ協力募金を実施の財団法人日本ユニセフ協会に対し、事業御奨励のため金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二日 日曜日 御昼餐後、吹上御所の庭に飛来したヤツガシラを発見され、天皇と共に御所内より御覧になる。以降、折を見て庭を巡られ、ヤツガシラをお探しになる。ヤツガシラの飛来と御発見に寄せた御歌は次のとおり。

いただきにかんむり羽のつらなりてさまおもしろき鳥はまひきぬ

日の本にはあぬ鳥なりと人はいふわか見いてしをあはれと思ふ

大君はわか叫ふこゑにおどろきの御まなさしもてみいらたまひぬ

ひと目にてやつかしらそとのたまへる君のみことばうれしとぞ思ふ

正倉院の御物にありとふやつかしらいま目のまへに餌をあさるなり

昭和四十二年四月

五日の午後には、正仁親王が参邸し、吹上御所の庭においてヤツガシラの写真を撮影する。正仁親王のヤツガシラ観察に寄せた皇后の御歌は次のとおり。

鳥すきの宮もはせつけ双眼鏡手にして鳥をさかしもとめつ

冠羽立てつおろしついくたひか眼鏡のうちにとらへしといふ

なお、ヤツガシラは五日に皇后の前より姿を消す。ヤツガシラとの別れに寄せた御歌は次のとおり。

四日にして見うしなひけむやつかしらいつこの里にとひたちにつむ

ここにして目のゆくかきりさかせともつひに見いてすわかやつかしら

みそのにははやふさもいればいかならむやつかしらうへをわれは気づかふ

なかみせずときけばきくほどの庭に四日もあたりしことのうれしさ

五月二十三日には、ヤツガシラを発見された地に札を立てられる。このことに寄せた御歌は次のとおり。

みいでたる桜のもとに札たててひとりしのびぬやつがしらのうへ

同二十七日には、生物学御研究所においてヤツガシラの剥製を借用される。

ヤツガシラ飛来の後、翌四十三年にかけて、皇后は折を見て皇居でのスケッチや剥製を参考にヤツガシラの絵を描かれ、また四十首の御歌を添えた絵巻彩色本及び完成版である金泥本を製作される。この他、御絵の模様を

染め抜いた和服・帯を仕立てられる。ヤツガシラの御絵および絹地作成に寄せた御歌は次のとおり。

紙にゑかきはたまたきぬに染めもしてやつかしらのすかたをのちにつたへむ

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、入江相政随筆選、宮中門前学派、香淳皇后のご生涯と作品、皇后様、あけぼの集、鳥の楽園、

昭和

吹上御所において天皇と共に、東久邇信彦<sup>御孫</sup>・同文子<sup>同</sup>・同秀彦<sup>同</sup>・同真彦<sup>同</sup>・同優子<sup>同</sup>と御夕餐を御会食になる。なお、この度慶応義塾大学を卒業の信彦に背広地・お品料・万那料を、東洋英和女学院短期大学卒業の文子に洋服地・お品料・万那料を、慶応義塾幼稚舎を卒業の優子にお品料・万那料をそれぞれ天皇・皇后より賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三日 月曜日 午前、神武天皇祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

四日 火曜日 午前、謁見の間において、外務省賓客として来日中のトリニダード・トバゴ総督ソロモン・ホチヨイ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。総督夫妻はインド国・パキスタン国等を訪問の途次に、日本に立ち寄った。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

東京において開催中の国際連合アジア極東経済委員会<sup>F E C A</sup>第二十三回総会に参加している加盟国・準加盟国の首席代表夫妻及び内閣総理大臣以下関係閣僚夫妻等をお招きになり、西の間において天皇と共に宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮中茶会、典式録、宮殿行事録

五日 水曜日 午前、謁見の間において、近く離任のアフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ラヒーム及び同夫人・息女二名を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、昭和四十一年度音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇

昭和四十二年四月

太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子・憲仁親王・梨本伊都子・近衛甯子・朝香誠彦・梨本正子・島津忠重<sup>御母兄子の弟</sup>等が陪聴する。東京芸術大学卒業生による箏曲、武蔵野音楽大学卒業生によるヴァイオリン独奏、国立音楽大学卒業生によるメゾ・ソプラノ独唱、東京芸術大学卒業生によるフルート独奏、国立音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。御休憩を挟み、桐朋学園大学卒業生によるチェロ独奏、桐朋学園大学卒業生によるバリトン独唱、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生による弦楽二重奏をお聴きになる。終わって、楽部に設けられた御休所脇廊下において各校代表者・出演者に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者十五名に御紋付銀製スプーンを賜う。本演奏会は、文部省推薦による東京都下五校の卒業生が出演し、昨昭和四十一年二月に完成した桃華楽堂において皇后の音楽御奨励の思召しにより行われ、以後継続して開催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、音大卒業生演奏会、音楽大学卒業生演奏会、賜与録、稲田周一関係資料

四月一日付で東京大学教授から九州大学教授に転任した侍従職御用掛富山一郎をお招きの御夕餐に、天皇と共に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、九州大学七十五年史

七日 金曜日 岡山県において行われる昭和四十二年度植樹行事に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に岡山県・兵庫県及び京都府に行啓される。午前十一時二十分御出門、東京駅から新大阪駅・岡山駅を経て、午後五時二十六分岡山市の御泊所である後楽園内の延養亭に御到着になる。御夕餐は池田隆政・同夫人厚子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内

舎人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みどりの岡山

元東宮侍従長山田康彦昨六日死去につき、天皇・皇后より祭筵料を賜う。また、山田の死去に際し、天皇・皇后より靈前に菓子・切り花を、皇后より野菜を賜う。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、賜与録

八日 土曜日 午前九時三十三分御泊所延養亭を天皇と共に御出発になり、岡山駅から伊部駅を経て備前会館に向かわれる。御到着後、備前焼の作品や製作施設を御視察になる。備前焼作家金重陶陽及び助手森岡三知子によるロクロ技術の実演に寄せた御歌は次のとおり。

孫のごとわかきに轆轤まはさせて土のたくみは鉢つくりなす

次に錦海塩業株式会社を御視察になる。御昼食の後、牛窓オリーブ園に移られ、塩田や瀬戸内海の島々を御展望になる。続いて岡山県水産試験場、西大寺市の大蔵省印刷局西大寺工場を御視察の後、午後四時二十八分御泊所延養亭に還御される。御到着後、後楽園能舞台において、天皇及び池田隆政及び同夫人厚子と郷土芸能である吉備楽・備前獅子舞・備前太鼓唄を御鑑賞になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岡山県庁所蔵資料、錦海塩業株式会社所蔵資料、岡山県水産試験場所蔵資料、大蔵省印刷局西大寺工場所蔵資料、みどりの岡山、備前焼の伝統と歴史、牛窓風土物語、大蔵省印刷局時報、山陽新聞、あけぼの集

九日 日曜日 午前九時五分御泊所延養亭を天皇と共に御出発、池田隆政邸を御訪問になり、池田隆政及び同夫人厚子と御歓談になる。この際、鉢にゴヨウマツ・テダマツを御播種になる。それより県民憩いの家を訪問される。荒天による視界不良のため同所での御展望はお取りやめになり、植樹行事会場である金山植栽地に向かわれる。御到着後、荒天のためお野立所の天幕内において、天皇に続き、岡山県知事加藤武徳の介添えにより県木であるアカマツの苗木二本を卓上の鉢にお手植えになる。

昭和四十二年四月

その後、金川駅より中国勝山駅を経由して、真庭郡の株式会社勝山木材市場に向かわれる。同所において木材せり市の様子を御視察の後、午後三時二十七分御泊所湯原観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岡山県庁所蔵資料、稲田周一関係資料、石井光次郎日記、みどりの岡山、朝日新聞、毎日新聞、山陽新聞

十日 月曜日 午前九時五十分御泊所湯原観光ホテルを天皇と共に御出発、真庭郡八束村川上村中学校組合立蒜山中学校を御視察になる。ついでお手播き行事会場である財団法人中国四国酪農大方向かわれる。御到着後、お手播き床において岡山県議会議長丸本市松の介添えによりヒノキの種子をお手播きになる。天皇もアカマツの種をお手播きになる。ついで学生の討論や牛の審査実習等の御視察を終え、午後零時五十六分御泊所に還御される。二時二十二分再び御泊所を天皇と共に御出発、同郡湯原町の湯原湖畔にある日尾谷・湯川谷において天皇の植物御調査に同行され、お一方にて地衣類を御採集になる。三時五十八分御泊所湯原観光ホテルに還御される。その後、この日御採集の地衣類を整理される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、岡山県庁所蔵資料、みどりの岡山、景仰前田嘉明博士、山陽新聞、中国新聞

十一日 火曜日 午前十一時二十二分御泊所湯原観光ホテルを天皇と共に御出発、中国勝山駅より神戸駅を経て、午後四時十三分御泊所オリエンタルホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、みどりの岡山、兵庫県行幸啓誌、神戸新聞

十二日 水曜日 午前九時三十七分御泊所オリエンタルホテルを天皇と共に御出発になり、摩耶埠頭に御到着になる。明治製糖株式会社の倉庫屋上より御展望の後、株式会社神戸製鋼所神戸工場灘浜地

区を御視察になる。次に兵庫県庁を訪問される。御昼食後、神戸市立中央体育館において神戸・阪神地区から参加する家庭バレーボールの親善試合を御覧になる。この際、皇后は説明の兵庫県教育長一谷定之丞に選手の最高年齢をお尋ねになり、絶えず練習することが長く続ける秘訣なのだろうとの御感想を述べられる。終わって神戸駅から京都駅を経て、御泊所である京都大宮御所に到着される。御少憩の後、再び天皇と共に御泊所を御出発、株式会社川島織物本社工場を御視察になる。工芸技術棟では、日本芸術院会員中村岳陵の説明により、建造中の皇居新宮殿豊明殿の壁面を飾ることになる綴織「豊幡雲」の一部やその完成模型を御覧になり、また作成模様を御視察になる。皇后は織物の出色の美しさ、特に藤色の美しさをお褒めになる。午後四時五十分御泊所京都大宮御所に還御される。御到着後、天皇と共に、旧堂上・門跡・尼門跡等に御会釈を賜う。御夕餐は、天皇及び参内の大谷智子御と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、株式会社神戸製鋼所所蔵資料、兵庫県行幸啓誌、川島織物三十五年史、窮精発彩、昭和、神戸新聞、兵庫新聞

十三日 木曜日 午前九時三十分御泊所京都大宮御所を天皇と共に御出発、泉涌寺に御到着になる。

天皇に続き、孝明天皇陵、ついで英照皇太后陵を御拝礼になる。この度の山陵参拝に際し、天皇・皇后より泉涌寺に対し香華料を賜う。続いて霊明殿において天皇と共に御拝礼になる。終わって平安神宮に移られ、内拝殿において、天皇に続き御拝礼になる。京都大宮御所において御昼食の後、同所を御発の際、天皇と共に九条成子故九条道秀夫人・渋谷有教仏光寺法主、貞明皇后の御甥・同夫人笑子の拝謁をお受けになる。その後同所を御出発になり、京都駅より東京駅を経て、午後四時五十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、岡山兵庫京都各府県行幸啓録、幸啓録、臨時祭祀録、神宮及神社諸

昭和四十二年四月

件、重要雜録、宮内庁庁報、官報

十四日 金曜日 午後、謁見の間において、外務省賓客として来日中のベトナム共和国外務大臣チャ  
ン・ヴァン・ドオ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍  
人日記、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 日曜日 菊栄親睦会大会に御臨席のため、午前十一時七分御出門、綱町三井倶楽部に天皇と  
共に行啓される。午後三時三十八分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、行  
幸啓録、東宮録、幸啓録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 昭和四十二年科学技術週間記念行事として全国発明婦人協会が主催する「生活の発  
明工夫展」科学技術庁等後援・科  
学技術振興財団等協賛を御覧のため、午前九時二十九分御出門、科学技術館に行啓される。御到

着後、先着の皇太子妃及び内閣総理大臣佐藤栄作夫人寛子・外務大臣三木武夫夫人睦子・科学技術庁  
長官二階堂進・日本科学振興財団会長植村甲午郎始め関係者のお出迎えをお受けになる。ついで皇太  
子妃と共に展示会場に移られる。全国発明婦人協会会長中山マサの説明により、昭和四十二年度文部  
大臣賞を受賞した造型紙「アルパー」松井淑  
発案等の発明品、参考品を用いた明治期からの浴衣の変遷の解

説、組紐の実演、協賛展示及び前年度受賞作品を御巡覧になる。十時十六分還啓される。○女官長日記、

女官日記、侍従職日記、内舍人日記、幸啓録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 なでしこ会主催の佐賀県陶磁器並びに全国漆器展示即売会に御臨席のため、午前十  
時五十分御出門、光輪閣に行啓される。御到着後、皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・

宣仁親王妃喜久子なでしこ・崇仁親王妃百合子・東久邇聡子・梨本伊都子・伏見朝子・賀陽敏子・北白川祥子と御対面になる。ついで展示即売会場を巡覧される。御昼餐御会食後、再び会場にお出ましになる。午後四時三十分還啓される。その後、吹上御所において、宣仁親王妃と御対面になり、この日の行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記

来る二十日、厚生省の主催により千鳥ヶ淵戦没者墓苑において納骨並びに拝礼式が行われるにつき、この日天皇・皇后より同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、謁見の間において、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団総裁ヴェルナー・カール・ハイゼンベルクミュンヘン大学教授、ノーベル物理学賞受賞者及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、謁見等

午後、財団法人結核予防会総裁故雍仁親王妃勢津子から表彰された結核予防事業功労者四十九名の謁見があり、北の間にお出ましになる。結核予防会理事長山口正義より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

謁見の間において、外務省賓客として来日中のペルー国第二副大統領マリオ・ポラール・ウガルテチエ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、謁見の間において天皇と共に、国際見本市視察のため外務省賓客として来日中のスイス国経済大臣ハンス・シャプナー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

昭和四十二年四月

侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午後、天皇と共に林鳥亭にお出ましになり、去る三月の『桃苑画集』出版を記念した天皇御主催のお茶の会に臨まれる。絵画の指導を奉仕した前田青邨、宮内庁長官・宮内庁次長並びに側近奉仕者が参加する。開始に当たり、宮内庁長官・前田青邨の祝賀に続き、お言葉を賜う。天皇よりもお礼のお言葉がある。ついで参加者とお茶を共にされる。なお、今般の御画集出版につき、

天皇よりお祝いとして印類が贈られる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十二日 土曜日 元宮内省御用掛兼東宮職御用掛二荒芳徳元学習院評議員 昨二十一日死去につき、天皇・皇

后より祭糝料及び切り花・菓子を賜う。○贈賜録、賜与録

二十四日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のポーランド国駐箚特命全権大使金山政英及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報、官報

拝謁の間において天皇と共に、来る五月九日よりペルー国・アルゼンチン国・ブラジル国へ天皇の御名代として差遣される皇太子並びに同伴の皇太子妃の首席随員久保田貫一郎元特命全権大使及び随員の拝謁を

お受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子同妃両殿下ペルー・アルゼンチン・ブ

ラジル国御訪問

二十五日 火曜日 午後、吹上御所において島津忠重・同夫人伊楚子の拝謁をお受けになる。なお、伊楚子は今般八十歳につき、後日、皇后より同夫妻へお祝いの品を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 午前、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者の謁があり、天皇と共に辰巳の庭にお出ましになる。厚生大臣坊秀男より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において、来る五月二十五日に古河潤之助と結婚する久邇典子<sup>御姪</sup>の拝謁をお受けになる。この度の拝謁に当たり、典子にお品・菓子等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十八日 金曜日 午前、内廷西玄閣脇廊下において、便利堂社長中村桃太郎、同前社長夫人中村泰子等に御会釈を賜う。なお、同社は『桃苑画集』の刊行を担った。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、桃苑画集

謁見の間において、新任のローマ法王庁大使ブルーノ・ヴュステンベルグを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 天皇誕生日につき、午前、奥一の間において、宮内庁長官始め総代、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。ついで御座所において、東久邇文子等四名、続いて女官一同より祝詞言上をお受けになる。

正午、奥一の間において内宴を催され、皇太子妃及び親王妃と御会食になり、御食後、皇太子以下も加わり果物をお召し上がりになる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国特命全権大使等が出席する。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王より祝詞言上をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。また、天皇誕生日の一般参賀は、昨年引き続き新宮殿造営工事のため参

昭和四十二年五月

賀者への御会釈はなく、宮内庁庁舎前において記帳・名刺のみをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、儀式録、天皇誕生日一般参賀関係綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

## 五月

一日 月曜日 午前、天皇と共に奥一の間において、全国銘菓協会清月堂本店社長水原清一より献上の伏見樽等をかたどった菓子を観覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のスペイン国駐箚特命全權大使高野藤吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る九日よりペルー国・アルゼンチン国・ブラジル国に天皇の御名代として差遣される皇太子、及び同伴する同妃と御対面になる。続いて、天皇及び皇太子・同妃のほか、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、寛仁親王、鷹司和子、池田厚子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

四日 木曜日 日本助産婦会創立四十周年記念式に御臨席のため、午前九時五十分御出門、九段会館に行啓される。御到着後、御休所において厚生大臣坊秀男・日本助産婦会会長横山フクの拝謁をお受けになった後、式場に臨まれる。式典中、厚生大臣表彰・会長表彰等へ続き、次のお言葉を賜う。

日本助産婦会創立四十周年記念式典に臨み、全国の皆さんにお会いすることができて、うれし

く思います。

助産婦は、母と子の生命をまもり、更にその保健衛生を指導する重要な使命をもつものであり、苦労も多いことと思いますが、今後も健康に気をつけ、互いに協力して、社会のために一層努力するよう希望します。

会長より奉答をお受けになった後、御退場になる。十時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 午前、天皇と共に宮内庁庁舎旧侍医寮屋上にお出ましになり、新宮殿の工事の状況を御覧になる。ついで造営中の新宮殿に移られ、外観及び内部等を天皇と共に御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇居造営記録

八日 月曜日 日本赤十字社創立九十周年記念大会に名誉総裁として御臨席のため、午後零時四十五分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓される。御到着後、御休所において名誉副総裁の皇太子・同妃、正仁親王妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで同所において内閣総理大臣佐藤栄作・厚生大臣坊秀男・日本赤十字社社長川西実三の拝謁をお受けになり、大会会場に臨まれる。式典中、天皇のお言葉、日本赤十字社社長の奉答に続き、金色有功章受章者・章銀の有功章受章者各総代に対し各章を、金色特別社員章受章者総代に対し同章及び章記を、功労役員被表彰者・社業推進功労被表彰者の各総代に表彰状及び感謝状を御親授になる。

被表彰者による謝辞の後、会場を御出発になり、一時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日赤百年

天皇と共に東の間において、翌九日に東京で開催される第五回国際港湾協会<sup>PIA</sup>総会<sup>PH</sup>に出席のため来日

中の同協会関係者を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録

宮内庁庁報

九日 火曜日 財団法人日本いけばな芸術協会発会記念展を御覧になるため、午前九時二十六分御出

門、天皇と共に日本橋高島屋に行啓される。十時三十一分還啓される。なお、同協会が発会記念展の

収益の一部をガン研究基金に協賛するに当たり、基金の一助として天皇・皇后より同協会に金一封を

賜う。還啓後、天皇と共に吹上御所において、日本いけばな芸術協会名誉総裁を務める宣仁親王妃喜

久子と御対面になり、この日の行幸啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、日本いけばな芸術協会所蔵資料、菊と葵のものがたり

天皇と共に吹上御所において、この日天皇の御名代としてペルー国・アルゼンチン国・ブラジル国訪

問に出発する皇太子、及び同伴の同妃に御対面になる。またお見送りの勅使として、侍従長福田周一

を東京国際空港に差し遣わされ、天皇・皇后のお言葉を伝達させられる。夕刻、天皇と共に吹上御所

において、稲田侍従長の復命をお聞きになる。なお、この度の御差遣に際し、去る四月二十四日、天

皇・皇后よりの御贈進品として、ペルー国大統領に九谷焼飾壺<sup>花の吉</sup>、アルゼンチン国大統領に蒔絵梨

子地広蓋、同大統領夫人に七宝花瓶<sup>紫紺地、菊文</sup>、ブラジル国大統領に七宝花瓶<sup>木瓜型、梅話文</sup>、同大統領夫人に銀製宝

石箱<sup>御所車  
模様</sup>が、皇太子に託される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇太子同妃両殿下ペルー・

アルゼンティン・ブラジル国御訪問、外交贈答録、外交雑録、空港行事録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

十日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、日独政府定期協議のため来日中のドイツ連邦共

和国外務大臣ヴィリー・ブランド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、先般退職の前女官長保科武子の拝謁をお受け

になる。天皇・皇后よりそれぞれお品を、天皇・皇后より金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

十三日 土曜日 正午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、掃立て後の蚕の様子を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌

午後、内廷庁舎において、この度晋山式を終えた大聖寺門跡の花山院慈薫の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十四日 日曜日 母の日につき、皇太子妃<sup>外国訪  
問中</sup>よりお品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 火曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任するブルガリア国特命全権大使フリスト・

ズドウラフチェフ及び同夫人、ベトナム共和国特命全権大使グエン・ドウィ・クワン、モロッコ国特

命全権大使タイエブ・セブテイ、新任のローマ法王庁大使ブルーノ・ヴュステンベルグをお招きにな

り、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

庁報

昭和四十二年五月

十七日 水曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

この日より二十二日まで開催の財団法人日本ばら会主催「春の日本ばら会展」会場池袋東武百貨店に、会期中三度

にわたり、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十八日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る二十五日に古河潤之助と結婚する久邇典

子御兄朝融の息女の拝謁をお受けになる。この度の拝謁に際し、天皇・皇后より洋服地・万那料・菓子を、皇

后よりお祝いの品を賜う。また、これとは別に、天皇・皇后より久邇邦昭典子の兄・同典子にそれぞれ賜物

がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧皇族録、贈賜録

十九日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において春の園遊会を催される。午後二時三分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時七分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

二十一日 日曜日 大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後三時二十四分御出門、天皇と共に

蔵前国技館に行啓される。五時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

午後、楽部へお出ましになり、糸竹会会員の演奏をお聴きになる。終わって会員・講師の拝謁をお受

けになる。三時十五分還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、糸竹会

二十五日 木曜日 メソポタミア展を御覧のため、午前九時十九分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。同館考古課先史室長藤田国雄等の説明により御巡覧になり、途中、展示品の材質等につき御下問になる。十時四十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十六日 金曜日 ギリシャ国王コンスタンティノス二世の王子パウロス誕生につき、この日、天皇・皇后より同国王に祝電を発せられる。これに対し翌二十七日、答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十七日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 日曜日 常磐会総会に伴う懇親会に御臨席のため、午後一時二十分御出門、椿山荘に行啓される。御到着後、御休所において先着の正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、尾上松緑の舞踊、松永和兵衛・柏伊三郎社中の唄・三味線による長唄「松」を御覧になる。終わって別室に移られ、正仁親王妃・故雍仁親王妃・崇仁親王妃・梨本伊都子・東久邇聡子・賀陽敏子・伏見朝子とお茶を共にされ、ついで御同級生等と御歓談になる。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日ペルー国・アルゼンチン国・ブラジル国訪問より帰国の皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

宮内庁庁報

昭和四十二年六月

六月

三日 土曜日 午後、吹上御所において、道明新兵衛<sup>第七代</sup>及び子息をお召しになり、組紐作成の指導をお受けになる。以後、この年も、しばしば道明をお召しになり、組紐作成に取り組まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任の米国駐箚特命全權大使下田武三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、去る五月三十一日に。ルー国・アルゼンチン国・ブラジル国訪問より帰国した皇太子・同妃の首席随員久保田貫一郎、随員鈴木菊男ほか八名の拝謁をお受けになる。ついで随行員五名の賜謁があり、天皇と共に常侍官候所脇階段下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 火曜日 午後、天皇と共に謁見の間において、公式訪問中のルーマニア国外務大臣コルネリウ・マネスク及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度任地より帰国の前タイ国駐箚特命全權大使粕谷孝夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

拝謁の間において、結婚後初参内の古河潤之助・同夫人典子より、お礼言上をお受けになる。この度

の参内に際し、天皇・皇后より潤之助にお品を、典子に洋服地・万那料・お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

九日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 土曜日 デンマーク国王嗣マルグレーテ王女この日結婚につき、天皇・皇后より同国王フレデリック九世に祝電を寄せられる。これに対し十六日に、答電が寄せられる。なお、去る五月二十三日には、同王嗣の結婚に当たり同国駐劄特命全権大使を通じて、天皇・皇后より王嗣にお祝いとして九谷焼飾皿極彩色更紗小紋を御贈進になる。これに対し後日、王嗣・同夫君ヘンリックより天皇・皇后宛てに

礼状六月付が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

十三日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のタイ国駐劄特命全権大使関守三郎及び同夫人、経済協力開発機構OECD日本政府代表部特命全権大使加藤匡夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表一の間において、近く離任するスイス国特命全権大使ジャン・ドウ・ラーム及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権大使ウラジミル・ロロヴィツチ及び同夫人、英国特命全権大使フランシス・ブライアン・アンソニー・ランドル及び同夫人、インド国特命全権大使バドルッディン・ティアブジー及び同夫人・息女をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十二年六月

天皇と共に吹上御所において、去る五月三十一日にペルー国・アルゼンチン国・ブラジル国訪問より帰国した皇太子・同妃と御晩餐を御会食になる。正仁親王・同妃華子始め皇族・御親族が出席する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十四日 水曜日 午後、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の閣

にお出ましになる。藍綬褒章受章者吉永貫一より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 天皇と共に表一の間において、ネパール国皇太子ビレンドラ・ビル・ビクラム・

シャー・デーブ 去る四月より東京大学に留学中をお招きになり、宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、拝謁の間において、任地より帰国の前米国駐劄特命全権大使武内竜次及び同

夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る七月六日よりカナダ国を訪問する宣仁親

王・同妃の首席随員奥村勝蔵、随員植村甲午郎以下七名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣仁親王同妃両殿下カナダ御訪問

去る五月より続く南関東一帯の異常渇水に鑑み、この日より二十五日まで予定されていた葉山御用邸

への行幸啓をお取りやめになる。○葉山行幸啓録、幸啓録、稲田周一関係資料

二十一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、天蚕・柞蚕の繭をお取りになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に表三の間において、東京大学教授原寛より、ブータン国における植物の学術調査について、スライドを用いた進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

二十五日 日曜日 財団法人藤楓協会創立十五周年記念式典に御臨席のため、午前十一時七分御出門、天皇と共に日比谷公会堂に行啓される。十一時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、藤楓協会所蔵資料、高松宮宣仁親王殿下をお偲びして、藤楓協会創立三十周年誌

二十六日 月曜日 天皇と共に表一の間において、皇太子始め菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐を御会食になる。御食後、表三の間においてお茶を共にされる。

ついで皇太子妃と共に桃華樂堂にお出ましになり、楽部職員による春季洋楽演奏をお聴きになる。御会食に参加の菊栄親睦会会員のうち、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王妃百合子、朝香鳩彦、賀陽恒憲・同夫人敏子、伏見朝子・同和子朝子の子息、博明の夫人、鷹司和子、島津貴子、近衛甯子も陪聴する。豊英秋によるドビュッシー作曲「雨の庭」のピアノ独奏、沖不可止指揮によるチャイコフスキー作曲バレエ組曲「眠れる森の美女」の管弦楽演奏等をお聴きになる。終わって御休所において、楽長安倍季巖・同辻寿男、指揮者沖不可止、ピアノ伴奏本郷晴子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

財団法人結核予防会主催の特別招待試写会に御臨席のため、午後六時二十五分御出門、天皇と共に国立教育会館虎の門ホールに行啓される。八時四十四分還啓される。なお、この度の行幸啓に際し、財

昭和四十二年七月

団法人結核予防会に天皇・皇后より金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、財団法人結核予防会五十年のあゆみ、複十字

二十七日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のセイロン国首相ダドレー・シエルトン・セナナヤケを御引見になる。ついで天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より同首相に御紋付銀製花瓶を賜う。また、同首相より天皇・皇后に献上があり、皇后にはセイロン・ルビー首飾りが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 朝融王妃知子女王二十年式年祭に当たつて、天皇・皇后より霊殿に菓子、墓所に榊を、皇后より霊殿に切り花をお供えになる。また、女官今城誼子を豊島岡墓地に差し遣わされる。

○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十九日 木曜日 午前、謁見の間において、メキシコ国特命全権大使フランシスコ・A・デ・イカサ及び今般来日した同夫人、新任のパナマ国特命全権大使アルトゥーロ・ゴンザレス・カストレリョン及び同夫人、ソビエト連邦特命全権大使オレグ・アレクサンドロヴィチ・トロヤノフスキー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

## 七月

一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三日 月曜日 第二十一回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に日本赤十字社名誉総裁として御臨席のため、午前十時十分御出門、日本赤十字中央女子短期大学に行啓される。御休所において、同社名誉副総裁である皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで衆議院議長石井光次郎、厚生大臣坊秀男、日本赤十字社長川西実三・同副社長石坂泰三・同田辺繁雄の拝謁をお受けになる。式場に移られ、御着席になる。社長挨拶に続いて、前橋赤十字病院看護部長金子シズ・小松島赤十字病院看護部長仁木イワノ・昭和大学病院総看護婦長鈴木モヨにそれぞれ章記並びに記章を御親授になり、次のお言葉を賜う。

このたび、金子シズ、仁木イワノ、鈴木モヨの三人の方が、赤十字国際委員会から、看護婦として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長い間の献身的奉仕のたまものであり、本人の榮譽はもとより、わが国にとつても、まことに喜ばしいことでもあります。

受章の方々が、これからも、更に、博愛の精神に徹して、この道に尽くし、後進の指導にあたりるとともに、他の看護婦の皆さんも、これを模範として、その職に励み、広く内外の人々から信頼と感謝を受けるよう、切に希望します。

終わって、祝辞・答辞をお聞きになった後、御退場になる。一旦御休所にお入りになった後、隣室において赤十字国際委員会駐日名誉代表ハリー・アングスト及び同夫人始め赤十字関係外国人六名に御会釈を賜う。十一時三十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、事業年

報（日本赤十字社）

昭和四十二年七月

天皇と共に吹上御所において、カナダ建国百年記念式典及びモントリオール万国博覧会に天皇の御名代として出席のため来る六日より七月十七日までカナダ国を訪問する宣仁親王、並びに同伴の同妃喜久子をお招きになり、御夕餐を催される。皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王が出席する。天皇・皇后より宣仁親王・同妃に万那料・お品料を賜う。また、宣仁親王のカナダ国訪問に際し、同親王を通じ、天皇・皇后よりカナダ総督ダニエル・ローランド・ミツチエナー及び同夫人に広蓋<sup>黒呂色漁</sup>・有田焼飾鉢<sup>赤濃</sup>を御贈進になる。これに対し後日、総督夫人ノラ・エヴァンジェリン・ミツチエナーより天皇・皇后にお礼の書簡<sup>七月二十</sup>が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宣仁親王同妃両殿下カナダ御訪問記録、祭典録、外交贈答録、賜与録、宮内庁序報、高松宮宣仁親王

四日 火曜日 午前、天皇と共に表三の間において、来る十日の村上天皇千年式年祭に先立ち、東京大学教授藤木邦彦より村上天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁序報

五日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所主任宮崎清・主任見習山崎太郎及び助手三名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭脇にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に吹上御所において、翌六日にカナダ国へ出発の宣仁親王及び同妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六日 木曜日 午前、カナダ国訪問に出発する宣仁親王・同妃喜久子のお見送りのため、侍従長稲田周一を東京国際空港に差し遣わされ、天皇・皇后のお言葉を伝達させられる。後刻、侍従長より復命

をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、空港行事録、稲田周一関係資料

七日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のアラブ連合共和国駐劄特命全権大使安藤吉光及び同夫人、パラグアイ国駐劄特命全権大使二股一男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、近く離任のコロンビア国特命全権大使エンリケ・モラーノ・カンブサーノ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、国会の賓客として来日中のソビエト連邦最高会議連邦会議議長イヴァン・ヴァシリエヴィチ・スピリドノフ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 月曜日 午前、村上天皇千年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十四分御出門、午後一時二十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

去る八日から九日にかけて発生した集中豪雨により甚大な被害を受けた広島県・兵庫県・長崎県・佐賀県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前から午後にかけて、天皇と共に附属邸内及び付近を散策され、植物を御調査に

昭和四十二年七月

なる。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十九日 水曜日 午前、天皇と共に、去る十七日にカナダ国より帰国しその復命のため参邸した宣仁親王及び同妃喜久子と御対面になり、御昼餐を御会食になる。なお、御昼餐に先立ち、天皇と共に、宣仁親王・同妃カナダ国訪問の首席随員奥村勝蔵・随員加藤弓子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、宣仁親王同妃両殿下カナダ御訪問記録、宣仁親王同妃両殿下カナダ御訪問、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 午前、天皇と共に西岩崎方面にお出ましになり、昭和四十年に皇后が御発見のサルオガセに似た地衣類が着床する桜を御覧になった後、桜並木への着床状況等を御観察になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十三日 日曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

この日、ヨーロッパ及び米国旅行の帰途日本にお立ち寄りになったタイ国皇太后ラムバイ・バルニの御入京に際し、花束を御贈進になる。○外交贈答録、外賓接待録

二十七日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前九時二十五分御出門、午後零時十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、宣仁親王・同妃カナダ国訪問の随員植村甲午郎以下五名の拝謁をお受けになる。ついで随行員三名の賜謁があり、天皇と共に常侍官候所脇廊下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣仁親王同妃両殿下カナダ御訪問記録

拝謁の間において、近く赴任のペルー国駐劄特命全權大使粕谷孝夫及び同夫人、ラオス国駐劄特命全權大使下田吉人及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、近く離任のギリシヤ国特命全權大使ニコラス・ハジ・ヴァシリウを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

## 八月

一日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十四分御出門、午後一時二十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十四日 月曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前九時二十五分御出門、午後零時十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十五日 火曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十九分御出門、天皇と

昭和四十二年八月

共に日本武道館に行啓される。午後零時二十五分還啓される。なお、天皇・皇后より追悼式を行う厚生省に、生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十六日 水曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十四分御出門、午後一時二十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午後、謁見所において、近く赴任のフランス国駐箚特命全權大使松井明及び同夫人の拝謁をお受けになる。ついで松井大使による天皇の進講が行われる間、別室にて、松井夫人より外国各地を訪問した話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午後、謁見所において、近く赴任のマレーシア国駐箚特命全權大使小島太作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十日 日曜日 午前、御散策に御出発の際、御用邸御車寄前において、前橋宮林局長安藤文一郎ほか四名に、天皇と共に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に参殿者休所において、宮内記者会会員に御会釈を賜い、各記者からの質問にお答えになる。苔や貝の御採集について質問があり、皇后は御採集の状況を述べられ、

本としてまとめる予定はないことをお答えになる。流行中のミニスカートについて感想を求められた際には、過度にならないよう願う旨を述べられる。また、この年初めて桃華楽堂で開かれた音楽大学卒業生演奏会については、今後も続けたい旨をお答えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、昭和天皇と私達

二十八日 月曜日 午後、謁見所において、近く赴任のレバノン国駐箚特命全権大使和田周作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

三十日 水曜日 夕刻、天皇と共に、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

三十一日 木曜日 午後、謁見所において、近く赴任のブラジル国駐箚特命全権大使千葉皓及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、拝謁録、宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

去る二十六日に発生した集中豪雨により甚大な被害を受けた新潟県に、天皇・皇后より御救恤金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

## 九月

一日 金曜日 関東大震災の日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記  
六日 水曜日 午前、天皇と共に那須郡黒羽町の雲巖寺にお出ましになる。御到着後、境内の顕日王

昭和四十二年九月

後嵯峨天  
皇皇子

墓に天皇と共に拝礼される。同寺書院において御昼餐後、朝より同行の人事院総裁佐藤達夫植物学研

研究者、昨  
五日参邸

以下三名の植物学研究者を伴われ、奥山における天皇の植物御調査に同行される。この度のお

出ましに当たり、天皇・皇后は顕日王墓に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供

奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌

七日 木曜日 午前、天皇の植物御調査に同行された際、コウヤノマンネンゴケを見つけられ、その

他苔類を採集される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

八日 金曜日 午前、天皇と共に御用邸内の湿地帯にお出ましになり、昨日御採集・移植のコウヤノマンネンゴケを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

九日 土曜日 久邇侁子の祥月命日につき、終日お出ましを控えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

那須行幸啓録

十一日 月曜日 午前、嚶鳴亭に天皇と共にお出ましになり、栃木県知事横川信夫よりキジの放鳥についての説明をお受けになる。ついで同亭前においてキジの幼鳥三十六羽の放鳥が行われ、皇后は三羽を放たれる。天皇も五羽を放たれる。この放鳥は、この度那須御用邸付近一帯が国の鳥獣保護区に指定されたことを機に栃木県により実施された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、下野新聞

十四日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前九時二十五分御出門、午後零時十五分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓

録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、西の間にお出ましになり、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選に臨まれる。開票の結果、宣仁親王・崇仁親王が議員に、皇太子・故雍仁親王妃勢津子が予備議員に当選する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議皇族議員互選録、宮内庁庁報、官報

十八日 月曜日 午前、拝謁の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された池部健外務事務官・山下和夫

外務事務官 ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後一時御出門、宣仁親王妃喜久子の招きにより小菊会に御参加のため、光輪閣に行啓される。御到

着後、小菊会の会員と共に、円照寺門跡の山本静山山村御流初代家元をお相手に花を挿される。三時四十分還啓

される。その後、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、この日の行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 なでしこ会主催のイタリア歌劇団慈善演奏会に御臨席のため、午後六時十五分御出門、皇太子妃と御同列にて東京文化会館に行啓される。御到着後、なでしこ会会長宣仁親王妃喜久子等の先導にて会場に入られ、二階お席において先着の宣仁親王・崇仁親王妃百合子・鷹司和子のお出迎えをお受けになる。ヴェルディ作曲歌劇「シチリア島の夕べの祈り」序曲、モーツァルト作曲歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より「カタログの歌」などをお聴きになった後、一階御休所に移られ、日本放送協会会長前田義徳、駐日イタリア国特命全権大使アルベリコ・カサルディ及び同夫人、ついでイタリア歌劇団団長アントニオ・シヨーヤット、指揮者オリヴィエロ・デ・ファブリティース、バリトン歌手セスト・ブルスカンティーニ、ソプラノ歌手レナータ・スコットを御引見になる。続いてプツ

チーニ作曲歌劇「蝶々夫人」より「ある晴れた日に」、ロッシーニ作曲歌劇「ウィリアム・テル」序曲などをお聴きになった後、皇太子妃と御同列にて会場をお発ちになり、九時二十三分還啓される。この度の行啓に当たり、皇后より演奏会を主催するなでしこ会に金員を賜う。なお、この度の演奏会は高松宮妃癌研究基金への寄付のため開催された。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報

二十日 水曜日 午前、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、昨十九日のイタリア歌劇団慈善演奏会行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、厚生大臣から表彰された第十九回保健文化賞受賞者の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣坊秀男の挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁序報

謁見の間において天皇と共に、ブラジル国大統領息子アルシオ・ダ・コスタ・イ・シルヴァ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十一日 木曜日 午前、拝謁の間において、前フランス国駐劬特命全権大使萩原徹及び同夫人、前アルジェリア国駐劬特命全権大使河野達一及び同夫人の拝謁を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

謁見の間において、遺愛女子高等学校創立八十五周年記念式典に参加のため来日の元函館遺愛女子高等学校理事ドラ・A・ワグナーを御引見になる。後日、ワグナーより自身で英訳した「荒城の月」レコードの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、吹上御所において、元学習院女学部教授佐野正造・御学友の拝謁をお受けになる。佐野より天皇からの病氣お尋ねにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

翌二十二日に誕生日を迎え、数えで九十歳となる元内閣総理大臣吉田茂に、天皇・皇后より御紋付木盃を賜う。○賜与録、宮内庁序報

二十二日 金曜日 正午過ぎ、表一の間において、新任のアフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ハキーム・タビービー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮

殿行事録、宮内庁序報

新任のパナマ国特命全権大使アルトゥーロ・ゴンザレス・カストレリオン及び同夫人、ソビエト連邦特命全権大使オレグ・アレクサンドロヴィチ・トロヤノフスキー及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ハキーム・タビービー及び同夫人をお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

夕刻、宮内庁病院にお出ましになり、先般の交通事故につき去る十六日より入院中の崇仁親王をお見舞いになる。なお、同親王入院につき、二十六日の退院までの期間、天皇・皇后より食事を賜う。また、入院に際し皇后より切り花を、退院に際し天皇・皇后より菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十四日 日曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

二十六日 火曜日 帰国中のオランダ国特命全権大使ロバート・ハンス・ファン・ヒューリック去る二十四日死去につき、天皇・皇后から弔意を同夫人に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。なお、二十八日の同国ハーグにおける葬儀に際し、天皇・皇后より柩前に花環を供えられる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

二十七日 水曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のニカラグア国特命全権大使カルロス・マヌエル・ペレス・アロンソ及び同夫人、ベトナム共和国特命全権大使ヴィン・トオ及び同夫人、スイス国特命全権大使エミール・シュターデルホーファーを順次御引見になる。引き続き、近く離任する大韓民国特命全権大使金東祚及び同夫人・息女二名、新任のニカラグア国特命全権大使夫妻、ベトナム共和国特命全権大使夫妻、スイス国特命全権大使をお招きになり、表一の間において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、吹上御所において、この日前田青邨邸に遣わされた侍従入江相政より、御絵に対する青邨の講評についてお聴きになる。○女官日誌、贈賜録、入江相政日記

二十九日 金曜日 来る十月一日より昭和四十二年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御夕餐を御会食にする。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十月

一日 日曜日 この日学習院女子部において恒例のバザーを開催につき、常磐会に切り花を賜う。○  
贈賜録

二日 月曜日 天皇が御風気味のため、この日より翌日にかけて予定されていた葉山御用邸・神奈川県横須賀市記念館「三笠」・同県水産試験場への行幸啓はお取りやめとなる。○侍従日誌、幸啓録、葉山行幸啓録

四日 水曜日 午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣坊秀男より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、拝謁の間において、任地より帰国の前レバノン国駐劄特命全権大使黒田音四郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録  
午後、藍綬褒章を授与された調停委員等最高裁判所関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。受章者鈴木章治東京地方裁判所調停委員より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 金曜日 夕刻、吹上御所において天皇と共に、この日前田青邨の許に差遣した入江相政より、

この夏に描かれた御絵に対する青邨の講評についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

七日 土曜日 午前、吹上御所において、元侍従次長甘露寺受長の拝謁をお受けになり、今般の賜杖につきお礼言上をお受けになる。甘露寺は去る四日、天皇・皇后より高齢につき御紋章入り杖の下賜

昭和四十二年十月

を受けた。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報、稲田周一関係資料

九日 月曜日 国立科学博物館開館九十周年記念特別展「世界の昆虫」国立科学博物館・日本昆虫学会主催を御覧のため、午

前十時御出門、天皇と共に国立科学博物館に行啓される。十一時四十三分還啓される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十二日 木曜日 多摩陵<sup>大正天皇陵</sup>及び多摩東陵<sup>貞明皇后陵</sup>を御参拝のため、午前十時八分御出門、天皇と共に兩

陵に行啓される。天皇に続き兩陵を順次御拝礼になる。午後二時十一分還啓される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、臨時祭祀録、重要雜録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のパキスタン国駐節特命全権大使田中弘人及び

同夫人、カンボジア国駐節特命全権大使力石健次郎及び同夫人の拝謁を順次お受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所にて神宮御遙拝の後、賢所において御拝礼になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、吹上御所において、今般フランス国ほか外国歴訪から帰国の元侍従長三谷隆

信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十九日 木曜日 午前、桃華樂堂に天皇と共にお出ましになり、十八日まで池袋の西武百貨店で開催

された「英国王室展」出品物のうち、ヴィクトリア女王の戴冠式ローブ等を御覧になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、賜与録、毎日新聞

午後、靖国神社靈璽奉安祭に参列の各都道府県及び沖繩の遺族代表の賜謁があり、天皇と共に辰巳の

庭にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良八より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

吹上御所において、島津忠重・同夫人伊楚子の拝謁をお受けになる。なお、夫妻ともに八十歳を超えたため、十一月十二日には長寿を寿ぎ同夫妻に次の御歌<sup>箱入り</sup>を賜う。  
短冊

すこやかにいく春秋をよりそひてさきくすぐせとただいのるなり

この他、島津夫妻に寄せた次の御歌がある。

いつまでもさきくおはせよたびたびに昔語もともにせむものを

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、しらゆき、あけぼの集

二十日 金曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、同妃と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

元内閣総理大臣吉田茂この日死去につき、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、皇后より霊前に切り花を賜う。翌二十一日には、天皇・皇后より弔問使として侍従入江相政を吉田邸に差し遣わされる。二十日には、天皇・皇后より賜物使・柩前使として侍従松平潔を吉田邸に差し遣わされ、祭糝料・供物・生花を賜い、柩前に拝礼させられる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、吉田茂国葬儀関係綴、賜与録、外

交慶弔録、業務日誌、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 埼玉県において開催される第二十二回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時三十八分御出門、原宿駅から上尾駅

昭和四十二年十月

を経て、上尾市の東邦レース株式会社上尾工場に御到着になる。御視察の後、御休所において御昼食をお取りになる。ついで埼玉県上尾運動公園陸上競技場において開催の国民体育大会開会式に御臨場になる。午後四時二十五分浦和市の御泊所埼玉県知事公館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、上尾百年史、上尾自治だより

二十三日 月曜日 午前九時四十五分御泊所埼玉県知事公館を天皇と共に御出発、越谷市立体育館において国体バドミントン競技一般男女、高校女子を御覧になる。なお、御覧に先立ち、バドミントン女子国別対抗

戦昨昭和四十一年五月に開催のユーバー杯

を御覧になり、天皇に続き励ましのお言葉を賜う。次に春日部市宮大沼運動公園グラウンドにおいて国

体ソフトボール競技埼玉県市立川口女子高等学校対佐賀県立藤木高等学校の試合を御覧になる。御休所において御昼食の後、大宮市の氷

川神社に向かわれる。御到着後、拝殿に進まれ、天皇に続き御拝礼になる。終わって埼玉県護国神社にお立ち寄りになり、拝殿前石階手前より御拝礼になる。次に埼玉県大宮公園蹴球場において国体蹴球競技を御覧になる。ついで三菱金属鉱業株式会社中央研究所、さらに隣接する三菱原子力工業株式会社研究所を視察される。午後四時五十五分御泊所の埼玉県知事公館に還御される。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、越谷市役所所蔵資料、三菱金属鉱業株式会社中央研究所所蔵資料、三菱原子力工業株式会社所蔵資料、行幸啓誌、三菱金属ニュース、埼玉新聞

二十四日 火曜日 午前九時二十八分御泊所埼玉県知事公館を天皇と共に御出発、浦和市の埼玉県庁を訪問され、埼玉県の物産等を御巡覧になる。終わって北足立郡の株式会社本田技術研究所を御視察

になる。次に国体ライフル射撃競技会場である朝霞市の陸上自衛隊朝霞射撃場においてライフル射撃公式練習及びピストル競技を、所沢市の埼玉県所沢射撃場において国体クレ―射撃競技<sup>トランプ射撃競技、スキート射撃競技</sup>を御覧になる。射撃場内の迎賓館において御昼食後、入間市の株式会社保谷硝子武蔵工場を御視察になり、皇居新宮殿で使用予定のシャンデリア用クリスタルガラス等を御覧になる。終わって平仙レーズ株式会社を視察される。工場御視察時、皇后はパンチングによるショールの製作技法について御下問になり、新工場では刺繍製作用のシャトルをお手にとつて御覧になる。続いて従業員のために同社構内に設けられた県立浦和通信制高校の仏子共同学習場を御視察になる。午後四時五十分飯能市の御泊所株式会社東雲亭に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

行幸啓誌、かがやき、むつみ、埼玉新聞

二十五日 水曜日 午前十時十分御泊所株式会社東雲亭を天皇と共に御出発、正丸峠展望所の西武鉄道レストハウスにおいて秩父の山々を御展望になる。秩父市役所において秩父屋台ばやしや秩父地方の物産展示を御覧になる。御休所において御昼食の後、秩父宮記念市民会館において国体柔道競技を御覧になる。午後二時二十九分御泊所の秩父セメント株式会社有恒クラブに御到着になる。御少憩後、天皇と共に武甲山西口山道の登山口にお出ましになり、周辺の杉林等を散策される。四時四十五分御泊所秩父セメント株式会社有恒クラブに還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、おほうなばら、行幸啓誌、秩父市誌、秩父セメント五十年史、秩父セメント社報

二十六日 木曜日 午前九時三十分御泊所秩父セメント株式会社有恒クラブを天皇と共に御出発になり、秩父郡の長生館長瀬展望所において岩畳や岩壁を御展望になる。終わって寄居町営体育館に移ら

れ、国体卓球競技を御覧になる。次に埼玉県林業試験場において、昭和三十四年植樹祭の際にお手植え・お手播きの木々を含む記念造園林の生育状況を御覧になる。御休所において御昼食後、成人・児童併設の知的障害者収容施設である花園学園を御視察になる。この度の御視察に当たり、天皇・皇后より花園学園に菓子を賜う。終わって熊谷駅より原宿駅を経て、午後三時五十一分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、秩父セメント社報、埼玉県林業試験場三十年史、埼玉新聞

この日、イラン国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーのお誕生日及び同国皇帝・皇后の戴冠式につき、天皇・皇后より同国皇帝・皇后に祝電を発せられる。これに対し、三十一日に答電が寄せられる。また、天皇・皇后より戴冠式のお祝品として錦織額「遊船の図」を御贈進になる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

二十七日 金曜日 日本橋三越本店で開催されるスカンジナビア週間及び因島におけるスウェーデン船進水式に出席のため来日中のスウェーデン国王女クリスティーナ・ルイズ・ヘレナ<sup>王孫</sup>をお招きになり、表一の間において天皇と共に宮中午餐を催される。この度の来日に当たり、天皇・皇后より王女に図録『正倉院宝物』三冊<sup>北倉・中倉・南倉</sup>を御贈進になる。後日、王女より皇后に礼状が送られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

民生委員制度五十周年記念全国社会福祉大会に御臨席のため、午後二時五十三分御出門、天皇と共に渋谷区の東京体育館に行啓される。三時五十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 月曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、近く結婚する竹田紀子恒徳王弟  
二王女の拝謁をお受け

になる。なお、この度の結婚に際し、天皇・皇后より竹田恒徳に清酒・鮮鯛代料を、竹田紀子に扇子代料・白縮緬を賜う。これとは別に、この度の拝謁に際し、紀子に洋服地・万那料等を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧皇族録、贈賜録

天皇と共に謁見の間において、来日中のパン・ヨーロツパ・ユニオン総裁リヒアルト・クーデンホーフ・カレルギー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に表三の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

午後、元内閣総理大臣吉田茂の国葬儀につき、天皇より勅使として侍従入江相政を、皇后より皇后宮使として侍従徳川義寛を、葬場の日本武道館に差し遣わされ、拝礼させられる。また、天皇・皇后より故吉田茂国葬儀委員長宛てに生花を賜う。なお、天皇と共に吹上御所において、国葬儀の模様のテレビ中継放送を御覧になる。吉田茂の死去及び国葬儀に寄せて、次の御歌をお詠みになる。

君をおもひ国をうれひて九十までありへしものをつひにはかなし

いとせめていつもこのみし薔薇の花そなへまほしと思ひしものを

とづくにの人もはせきて菊の花ともにささぐるはこころうれしき

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、吉田茂国葬儀関係綴、賜与録、宮内庁庁報、官報、故吉田茂国葬儀記録、あけぼの集

十一月

一日 水曜日 正午過ぎ、内廷庁舎において、新任のデンマーク国特命全権大使ジョシム・ヘンリツク・ゲオ・ツイトフェン・アデーラー及び同夫人、ブルガリア国特命全権大使ナーチョ・パゾフ及び同夫人、ギリシャ国特命全権大使ディミトウリ・アヴラミデイス及び同夫人を順次御引見になる。引き続き天皇と共に表一の間において、近く離任するドミニカ共和国特命全権大使シモン・ディアス・カステリヤーンヌス、新任のデンマーク国特命全権大使夫妻、ブルガリア国特命全権大使夫妻、ギリシャ国特命全権大使夫妻をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二日 木曜日 午前、謁見の間において、今般夫人が着京したビルマ国特命全権大使バ・シユエ及び同夫人、ハンガリー国特命全権大使カーロイ・シゲテイ及び同夫人、並びに新任のユーゴスラビア国特命全権大使クリスト・ブライイチ及び同夫人、コロンビア国特命全権大使エドゥアルド・レストレポ・デル・コラル及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

三日 金曜日 午後、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催、文部省・厚生省後援で健康優良児童及び健康優良学校代表として選ばれた者等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、業務日誌、宮内庁序報

四日 土曜日 午前、謁見の間において、新任のマレーシア国特命全権大使ザイトン・イブラヒム・

ピン・アーマッド、英国特命全権大使ジョン・アーサー・ピルチャー及び同夫人、大韓民国特命全権大使嚴敏永及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 月曜日 午前から昼過ぎにかけて、雨の中、天皇と共に宮内庁庁舎屋上より、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明にて新宮殿の工事の状況を御覧になる。九日午前には、天皇と共に、同じく高尾部長の説明により新宮殿の各部屋を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮殿造営記録

七日 火曜日 日本赤十字社創立九十周年記念関東山静支部連合社員大会に名誉総裁として御臨席のため、午後零時二十六分御出門、歌舞伎座に行啓される。御休所において、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで日本赤十字社長川西実三・同副社長田辺繁雄・同東京都支部長美濃部亮吉大会代表、東京都知事の拝謁をお受けになる。同所において支部長報告をお受けになった後、式場にお出ましになる。金色有功章・銀色有功章・特別社員章受章者総代計九名に記章・章記を御親授になり、社長特別表彰に続いて、次のお言葉を賜う。

日本赤十字社創立九十周年を記念する関東山静支部連合社員大会に臨み、平素赤十字の事業に功勞のあつた皆さんに親しく接することができたのを、まことにうれしく思います。

日本赤十字社は、創設以来九十年の長い間、各国赤十字社と提携し、博愛と人道をもとにして、世界の平和と人類の幸福の実現に貢献してきましたが、赤十字の人道的使命は重く、また、限らないものであると思います。

社員並びに役職員の皆さんは、今後とも一層協力して社業の発展をはかり、その使命の達成に

昭和四十二年十一月

努めるように切に望みます。

ついで大会代表東京都支部長による奉答、日本赤十字社長挨拶、厚生大臣の祝辞<sup>厚生政務次官代誌</sup>の後、御退場になる。二時過ぎより二階のお席に移られ、正仁親王妃・故雍仁親王妃・崇仁親王妃と共に初代中村鴈治郎三十三回忌追善顔見世大歌舞伎公演を御鑑賞になる。前半は尾上松緑・中村扇雀等による「恋湊博多諷」における「文字ヶ関元船」の場を、後半は中村歌右衛門・実川延若等による「熊野」を御覧になる。四時十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分御出門、天皇と共に赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時一分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十三日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のエチオピア国駐筭特命全権大使番徹夫及び同夫人、ボリビア国駐筭特命全権大使片岡孝三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 御昼餐前、天皇と共に吹上御所のお庭及び観瀑亭付近にお出ましになり、葛精一<sup>鳥類学者</sup>によるキジの放鳥を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十六日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く赴任のイタリア国駐筭特命全権大使田付景一及び同夫人、ギリシャ国駐筭特命全権大使高木広一及び同夫人、シンガポール国駐筭特命全権大使吉田健一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁

夕刻、吹上御所において、翌十七日韓国に帰国する李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十八日 土曜日 日本看護協会創立二十周年記念式典に御臨席のため、午前九時十四分御出門、日本大学講堂に行啓される。御到着後、御休所において厚生大臣坊秀男・日本看護協会会長金子光の拝謁をお受けになる。ついで式場に臨まれ、壇上にて宣仁親王妃喜久子のお出迎えをお受けになる。式辞・厚生大臣表彰・会長表彰・衆参両院議長参議院議長は代読の祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

日本看護協会創立二十周年を記念する式典に臨み、保健婦、助産婦及び看護婦の皆さんに親しく接することができてうれしく思います。

看護事業は、深い人類愛に基づく尊い仕事であります。近年、保健、医療の進歩とともに、看護に対する国民の期待も一層大きくなってきました。

会員の皆さんは、今後も一致協力して、ますますその職に励み、多くの人々の期待と信頼にこたえるよう切に希望します。

金子会長による奉答の後、御退場になり、十時二十八分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 月曜日 午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者本間晴より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十二年十一月

天皇と共に表一の間において、米国からの帰路に日本に立ち寄ったラオス国皇太子ヴォン・サヴァン及び同妃をお招きになり、宮中晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、外交雑録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十一日 火曜日 天皇と共に表一の間において、近く離任するイラン国特命全権大使ホルモズ・ガリーブ及び同夫人・息女、新任のユーゴスラビア国特命全権大使クリスト・ブライイチ及び同夫人、コロンビア国特命全権大使エドワード・レストレポ・デル・コラル及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十二日 水曜日 午前、拝謁の間において、この度帰国の前カンボジア国駐劄特命全権大使田村幸久及び同夫人、前シンガポール国駐劄特命全権大使上田常光及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、横浜国立大学教授酒井恒甲殻類研究者より、

有明海のオヨギピン俗名ミ、ロクガニ等について、フィルム映像等を使用しての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十七日 月曜日 午前十時二十六分御出門、天皇と共に東京市外電話局・東京中央電報局及び毎日新聞東京本社に行啓され、それぞれ御視察になる。毎日新聞東京本社では屋上より御展望になり、昨四十一年に竣工した桃華楽堂等を御覧になる。午後零時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁序報、官報、電信電話、毎日新聞

午後、重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂へお出ましになる。皇族・

元皇族・御縁故者等をお招きになる。楽部に設けられた御休所において皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になり、御一緒に会場にお入りになる。演奏会では、近藤乾三の謡・幸祥光の小鼓による一調一声「小督」、米川文字・米川文勝之による箏曲「明治松竹梅」、吉住慈恭他の唄・花垣嘉秀他の三味線による長唄「有喜大尽」をお聴きになる。演奏会終了後、御休所において重要無形文化財保持者である近藤乾三・幸祥光・米川文字・吉住慈恭の拝謁をお受けになる。この度の演奏会に際し、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、桃華樂堂邦楽演奏会記録、邦楽演奏会、旧皇族雜録、賜与録

二十八日 火曜日 午後、天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 水曜日 第十回日本美術展を御覧になるため、午前九時十九分御出門、天皇と共に東京都美術館に行啓される。各種作品を御巡覧の際に、金島桂華日本芸術院会員作の日本画「月に飛ぶ」百五十五号の群青色の

背景に目を留められ、制作の労苦を察する旨のお言葉を賜う。天皇も御一緒に御覧になる。十時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

三十日 木曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、この日誕生日を迎えた文仁親王、及び皇太子妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に宮内庁楽部鏡の間にお出ましになり、宮内庁職員総合美術展を御巡覧になる。同展には、この年四月に皇居に飛来したヤツガシラのスケッチをもとに、生物学御研究所の剥製五月二十七日に借用と併せて一番の構図とした軸物を始め、ハス・ニジマス・干しエビ・ブドウ・ユリを描いた日本画六点を御出

品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、鳥の楽園、文化、読売新聞

午後、再び楽部にお出ましになり、宮内庁職員総合美術展を拝観した元女官等十三名、続いて御学友・御同級生二十一名の拝謁をお受けになる。なお、御学友・御同級生は、拝謁の際に『桃苑画集』を拝見する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行幸啓録

十二月

五日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日雍仁親王例祭につき、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、皇族雑録

午後、文部大臣から表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に辰巳の庭にお出ましになる。

長崎県瓊浦高等学校教諭中尾準より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、京都産業大学の招請により来日中の歴史学者アーノルド・トインビー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午後、拝謁の間において、近く赴任のベトナム共和国駐劄特命全權大使青木盛夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時五十分御出門、十一時十八分同邸に御

到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁報

九日 土曜日 午後、拝謁の間において、近くジュネーブ国際機関日本政府代表部に赴任の特命全權大使中山賀博及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、

葉山行幸啓録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

歳末無料健康相談を実施する東京都に、この日、金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 午後、参邸の前田青邨に古い御絵をお見せになり、優品の選定をお任せになる。続いて同人の指導の下に、庭のサザンカをお描きになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十三日 水曜日 天皇・皇后より日本赤十字社に、事業御奨励のため金一封を、また、医療・児童福祉事業に対する補助金として金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜う。また歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 天皇と共に葉山御用邸より還啓のため、午前九時五十五分御出門、十一時二十一分

皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

十五日 金曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午後、吹上御所において、東伏見慈治、及び就職のため翌四十三年にイタリア国に

赴く同子息睿椒<sup>今夏</sup>と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 火曜日 天皇と共に表一の間において、新任のマレーシア国特命全権大使ザイトン・イブラヒム・ビン・アーマッド及び同夫人、英国特命全権大使ジョン・アーサー・ピルチャー及び同夫人、大韓民国特命全権大使嚴敏永及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。なお、午餐に先立ち、皇后お一方にて表二の間において、今般夫人が来日したマレーシア国特命全権大使及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、謁見の間において、新任のインド国特命全権大使シシル・クマール・バネルジー、エチオピア国特命全権大使エフライム・ボロウを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

元学習院長山梨勝之進去る十七日死去につき、侍従山本岩雄を賜物使として同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭糝料を賜う。また、霊前に切り花・菓子を賜う。十二月二十四日の葬儀には、葬場に生花を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報、山梨勝之進先生遺芳録

二十日 水曜日 御体調不良のため、御仮床に就かれる。これに伴い、翌二十一日に予定されていた堂上会総代梅園篤彦の拝謁はお取りやめとなる。また、二十二日の菊栄親睦会会員との午餐・桃華楽堂での音楽会はお取りやめとなり、二十三日の皇太子の誕生日の御対面・祝詞言上等もお受けにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宣召録、菊栄親睦会録、

稲田周一関係資料

この日婚約の東久邇文子に、天皇・皇后より万那料及びお品を賜う。○女官長日記、贈賜録

去る十六日に多羅間俊彦<sup>東久邇稔彦の子息</sup>結婚につき、この日、天皇・皇后より同人に万那料及びお品を、東久

邇稔彦・同夫人聡子に鮮鯛代料を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十一日 木曜日 日本赤十字社病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計一万一千二百五十一名に、この日、手拭い一筋ずつを下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。

夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥一の間において、宮内庁長官始め総代、及び女官、続いて皇族・元皇族・御縁故者より、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十日 土曜日 歳末につき、午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

昭和四十三年（西曆一九六八年） 六十五歳

一月

一日 月曜日 午前九時四十五分より新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に奥一の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王の祝賀をお受けになり、続いて北の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官・各国大使等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。また、内廷西玄閣脇廊下において、お一方にてイレース・ストライカーに御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二日 火曜日 午前、天皇と共に奥一の間において、宣仁親王始め未成年の皇族等の祝賀を、ついで表三の間において、元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

この年の新年一般参賀は、新宮殿造営中のため、昨年と同様に参賀者への御会釈はなく、坂下門内に

おいて記帳・名刺のみをお受けになる。○侍従日誌、儀式録、年末年始関係、宮内庁庁報、官報

三日 水曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

五日 金曜日 午前、吹上御所において故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日雍仁親王祥月命日に際し豊島岡墓地への女官の御差遣につきお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

六日 土曜日 天皇と共に吹上御所において正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は月に二、三回程度、吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 日曜日 新年につき、午後、天皇と共に吹上東玄関前において元女孺等の祝賀を、ついで吹上御所において元女官等の祝賀をお受けになる。その後、お一方にて拝謁の間において、元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎、御学友・御同級生七名の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 月曜日 午後、吹上御所に参殿の宣仁親王妃喜久子と御対面になる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌

九日 火曜日 午前十時、天皇と共に西の間において、講書始の儀に臨まれる。共立女子大学教授新

昭和四十三年一月

関良三より「フリードリヒ・シラーとその美的教育論」、金沢大学長中川善之助より「家族史の研究」、日本学士院会員坪井忠二より「地震予知研究について」と題する進講をお聴きになる。進講後、進講者及び進講者控の賜謁があり、天皇と共に拝謁の間にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、年末年始関係、講書始録、典式録、宮内庁庁報、官報

十日 水曜日 午前、拝謁の間において、近くトルコ国へ赴任の特命全権大使田中三男及び同夫人、バチカン国へ赴任の特命全権大使田村幸久及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、第六回日英定期協議に出席のため来日した英国外務大臣ジョージ・アルフレッド・ブラウン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交記録

天皇と共に吹上御所において皇太子・同妃・徳仁親王と御夕食を御会食になり、また徳仁親王の浜名湖旅行に関する記録映画を御覧になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 木曜日 英照皇太后及び多喜子内親王の祥月命日につき、午前、お慎みになる。○女官長日記、女官日誌

十二日 金曜日 午前十時、天皇と共に北の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「川」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

夏椿こずゑに花をささげたり那須高原の川ぞひの道

儀終了後、拝謁の間において召人・選者・諸役の賜謁が、ついで内廷西玄関前において預選者の賜謁があり、天皇と共ににお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、

歌会始録、宮内庁庁報、官報、あけぼの集

十三日 土曜日 午前九時三十六分御出門、毎日新聞社・下鴨神社共催の「明治百年記念近代皇室特別展」を御覧になるため、銀座松坂屋に行啓される。御着後、松坂屋社長伊藤鈴三郎の先導にて七階会場にお出ましになり、元宮内庁御物調査員近藤武幹の説明にて孝明天皇・英照皇太后・明治天皇・昭憲皇太后・大正天皇・貞明皇后の御遺品百五十余点を御覧になる。十時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報、毎日新聞

十五日 月曜日 成人の日に当たり、午前、天皇と共に拝謁の間において、昨年十一月一日成年に達した竹田恒和元皇族竹田恒徳子息の拝謁をお受けになる。また、同人に万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十六日 火曜日 午前、吹上御所においてイレヌ・ストライカーより英語の進講を御聴取になる。以後、この年も火曜日又は水曜日を中心として同人より不定期に英語を学ばれる。○女官長日記、女官日誌

午後、第十一回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催・読売新聞社後援を受賞の中学生・高校生等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門外にお出ましになる。読売新聞社副社長小林与三次より授賞の経過・成績・研究内容等をお聞きになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内

昭和四十三年一月

庁庁報、読売新聞

十七日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、

宮内庁庁報

十八日 木曜日 島津斉徳去る十三日死去につき、この日霊前に切り花・菓子を賜う。同人は大正八年、島津忠重御母兄子の弟と同夫人伊楚子の四男として誕生、御従弟に当たる。○女官長日記、贈賜録

十九日 金曜日 午後一時、天皇と共に葉山御用邸を御出門、江ノ島水族館に行啓される。四時二十五分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

二十二日 月曜日 午後、御用邸を御出門、自動車にて城ヶ島に行啓される。お召し船にて御先着の天皇と落ち合われ、湾内にて御一緒に弁当の御昼食をお召し上がりになる。その後、お召し船にて御用邸前に帰還される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

二十三日 火曜日 午後、お庭前において、元侍従武官山澄貞次郎に御会釈を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、葉山行幸啓録

二十四日 水曜日 元皇后宮女官内山はる去る二十二日死去につき、この日天皇・皇后より祭糝料を下賜される。また、天皇・皇后より霊前に切り花・菓子を賜う。同人は昭和八年皇后宮職御用掛を仰せ付けられた後、翌年皇后宮女官となり、昭和二十年まで約十一年にわたり側近に奉仕する。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 葉山御用邸より還啓のため、午前九時五十五分天皇と共に御出門、十一時二十一

分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十七日 土曜日 邦彦王<sup>御</sup>父祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

三十日 火曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁序報

三十一日 水曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府公賓として来日中のソビエト連邦大臣会議副議長バイバコフ・ニコライ・コンスタンチノヴィツチ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

## 二月

一日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三日 土曜日 午前、吹上御所において宮内庁御用掛武者小路不二子をお相手にフランス語を勉強される。以後、この年は二月二十日、六月一日、六月二十五日に同人をお相手にフランス語を学ばれる。

○女官長日記、女官日誌

五日 月曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くアイルランド国駐箚特命全權大使星文七及び同夫人、ニカラグア国駐箚特命全權大使西村勘一及び同夫人、ネパール国駐箚特命全權大使吉良秀

昭和四十三年二月

通及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、内廷庁舎において、近く任地へ赴くポルトガル国駐筭特命全権大使服部五郎及び同夫人、マダガスカル国駐筭特命全権大使猪名川治郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十一日 日曜日 正午前、御出門になり、城ヶ島に行啓される。お召し船にて御先着の天皇と落ち合われ、湾内にて御一緒に弁当の御昼食をお召し上がりになる。午後、天皇と共にお召し船にて御帰還になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十三日 火曜日 夕刻、拝謁の間において、任地より帰国の前ギリシヤ国駐筭特命全権大使大隈渉の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、典式録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十四日 水曜日 午前、元内大臣木戸幸一・元宮内庁長官田島道治・経済団体連合会会長石坂泰三参邸につき、天皇と共に拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、典式録、葉山行幸啓録

十六日 金曜日 前夜よりの大雪のため、この日の還幸啓の御予定を翌日に延期される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

十七日 土曜日 午前九時五十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時二十四分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、政府公賓として来日中のブラジル国外務大臣

ジョゼー・デ・マガリャンエス・ピント及び同夫人を御引見になる。大臣夫妻よりアメジスト紫水の

献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

庁報、外交記録

二十日 火曜日 午前、謁見の間において、新任のドミニカ共和国特命全権大使アルマンド・ヘルマン及び同夫人、ついで去る二日に結婚したスイス国特命全権大使エミール・シュターデルホーフアー及び同夫人を御引見になる。なお、スイス国大使の結婚に際しては、去る一日、天皇・皇后よりお祝いとして御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内

庁庁報

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、拝謁の間において、任地より帰国のビルマ国駐節特命全権大使高瀬侍郎、

コートジボワール国駐節特命全権大使藤建一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

忌明けにつきお礼言上に参内した島津伊楚子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、来る三月二日大村和敏と結婚の東久邇文子、及び東久邇聡子・同佳子の拝謁をお受けになる。この度の結婚に当たり、東久邇文子に扇子代料・万那料・白縮緬・金員及びお品を、東久邇盛厚に清酒・鮮鯛代料を、東久邇盛厚・同夫人佳子並びに東久邇稔彦・同夫人聡子に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

午前十一時十分御出門、光輪閣に行啓され、小菊会に御臨席になる。ハンガーへの色付け作業を行われ、会員と弁当の御昼餐を共にされる。午後、作業を継続される。四時十三分還啓される。その後、吹上御所に参殿の宣仁親王妃喜久子と御対面になり、行啓のお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 菊麿王妃常子<sup>島津忠義息女、御伯母</sup>三十年式年祭につき、天皇・皇后より霊前に菓子、墓所に柿をお供えになる。この日、終日吹上御所において過ごされる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十七日 火曜日 午後一時三十分、天皇と共に西の間において、宣仁親王成年式朝見の儀に臨まれる。宣仁親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続き、健やかに学業に励むよう祈る旨のお祝いのお言葉を賜う。また天皇に続き、親王に御盃を賜う。次に天皇と共に御台盤に御箸をお立てになり、親王がこれに倣う。終わって御退出になる。その後、天皇と共に拝謁の間において、崇仁親王・同妃百合子及び大勲位菊花大綬章を佩用の宣仁親王よりお礼言上をお受けになる。なお成年式に当たり、

宜仁親王に天皇・皇后より万那料・金員・白羽二重・洋服地等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、重要雑録、臨時祭祀録、祭典録、皇親録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十八日 水曜日 午後五時五十二分天皇と共に御出門、綱町三井倶楽部に行啓され、三笠宮主催の

宜仁親王成年披露祝宴に御臨席になる。皇太子・同妃、崇仁親王・同妃百合子を始め菊栄親睦会会員、

高木邦子崇仁親王、妃実母、高木正順崇仁親王妃の夫君・同夫人衣子と御会食になり、八時二十七分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、皇親録、東宮録、宮内庁庁報

### 三月

一日 金曜日 今般離任のフィンランド国特命全権大使ヴィルヨ・ヤーッコ・アホカス及び同夫人、新任のインド国特命全権大使シシル・クマール・バネルジー及び同夫人、新任のエチオピア国特命全権大使エフライム・ボロウをお招きになり、天皇と共に表一の間において午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた島津貴子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 水曜日 満六十五歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥一の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで西の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等並びに以上の者の配偶者の祝賀をお受けになる。その後、奥一の間

昭和四十三年三月

おいて田島道治・石坂泰三、続いて元皇太后宮女官、元側近奉仕者の祝賀を、内廷西玄闕前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び奥一の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、常待官候所脇階段下において元女孀等の祝賀を、奥一の間において元御用掛服部豊子<sup>ヴァイオ</sup>、続いて元学習院女学部教授佐野正造・元女子学習院教授今井熊太郎及び御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。その後、両陛下御座所において、徳仁親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王、鷹司和子、島津貴子、東久邇信彦と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、重要雑録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報

**七日 木曜日** 午前十時二十分天皇と共に御出門、日本武道館に行啓され、自治体消防制度二十周年記念式典に御臨席になる。十一時一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に拝謁の間において、結婚後の挨拶のため参内の大村和敏・同夫人文子の拝謁をお受けになる。参内に際し、大村夫妻にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

**八日 金曜日** 祐子内親王四十年式年祭につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、宮内庁長官始め総代の拝謁をお受けになる。また、墓所における祭典に女官小川梅子を差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より墓所に盛菓子・榊をお供えになる。

午後一時三十二分天皇と共に御出門、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、祐子内親王・雍仁親王・

東久邇成子・恒久王妃昌子内親王の各墓所を天皇と共に拝礼される。また、天皇・皇后より祐子内親王の墓所に果物を、雍仁親王墓所・東久邇成子墓所にそれぞれ盛菓子をお供えになる。二時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、祭典録、行幸啓録、幸啓録、重要雑録、宮内庁庁報

九日 土曜日 宮内庁職員映画鑑賞会に御臨席のため、午後、天皇と共に桃華楽堂にお出ましになり、松竹映画「おはなはん」第一部及び第二部を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録

十一日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、国際オリンピック委員会<sup>J</sup>委員竹田恒徳及び日本オリンピック委員会<sup>C</sup>委員西田信一<sup>第十回オリンピック冬季大会日本代表選手団団長</sup>より、去る二月フランス国グルノーブルにおいて開催の第十回オリンピック冬季大会についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

十三日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

『桃苑画集』を日本赤十字社社長室以下五箇所に賜う。○女官長日記

十四日 木曜日 午後、お召しの前田青邨より絵画指導をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録

十五日 金曜日 午後一時十七分天皇と共に葉山御用邸を御出門、神奈川県水産試験場に向かわれる。

途中、赤羽根海岸断崖上でウミウ等を御覧になる。水産試験場に御到着後、各施設を御覧になり、四時十一分御用邸に戻られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録  
 十八日 月曜日 午前、天皇と共に城ヶ島付近の海上に向かわれる。途中、赤羽根海岸断崖のウミウ棲息地を海上から御覧になる。三崎港内において御昼食後、西崎に向かわれ、磯において御採集等とされて過ごされる。その後、陸路お一方にて御用邸に戻られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十九日 火曜日 午前九時五十五分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。この日より御仮床に就かれ、以後、暫時御公務等へのお出ましを取りやめられ、四月二十三日より御公務に復帰される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 国賓として来日のインドネシア国大統領スハルト及び同夫人が東京国際空港に着のところに、御風気につき、故雍仁親王妃勢津子に大統領夫人の御接待の代理を依頼される。大統領夫妻の入京に際しては、夫人へ花束を贈られる。天皇が大統領夫妻と御会見になった際に相互儀礼叙勲があり、皇后にはマハプトラ一等勲章が贈られる。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より大統領に刺繡屏風<sup>柳に橋</sup>等を、大統領夫人に銀製宝石箱<sup>御所車模様</sup>等を御贈進になる。大統領夫人よりは皇后にインドネシア産布地<sup>四種類</sup>が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、国賓訪日関係、外賓参内録、賜与録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 去る二月十三日日本赤十字社社長川西実三退任につき、天皇・皇后より御紋付木盃を賜う。○賜与録、日本赤十字社社史稿

#### 四月

一日 月曜日 午前、インドネシア国大統領スハルト及び同夫人の離日に際し、御風気のため、東京国際空港におけるお見送りを故雍仁親王妃勢津子に御依頼になる。○女官長日記、女官日誌

この度学習院大学を卒業の寛仁親王、慶応義塾大学に進学の東久邇秀彦に、天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、贈賜録

この日、天皇・皇后並びに皇太子・同妃による神宮正宮及び別宮、熱田神宮・明治神宮、靖国神社及び旧官国幣社御参拝時の幣帛料・神饌料が増額改定される。また、御参拝を伴わない幣帛料・神饌料の御奉納について、神宮正宮及び別宮、勅使参向旧官幣大社例祭・勅使参向靖国神社例祭への神饌料、周期勅使参向神社例祭の神饌料・幣帛料が増額され、旧官国幣社本殿遷座祭・同社式年遷座祭等については幣帛料を増額し、神饌料が廃止される。○神宮及神社諸件、例規録、庁規例規朝儀諸綴

この日より第十三回ユニセフ協力募金を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

六日 土曜日 午前、後村上天皇六百年式年祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、祭典録、典式録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午後、国賓として来日のユーゴスラビア国大統領ヨシブ・ブロズ・チトー及び同夫人の東京国際空港到着に当たり、御風気のため、故雍仁親王妃勢津子に大統領夫人のお出迎えを御依頼になる。なお、大統領夫妻の入京に際し、夫人に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、国賓訪日関係、外交贈答録

九日 火曜日 御風気のため、ユーゴスラビア国大統領ヨシブ・ブロズ・チトー及び同夫人のために催された宮中晩餐及び宮中夜会への御臨席をお取りやめになる。この日、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には同国ロガスカ・スラティナ地方産カット・ガラスの食器セット、ナプキン・セットイドリア・レース編みが贈られる。これに対し、天皇・皇后より大統領に九谷焼花瓶極彩色金襴小紋模様、大統領夫人に銀製寶石石箱菊梅模様、裂地紅葉山御養蚕所製が、皇后より大統領夫人に裂地紅葉山御養蚕所製、『桃園画集』が贈られ

る。なお、大統領夫人より、皇后の病気お見舞いとして生花ランとバラが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、国賓訪日関係、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報、外国からのごあいさつ

宮内庁病院に東久邇聡子入院につき、この日より当分の間、毎日料理を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十日 水曜日 島津忠重御母俣子の弟 昨九日死去につき、この日、霊前に切り花・野菜を賜う。十五日には、喪中お尋ねとして女官小川梅子を同人邸に差し遣わされる。十七日には、天皇・皇后より祭染料を賜

い、十八日に行われる葬儀に際しては、皇后より靈前に盛菓子を賜う。なお、同人の病氣入院中、スー  
プ・牛乳・果物を賜う。島津は、明治十九年誕生、父忠義の死去後に家督を相続し、公爵を襲爵する。  
海軍に入り、海軍少将に累進する。また、貴族院議員、麿香間祇候、学習院評議会議長、宮内庁御用  
掛、華族会館館長・理事長を務めた。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、賜与録、恩賜録、宮内庁庁報

十四日 日曜日 御仮床にある中、夕刻、吹上御所において、翌十五日英国留学に出発の寛仁親王と  
御対面になり、お礼言上をお受けになる。翌日、お見送りのため、女官小川梅子・同今城誼子を東京  
国際空港に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十七日 水曜日 翌十八日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式挙行につき、  
天皇・皇后より同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 公賓として来日中のオーストリア国首相ヨーゼフ・クラウス及び同夫人の参内に  
際し、天皇・皇后よりクラウス首相夫妻に御紋付銀製花瓶等を賜う。首相夫妻より天皇・皇后に献上  
の品があり、皇后には十八世紀オーストリア製白磁置物<sup>樹下無人達と鹿獲  
物図、皮製箱入り</sup>が献上される。なお、後日、首相  
夫人に『桃苑画集』を賜う。○女官長日記、女官日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 この日より御公務に復帰される。午後、拝謁の間において、新任の侍従次長入江  
相政・侍従安楽定信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、典式録、宮内庁庁報、官報

今般財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防功労者市町村代表五十九名の賜謁があり、北の  
間にお出ましになる。理事長山口正義より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、宣召録、宮内庁庁報  
宮内庁病院においてこの日手術を受ける東久邇聡子に、寄せ植え花鉢物を賜う。○女官長日記、贈賜録

昭和四十三年四月

二十五日 木曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くベネズエラ国駐箚特命全權大使広田積及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮

殿行事録、宮内庁序報

二十六日 金曜日 午前、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生政務次官谷垣専一より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十九日 月曜日 天皇誕生日につき、午前、奥一の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになり、ついで御座所前の廊下において、女官一同より祝詞言上をお受けになる。その後、奥一の間において皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀を、御座所において東久邇秀彦等より祝詞言上をお受けになる。ついで元女官等の賜謁があり、再び奥一の間にお出ましになる。

正午、奥二の間において内宴を催され、皇太子妃及び親王妃と御会食になり、御食後、皇太子以下も加わり果物をお召し上がりになる。午後四時、天皇と共に西の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族が陪席し、各国特命全權大使等が出席する。その後、天皇と共に奥一の間において、大村和敏・同夫人文子<sup>東久邇盛厚・同夫人成子の息女</sup>の拝謁をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。また、天皇誕生日の一般参賀は、昨年に引き続き新宮殿造営工事中のため参賀者への御会釈はなく、坂下門内において記帳・名刺のみをお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内庁序報

五月

二日 木曜日 午前、拝謁の間において、今般退任の前侍従次長永積寅彦等の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、典式録、宮内庁序報、官報

三日 金曜日 午前、天皇と共に建設中の新宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部造営課長小幡祥

一郎の説明により各所を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇居造営月報

四日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌

五日 日曜日 午後、天皇及び正仁親王・同妃華子と共に宮内庁病院にお出ましになり、去る四月九

日より病氣入院中の東久邇聡子をお見舞いになる。これに先立ち、天皇・皇后より聡子にお見舞金を

賜い、またこの日、果物を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 火曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くチエコスロバキア国駐劄特命全権大使小沢

武夫及び同夫人、スウェーデン国駐劄特命全権大使三宅喜二郎及び同夫人、ルーマニア国駐劄特命全

権大使光藤俊雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

拝謁録、宮内庁序報

天皇と共に表一の間において、今般離任のナイジェリア国特命全権大使アツバ・アンナス・ババ・ガ  
ナ及び同夫人、新任のグアテマラ国特命全権大使ラファエル・コントウレーラス・サラ・ヴィア及び  
同夫人、アルゼンチン国特命全権大使ファン・B・マルティン及び同夫人をお招きになり、午餐を催  
される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

八日 水曜日 午前、拝謁の間において、前任の日本赤十字社社長川西実三、及び新任の日本赤十字社社長東竜太郎の拝謁をお受けになる。続いて、川西前社長より進講をお聴きになる。○女官長日記、女

官日誌、典式録、入江相政日記

九日 木曜日 午前、今般退職の紅葉山御養蚕所主任宮崎清の賜謁があり、天皇と共に内廷庁舎廊下にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

十日 金曜日 午前、今般晋山式を終え光照院門跡兼務となった善光寺住職の一条智光参内につき、拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成育状態を御覧になり、種々説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 土曜日 宮内庁御用掛天羽美代去る九日死去につき、この日、天皇・皇后より祭料を賜う。

天羽は、昭和二十九年式部職出仕に採用されて以来、皇后の側近として奉仕した。○恩賜録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午前、天皇と共に表三の間において、来る二十八日の後冷泉天皇九百年式年祭に先立ち、早稲田大学教授竹内理三より後冷泉天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

この日より十九日まで池袋東武デパートにおいて財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」開

催につき、バラの切り花を賜う。十六日・十八日にもバラの切り花を賜う。○女官長日記、重要雑録

**十五日** 水曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のタイ国首相タノム・キッテイカチョン及び同夫人を御引見になる。その際、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には化粧セットが献上される。引き続き天皇と共に北の間において、首相夫妻のため宮中午餐を催される。なお、この度の来日に際し、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、典式録、外交贈答録、賜与録、宮殿行事録、宮内庁庁報

**十六日** 木曜日 午前、拝謁の間において、今般帰国の前大韓民国駐劔特命全權大使木村四郎七の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

**十七日** 金曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

昨夜青森県東方沖を震源とする地震一九六八年十勝沖地震により甚大な被害が発生した青森県・北海道・岩手県に、この日、天皇・皇后よりそれぞれ被害に依じて御救恤金を賜う。なお、翌十八日より二十三日まで行われる予定であった秋田県下の植樹行事及び県内事情御視察のための行幸啓、並びに二十三日より二十七日まで行われる予定であった那須御用邸行幸啓はお取りやめとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、秋田県下行幸啓資料、幸啓録、御差遣録、賜与録、宮内庁庁報、官報

**十八日** 土曜日 この度の秋田県下行幸啓のお取りやめに伴い、秋田県及び国土緑化推進委員会からの願い出をお受けになり、午前、天皇と共に皇居内の辰巳の庭において、同県田沢湖町田沢湖畔の大

昭和四十三年五月

森植栽地にてお手植え予定であったアキタスギの苗木を鉢にお手植えになる。また、同じく同県農業試験場にてお手播き予定であったクロマツの種子天皇はアキタスギの種子を御覧になる。終わって、同苗木等を秋田県に持ち帰る同県副知事松橋藤吉に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、秋田県下行幸啓資料、幸啓録、御差遣録

二十日 月曜日 天皇と共に拝謁の間において、造営中の新宮殿観覧のため参内した正仁親王妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十六日 日曜日 午前、天皇と共に造営中の新宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明により各所を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、皇居造営月報

二十七日 月曜日 午後、天皇と共に表三の間において、第六回国際最高会計検査機関会議に参会のオーストラリア国会計検査院長ヴィクター・J・W・スカーマー始め七十箇国の首席代表及び同夫人等を御引見になる。その後、西の間において宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮中茶会、宮殿行事録

二十八日 火曜日 午前、後冷泉天皇九百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

デンマーク国王嗣マルグレーテ王女の王子誕生につき、天皇・皇后より同王嗣に祝電を発せられる。

この月三十一日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十九日 水曜日 常磐会第百四回総会に御臨席のため、午後一時十九分御出門、椿山荘に行啓される。開山堂屋上より御展望になった後、同所二階の御休所において正仁親王妃華子及び元皇族と御対面になり、傘の間の懇親会場に臨まれる。お立ち台において会員一同による「花すみれ」の合唱をお聴きになった後、御着席になり、余興の長唄「扇の寿」舞踊水谷八重子、三味線杵屋佐吉ほか、唄杵屋佐登美ほか、囃子堅田喜三久ほかを御覧になる。終

わって水谷始め出演者に御会釈、お言葉を賜い、ついで恩師や新会員に御会釈を賜う。また、餅つきを御覧になり、茶菓をお召し上がりになる間、会員の挨拶を入れ替わりお受けになる。その後、会場をお巡りになり、御休所において御同級生と御歓談になり、四時十一分還啓される。なお、行啓に当たり、常磐会に『桃苑画集』と金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、拝謁の間において、この度アフガニスタン国より帰国の特命全権大使真崎秀樹及び同夫人、近く同国へ赴任の特命全権大使松井佐七郎及び同夫人、サウジアラビア国へ赴任の特命全権大使田村秀治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、真崎秀樹英文日記

紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌  
午後、天皇と共に吹上御所において、造営中の新宮殿を拝観した正仁親王・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

六月

三日 月曜日 午前九時四十九分御出門、東京国立博物館に行啓され、開催中の法隆寺金堂壁画再現記念「法隆寺展」東京国立博物館・法隆寺・朝日新聞社主催を御覧になる。御着後、館長浅野長武・法隆寺管長間中定泉・朝日

新聞社社長広岡知男のお出迎えをお受けになる。ついで二階の展覽会場を御巡覧になる。同館美術課長千沢楨治の説明にて、第十一室・第十二室では御物の絵画「聖徳太子及び二王子像」を始め、国宝・重要文化財の彫刻七点を御覧になる。引き続き第十三室に入られ、日本画家前田青邨の説明にて法隆寺金堂外陣壁画の新模写十二面を御覧になる。その際、補助説明者として各壁画の制作者が前田より紹介される。さらに第十八室に進まれ、再び千沢課長の説明にて常設展示の日本画横山大観、鏗木清方、長谷川等伯、与謝蕪村の各作品を御覧になる。十一時二十六分還啓される。法隆寺金堂壁画再現事業は、同寺と朝日新聞社が協力し

て昨四十二年三月より着手され、安田鞞彦・前田青邨を始め十四名の日本画家が壁画十二面を模写し、本年二月末に完成をみる。この間、昨年四月には天皇より御内帑金が下賜される。本展示会は壁画の模写完成を記念して、五月二十一日より六月三十日まで東京国立博物館において開催され、その後、名古屋・京都・福岡の各市においても巡回展示される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

午後、拝謁の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄、久邇家経済顧問川北禎一・栄木忠常・密田博孝、鷹司家経済顧問上山英三、島津家経済顧問伊藤謙二の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

典式録、宮殿行事録

四日 火曜日 午後、吹上御所において元宮内府御用掛島津伊楚子島津忠重夫人、御叔母の拝謁をお受けになる。そ

の際、島津忠重死去に際してのお仕向けに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

五日 水曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴く英国駐劔特命全權大使湯川盛夫及び同夫人、ポーランド国駐劔特命全權大使中村茂及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間において、今般正仁親王・同妃華子のハワイ訪問に際しての首席随員三谷隆信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

拝謁の間において、厚生省社会局長今村譲より身体障害者の現状並びに対策に関する進講を聴取される。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に造営中の新宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の案内により正殿棟・地下駐車場等を御巡覧になる。途中、東山魁夷の壁画「朝明けの潮」、橋本明治の杉戸絵「桜」、山口蓬春の杉戸絵「楓」を、各人の説明により御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、皇居造営月報、蓬春日記

六日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、社団法人国際哲学研究会の招請により来日のマドリード大学教授「デイエス・デル・コラル」及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、桃華楽堂にお出ましになり、音楽大学本年三月卒業生による演奏会に臨まれる。皇太子妃・正仁親王妃華子・崇仁親王妃百合子、及び大谷智子大谷光暢夫人、邦彦王第三王女、御妹以下の御親族が参列する。東京芸術大学卒業生による箏曲、ファゴット独奏、チェロ独奏、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、ヴァイ

昭和四十三年六月

オリン独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるメゾ・ソプラノ独唱、クラリネット独奏、桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、ピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるピアノ独奏、バリトン独唱が行われる。出演者十七名に対し、それぞれ御紋付銀製スプーンを賜う。夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、音楽大学演奏会、賜与録

七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、天皇と共に桃華樂堂にお出ましになり、お招きの皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子・容子内親王・憲仁親王・元皇族等の菊栄親睦会会員と御一緒に記録映画「日本人ここに在り」明治百年・北米移民  
百年記念作品 理研

映画・毎日新聞社共同製作を御覧になる。終わって、仮宮殿西の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、宮殿行事録、宮内庁序報

八日 土曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、十一時十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

十日 月曜日 午前、天皇と共に海洋生物を御採集のため三戸浜海岸の西崎にお出ましになるも、降雨のため間もなく御用邸に還御される。御用邸御滞在中、好天の日は折に触れて天皇と共に海上や海岸において御採集になり、御採集品を整理される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録

十二日 水曜日 夕刻、正仁親王・同妃華子参邸につき、天皇と共に御対面になり、ハワイ日本人移

民百年記念祭に出席のため、来る十五日より二十五日まで同地訪問の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 午後、拝謁の間において、任地より帰国の前セイロン国駐劔特命全権大使日向精蔵及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 この夜、ハワイへ出発の正仁親王・同妃華子をお見送りのため、女官小川梅子・同松園英子を東京国際空港へ差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前十時天皇と共に葉山御用邸を御出門、横須賀市の三笠公園にお出ましになる。元帥東郷平八郎の銅像を御覧の後、記念艦「三笠」に乗艦され、展示等を御見学になる。十一時四十七分、御用邸に戻られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録

十八日 火曜日 午前九時五十分天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時二十三分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、葉山行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くオーストリア国駐劔特命全権大使新関欽哉及び同夫人、オランダ国駐劔特命全権大使藤崎万里及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に謁見の間において、外務省賓客として来日中の西サモア国首相フィアメ・マタアファ・ファウムイナ・ムリヌウ二世及び同夫人を御引見になる。その際、首相夫妻から天皇・皇后へ西サモア国の民芸品木白・木実製コップ・麻製洗淨具・植物繊維製手提げ籠が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

昭和四十三年六月

外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に拝謁の間にお出ましになり、新宮殿の壁を飾る安田鞞彦の書「万葉集歌額」を御覧になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 木曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のセイロン国国務大臣副首相格 ユーニアス・リチャード・ジャヤワルダナ及び同夫人を御引見になる。その際、大臣夫妻より皇后へ

宝石入りブローチが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、

宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 夕刻、この年十月公開予定の皇居東側地区の附属庭園を、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明により、天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、

皇居造営月報、毎日新聞

二十二日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る四月一日に退任した前侍従次長永積寅彦の拝謁をお受けになる。ついで御一緒に永積ほかと御夕餐を共にされる。その際、永積に対し、天皇・皇后より金員を、皇后よりお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録  
病氣静養中の東久邇盛厚に対し、お尋ねとして果物を賜う。以後も病氣お尋ねの賜りがある。○女官長

日記、贈賜録

二十三日 日曜日 元宮中顧問官藤井種太郎昨二十二日死去につき、天皇・皇后より祭塗料を、霊前に菓子・切り花・果物を賜う。同人は皇子御養育掛長、内親王傅育掛長を歴任し、成子内親王・和子内親王・厚子内親王・貴子内親王の養育に奉仕した。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 午後、糸竹会例会に御臨席のため、楽部にお出ましになる。会場の鏡の間にお出ましになり、会員の演奏「黄鐘調音取」「青海波」「西王楽破」「拾翠楽<sup>残楽</sup>三返」「鳥急」「千秋楽」「御歌」をお聴きになる。大村文子が陪聴する。御休所において演奏者・楽長等の拝謁をお受けになった後、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、糸竹会

二十五日 火曜日 夜、ハワイより正仁親王・同妃華子帰国につき、お出迎えのため常陸宮邸へ女官小川梅子・同松園英子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、拝謁の間において、英国より帰国の特命全権大使島重信及び同夫人、近くフィンランド国へ赴任の特命全権大使山中俊夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、藍綬褒章を授与された文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。受章者門田英男より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

天皇と共に表御座所において正仁親王・同妃華子と御対面になり、昨日ハワイより帰国した挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、今般正仁親王・同妃ハワイ訪問の首席随員三谷隆信の拝謁をお受けになり、さらに表御座所において同人より言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

正午過ぎ、表二の間において、新任のウルグアイ国特命全権大使アウレリオ・パストリ及び同夫人を

昭和四十三年七月

御引見になる。引き続き、天皇と共に表一の間において、パストリ大使夫妻並びに今般離任のラオス国特命全権大使ニット・シンハラ及び同息女のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

かねて入院中の東久邇聡子に対し、この日天皇・皇后より思召しをもつて金員を賜う。また七月一日退院につき、天皇・皇后より果物及び万那料を賜う。○贈賜録

二十九日 土曜日 去る二十五日ハワイより正仁親王・同妃華子帰国につき、この日吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司和子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

## 七月

四日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

五日 金曜日 午前、御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名の賜謁があり、天皇と共に花蔭亭脇にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

拝謁の間において、近く任地へ赴く大韓民国駐劄特命全権大使金山政英の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

内謁見所にお出ましになり、英照皇太后と照憲皇太后の各御肖像を侍従徳川義寛の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌

米国ニューヨーク市において故本邦駐節マダガスカル国特命全権大使ルイ・ラコトマラ去る一日死去の葬儀  
執行につき、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。また、国際連合日本政府代表部大使安倍勲  
を通じ、天皇・皇后より同大使夫人に弔意を伝達される。○外交慶弔録、賜与録、外交贈答録

六日 土曜日 午後、吹上御所に久邇邦昭及び同夫人正子参殿につき、拝謁をお受けになる。兩名よ  
りチリ国より帰国の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

八日 月曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十三分御出門、午後一時二十七分同  
邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

九日 火曜日 午前、天皇と共に移植地より附属邸の植物をお調べになる。以後、御用邸御滞在中、

好天の日は天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺をしばしば御散策になり、植物を調査される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

十三日 土曜日 午前、天皇と共に植物御調査に御出発の際、御用邸御車寄前において那須町長笹沼  
賢弥・同町議会議長平山力男に御会釈を賜う。また、正門内において那須町議会議員のお見送りをお  
受けになる。以後、那須御用邸御滞在中、折に触れて栃木県関係者等に御会釈がある。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録

十九日 金曜日 夜、侍従次長入江相政より、御絵についての前田青邨の意見をお聞きになる。以後、  
折に触れて入江侍従を前田の許に差し遣わされ、御絵について講評をお聞きになる。○女官日誌、侍従日  
誌、那須行幸啓録、入江相政日記

昭和四十三年七月

二十三日 火曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日外出をお控えになる。○女官長日記、女官日誌

二十五日 木曜日 午後、謁見所において、任地より帰国の前ケニア国駐劔特命全権大使卜部敏男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、典式録、

宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午後、謁見所において、近く任地へ赴くコロンビア国駐劔特命全権大使深井竜雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、典式録、

那須行幸啓録、宮殿行事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 一時御帰京のため、午前九時二十五分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、

幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、拝謁の間において、近く任地へ赴くケニア国駐劔特命全権大使安藤竜一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、今般離任のメキシコ国特命全権大使フランシスコ・A・デ・イカサ及び同夫人を御引見になる。ついで同所において、今般離任のマレーシア国特命全権大使ザイトン・イブラヒム・ビン・アーマッド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

アサガオの栽培家尾崎哲之助の賜謁があり、天皇と共に内廷庁舎廊下にお出ましになる。例年、尾崎よりアサガオの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、祭典録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

## 八月

四日 日曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十三分御出門、午後一時二十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

七日 水曜日 元学習院教授佐野正造去る四日死去につき、天皇・皇后より祭糝料を賜う。また霊前に皇后より果物を賜う。同人は明治三十九年学習院助教授を拝命、学習院女学部小学科在籍中の皇后の指導に奉仕した。大正十年学習院教授となり、昭和十三年退官する。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、那須行幸啓録、宮内庁庁報、女子学習院五十年史

十二日 月曜日 午後、天皇と共に謁見所において、内閣総理大臣佐藤栄作及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、佐藤栄作日記

十四日 水曜日 一時御帰京のため、午前九時二十五分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に謁見の間において、外務省賓客として来日中のアイルランド国首相ジョン・リンチ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、宮

昭和四十三年八月

内庁序報

**十五日** 木曜日 午前十一時四十九分天皇と共に御出門、日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十四分還啓される。なお、追悼式を行う厚生省に対し、天皇・皇后より生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁序報、官報

**十六日** 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前十時三十三分御出門、午後一時二十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

**十九日** 月曜日 午前、天皇と共に参殿者休所にお出ましになり、参集の宮内記者会会員に御会釈を賜う。記者会幹事伊藤一男<sup>読完新聞</sup>より挨拶をお受けになり、各記者の自己紹介の後、各記者からの質問にお答えになる。御用邸御滞在中の過ごされ方、来る三十一日よりの北海道行幸啓、新宮殿内部の装飾絵画、サイケ調の流行についての質問にお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、天皇記者会見、那須行幸啓録、昭和天皇と私達

午後、天皇と共に御用邸御車寄においてこの日参邸の国立科学博物館主任研究官黒川道・同館文部技官井上浩に御会釈を賜う。それより兩名を伴われ、西岩崎において植物御調査を行われる。翌二十日、翌々二十一日も調査を行われる。

夜、天皇と共に謁見所にお出ましになり、黒川・井上兩名より植物学について座談会形式の進講を聴取される。翌二十日にも座談会形式の進講に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那

須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十四日 土曜日 午後、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになり、栃木県知事横川信夫の拝謁をお受けになる。ついで亭前において知事持参のキジを、那須に滞在中の東久邇真彦・同優子と御一緒に放たれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

二十八日 水曜日 午前九時二十五分天皇と共に那須御用邸を御出門、午後零時十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

拝謁の間において、近く任地へ赴くメキシコ国駐劄特命全権大使関守三郎及び同夫人、セイロン国駐劄特命全権大使山本良雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昨日英国王族故ケント公妃マリナ 英国女王エリザベス二世の義理の叔母 薨去につき、天皇・皇后より同国女王に弔電を發せられる。三十日御答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十九日 木曜日 この日ノルウェー国皇太子ハラルド結婚につき、お祝いとして天皇・皇后より色絵鶉文大皿 加藤土師萌作 を御贈進になる。後日、同国皇太子・同妃よりお礼の書簡 九月付 が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

三十日 金曜日 夕刻、謁見の間において、新任のメキシコ国特命全権大使フリアン・ロドリゲス・アダメを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十一日 土曜日 北海道百年記念祝典への御臨場と道内事情の御視察のため、天皇と共に北海道に

昭和四十三年九月

行啓される。午後零時十七分御出門、東京国際空港よりお召し機に搭乗され、千歳空港に御着陸、三時五分千歳市の王子製紙株式会社支笏湖王子クラブ<sup>御泊所</sup>に御到着になる。四時、天皇と共に御泊所を御出発、モーラツプ山麓の昭和三十六年植樹行事及び国土緑化大会の植栽地に到着され、お手植えのアカエゾマツの生育状況と参加者一同の植樹場所を御覧になる。同四十八分、御泊所にお戻りになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

## 九月

一日 日曜日 関東大震災の日につき、午前、御泊所においてお慎みになり、支笏湖の景色の御写生等をしてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

午後一時五十分天皇と共に御泊所王子製紙株式会社支笏湖王子クラブを御出発、千歳駅を御発車、札幌駅にて御降車になり、社会福祉法人札幌養老院を視察される。四時三十分、御泊所の札幌パークホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、

北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

二日 月曜日 午前十時天皇と共に御泊所札幌パークホテルを御出発、北海道庁を御訪問になり、「北海道百年の歩み」の展示を御覧になる。また、屋上より札幌オリリンピック冬季大会の施設地並びに市内を展望される。次にサッポロビール株式会社札幌第二工場を御視察になる。御昼餐のため一旦御泊所にお帰りの後、天皇と共に北海道神宮に臨まれ、天皇に続き、御拝座において御拝礼になる。また、

天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。続いて円山総合運動場陸上競技場に御臨場、北海道百年記念祝典及び各種演技を御覧になる。午後四時四十分、御泊所札幌パークホテルにお戻りになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

**三日** 火曜日 午前十時五分天皇と共に御泊所札幌パークホテルを御出発になり、札幌駅を御発車、午後零時四十二分旭川駅にて御降車、旭川市常磐公園において開催の北海道百年自治体消防制度二十年記念消防大会に御臨席になる。その後、北海道護国神社にお立ち寄りになり、天皇と共に外拝殿手前において御拝礼になる。それより旭川工業高等専門学校を御視察になる。終わって旭川駅を御発車、上川駅にて御降車になり、午後四時、御泊所ホテル層雲に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書、北海道庁所蔵資料、東旭川消防のあゆみ

**四日** 水曜日 終日御休養に充てられる。午前十時二十分天皇と共に御泊所ホテル層雲を御出発、大函付近にお出かけになり、シダ類などを御覧になる。ついで白楊平に向かわれ、周囲を御展望になり、植物を観察される。大雪観光開発株式会社高原温泉ホテルにおいて御昼食後、大雪高原地帯を御散策になる。午後四時、御泊所ホテル層雲にお帰りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

**五日** 木曜日 午前九時十分天皇と共に御泊所ホテル層雲を御出発、上川駅を御発車、午後三時十二分豊富駅にて御降車になり、天北西部地区国営草地改良事業地を御視察になる。ついで豊富町立芦川

昭和四十三年九月

小学校において御少憩の後、稚内漁業協同組合冷凍食品工場を御視察になる。それより稚内公園展望所をお訪ねになり、樺太島民の慰霊碑氷雪の門、九人の乙女慰霊碑に黙礼され、稚内市の全景を御眺望になる。五時五

十分、御泊所かんの旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸

啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書、日刊宗谷、稚内百年史

六日 金曜日 午前九時十七分天皇と共に御泊所かんの旅館を御出発になり、稚内駅を御発車、札幌駅にて御降車、午後五時四十六分、御泊所の札幌パークホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舎人供奉日誌、北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

七日 土曜日 午前九時四十五分天皇と共に御泊所札幌パークホテルを御出発、農林省北海道農業試

験場を御視察になる。終わって千歳空港に向かわれ、お召し機に御搭乗、東京国際空港に御到着の後、

午後一時五十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、

北海道行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、北海道行幸啓誌、行幸啓御日程次第書

八日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、翌九日に誕生日を迎える故雍仁親王妃勢津子と

御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

この日、長福寺において久邇倪子御母十三回忌法要執行につき、霊前に菓子をお供えになる。○女官長日記、

贈賜録

九日 月曜日 久邇倪子祥月命日につき、終日、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、典式録

十日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間において、公賓として来日中のメキシコ国外務大臣アント

ニオ・カリーリヨ・フローレス及び同夫人を御引見になる。その際、同外務大臣を通じて、同国大統領グスタボ・ディアス・オルダス及び同夫人より天皇・皇后に銀製飾鉢が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

拝謁の間において、新任の式部官長島重信・掌典長永積寅彦、退任の式部官長原田健・掌典長徳大寺実厚の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、賜与録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前十時御出門、再興第五十三回日本美術院展覧会を御覧になるため、東京都美術館に行啓される。御着後、前田青邨の先導・説明により、第一室から第十二室まで絵画約三百点を御覧になる。十一時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、拝謁の間において、新任の皇宮警察本部長長谷川俊之、及び前任の皇宮警察本部長門司良弼の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

来る十月十二日よりメキシコ国メキシコシティにおいて開催される第十九回オリンピック競技大会に日本代表選手団が参加するに当たり、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前十時三分御出門、天皇と共に日本放送協会<sup>NH</sup>放送センター<sup>K</sup>に行啓され、各スタ

ジオや諸設備を御巡覧になる。午後零時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、ネットワークNHK

午後、奥一の間において、今般来日のエスター・ビドル・ローズ<sup>元進講</sup>を御引見になる。○女官長日記、女

昭和四十三年九月

官日誌、贈賜録

十九日 木曜日 午前、拝謁の間において、今般宮内庁御用掛を委嘱された加藤吉弥フランス語通訳奉仕者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十日 金曜日 午前十時二十八分御出門、天皇と共に科学警察研究所に行啓され、所内を御視察になる。十一時三十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、第二十回保健文化賞受賞者の賜謁があり、天皇と共に内廷西玄関前にお出ましになる。厚生大臣園田直より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 来る十月一日より皇居東側地区が皇居東御苑として一般公開されるのに先立ち、午前、天皇と共に本丸地区及び二の丸庭園を御散策になり、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、皇居造営月報

二十三日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のエクアドル国特命全権大使フェデリコ・アルタ・リベラを御引見になる。ついで天皇と共に表一の間において、エクアドル国大使、及び今般離任のブラジル国特命全権大使アルヴァロ・テイシエイラ・ソアレス並びに同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈

答録、宮内庁庁報

天皇と共に新宮殿にお出ましになり、絨毯敷きが完了した表御座所・同附属棟・正殿等を臨時皇居造営部長高尾亮一の説明にて御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇居造営月報

二十六日 木曜日 午前九時四十分御出門、天皇と共に日本橋三越本店に行啓され、東京百年記念「市民三代のあゆみ展」を御覧になる。十一時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十七日 金曜日 台風十六号により甚大な被害を受けた沖縄の住民に、天皇・皇后より総理府総務長官を通じてお見舞金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 来る十月一日より昭和四十三年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

三十日 月曜日 福井県下において開催の第二十三回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に福井県・兵庫県・京都府に行啓される。午前十一時二十分御出門になり、東京駅を御発車、福井県の金津駅にて御降車、午後五時五分御泊所開花亭に御到着になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

## 十月

一日 火曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所開花亭を御出発、福井県庁を訪問され、物産品を御覧になる。御昼食の後、県庁を御出発、福井運動公園陸上競技場に御到着、第二十三回国民体育大会

昭和四十三年十月

秋季大会開会式に御臨席になる。午後三時五十分御泊所の神明旅館に御到着になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、京都市幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

二日 水曜日 午前九時五十分天皇と共に御泊所神明旅館を御出発、福井県立病院、福井県農業試験場を順次御視察になる。ついで永平寺町立志比小学校にお立ち寄りになり、御少憩の後、松文産業株式会社を御訪問になる。御昼食後、各工場や製品展示室を御視察になる。それより社会福祉法人大野和光園、社会福祉法人恩賜財団福井県済生会聖和園をそれぞれ御視察になる。終わって越前大野駅を御発車、福井駅にて御降車、午後三時五十八分御泊所の神明旅館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、京都市幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

三日 木曜日 午前九時三十五分天皇と共に御泊所神明旅館を御出発、福井市体育館において国体バスケットボール競技を御覧になる。それより福井ビニール工業株式会社、労災リハビリテーション福井作業所を順次御視察になる。ついで田辺メリヤス株式会社を御訪問になり、御昼食後、各工場を御覧になる。終わって武生市宮庭球場に御到着、国体軟式庭球競技を御覧になる。その後、武生駅を御発車、敦賀駅にて御降車になり、敦賀市宮野球場を御訪問になり、国体軟式野球競技を御覧になる。午後三時五十二分御泊所の敦賀観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、京都市幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

四日 金曜日 午前九時二十四分天皇と共に御泊所敦賀観光ホテルを御出発、気比神宮に御到着になる。天皇に続き、祝詞殿において御拝礼になる。それより敦賀駅を御発車、上中駅にて御降車になり、上中町農業協同組合カントリーエレベーターを御視察になる。次に福井県立若狭高等学校体育館を御

訪問、国体ボクシング競技を御覧になる。午後零時九分、御泊所の青浜館に御到着になる。雨天のため、小浜湾内の蒼島の御散策はお取りやめとなり、常侍官候所において、蒼島の説明予定者の武生市立武生第二中学校校長寒蟬義一より、同島の植物についての進講をお聴きになる。終わって、御泊所前より眺む蒼島などの海の景色を写生される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、京都行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

五日 土曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所青浜館を御出発、高浜町立高浜小学校グラウンドにおいて国体ハンドボール競技を御覧になる。それより若狭高浜駅を御発車、兵庫県に入られる。豊岡駅にて御降車になり、午後二時十六分兵庫県立但馬文教府に御到着、同所及び隣接の県立豊岡生活科学センターを御視察になる。その後、このとりケージ、玄武洞を順次御訪問になる。終わって円山川の船着場前広場に移られ、優良但馬牛の田安土井号等を御覧になる。次にお召し船に御搭乘になり、対岸の船着場まで円山川をお渡りになる。午後四時五十八分、城崎町の御泊所ゆとや旅館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、京都行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

六日 日曜日 午前九時二十一分天皇と共に御泊所ゆとや旅館を御出発、豊岡市の日和山展望所をお訪ねになり、日和山海岸等を御展望になる。それより自動車にて竹野駅に向かわれ、竹野駅より御乗車、竹田駅にて御降車になり、北兵庫整形外科センター及び兵庫県立北兵庫のじぎく園センターに併設の  
身体障害児児童施設を御視察になる。終わって竹田駅を御発車、京都府に入られ、二条駅にて御降車、午後三時十三分御泊所の京都大宮御所に御到着になる。ついで、天皇と共に拝謁の間において渋谷有教法主仏光寺  
法主の拝謁をお受けになった後、内庭にお出ましになり、お出迎えの京都在住旧堂上、門跡等に御会釈を賜う。夕刻、

仙洞御所内を御散策になる。その後、大谷光暢及び同夫人智子参殿につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、京都行幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

七日 月曜日 御泊所御出發に先立ち、天皇と共に御車寄において、大谷光暢及び同夫人智子と御対面になり、ついで平安神宮宮司小松輝久、九条成子の拝謁をお受けになり、御門内に整列の門跡・尼門跡・旧堂上その他に御会釈を賜う。午前九時五十三分天皇と共に京都大宮御所を御出發になる。この年明治百年につき、還幸啓前、特に明治天皇陵及び昭憲皇太后陵にそれぞれ天皇に続き御参拝になる。また、幣物・神饌・榊を各御陵にお供えになる。終わって京都駅を御發車、東京駅にて御降車、午後三時四十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、京都行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、官報

八日 火曜日 午後、最高裁判所関係功労者として藍綬褒章を受章した調停委員等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。東京地方裁判所調停委員稲垣順造より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午後、拝謁の間において、近く任地へ赴くベトナム共和国駐劄特命全權大使北原秀雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報

夕刻、謁見の間において、今般新任の中央アフリカ国特命全權大使クレマン・セヴォ及び同夫人、シंगाポール国特命全權大使アン・コック・ペン及び同夫人、ナイジェリア国特命全權大使ジョージ・ダヴ・エドウィン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、典式録、宮内庁庁報

録、宮内庁庁報

十日 木曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、東久邇聡子の拝謁をお受けになり、病気中のお仕向けについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十一日 金曜日 午前十時二十三分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、戦傷病者特別援護法制定記念式典に御臨席になる。十時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に拝謁の間において、シンガポール国駐劄特命全權大使吉田健一郎より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、入江相政日記

十二日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、今般退職の元式部官長原田健・元掌典長徳大寺実厚の拝謁をお受けになる。兩名にそれぞれ賜品がある。ついで兩名と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 月曜日 午前九時五十八分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓され、東洋館開館を記念して開催中の東洋美術展を御覧になる。十一時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京国立博物館百年史

午後、拝謁の間において、東伏見慈洽<sup>邦彦王第三王子、御弟</sup>・同夫人保子、及びこの度結婚した同子息<sup>第一男子</sup>・同夫人と御対面になる。なお、韶俣の結婚に当たり、天皇・皇后よりお悦びとして、韶俣に万那材料及び

昭和四十三年十月

お品を、同夫人にお品をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十五日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に謁見の間において、国賓として来日中のシンガポール国首相リー・クアン・ユー及び同夫人を御引見になる。引き続き、天皇と共に北の間において、宮中午餐を催される。この度の来日に際し、天皇・皇后より同国首相夫妻に御紋付銀製花瓶等を、皇后より首相夫人に『桃苑画集』を御贈進になる。また、同国首相夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には水彩画 *FUJIYAMA*<sup>SEAH KIM</sup><sub>100</sub> 作 が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮を御遙拝になる。ついで賢所において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、祭典録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のイラン国特命全権大使ヌーレッディン・キア及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に表一の間において、イラン国大使夫妻、今般離任のベルギー国特命全権大使アルベール・ユツパール及び同夫人、ポーランド国特命全権大使ヴラディスラフ・ドマガラ、新任のナイジェリア国特命全権大使ジョージ・ダヴ・エドウィン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

靖国神社霊璽奉安祭に各都道府県及び沖縄の代表として参列した遺族の賜謁があり、天皇と共に辰巳の庭にお出ましになる。靖国神社権宮司池田良八より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、靖国神社社務日誌

十九日 土曜日 博義王三十年式年祭につき、午前のお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、典式録

二十日 日曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 午後、黄綬褒章又は藍綬褒章を受章した厚生省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。厚生大臣園田直より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に吹上御所において、今般オーストラリア国への旅行に出発する池田隆政・同夫人厚子より挨拶をお受けになり、御昼餐を御会食になる。なお、天皇・皇后より池田夫妻にお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、桃華楽堂にお出ましになり、重要無形文化財保持者による邦楽・邦舞の会に臨まれる。途中御少憩を挟み、浄瑠璃の四世宮蘭千之ほか三名による宮蘭節「蘭生の春」、四世井上八千代ほか四名による京舞「おちや乳人」、花柳寿応及び浄瑠璃の五世清元志寿太夫ほか五名による舞踊「北州千歳寿」を御鑑賞になる。皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子、及び元皇族・御縁故者等が陪席する。終わって、御休所にて重要無形文化財保持者四名の拝謁をお受けになる。なお、出演者にそれぞれ賜品がある。

○女官長日記、女官日誌、桃華楽堂邦楽邦舞の会記録、邦楽演奏会、賜与録

二十三日 水曜日 午前十時二十六分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、内閣主催の明治百

昭和四十三年十月

年記念式典に御臨席になる。十一時二十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁序報、官報

二十六日 土曜日 この日より三十日まで渋谷西武百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十八日、三十日にも御出品になる。○女官長日記、重要雑録、読売新聞

二十七日 日曜日 常磐会恒例のバザー開催につき、同会に新宿御苑産の切り花キク二百五十本・バラ百八十本及び吹上御苑産のバラ二百一十本を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十九日 火曜日 午前十時六分御出門、天皇と共に多摩陵大正天皇陵及び多摩東陵真明皇后陵に行啓され、天皇に続き、各陵に御参拝になる。午後二時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁序報

三十日 水曜日 午前、天皇と共に侍従次長室において、落成間近の新宮殿参観のため参内の梨本伊都子・朝香鳩彦・東久邇聡子・北白川房子・同慶子の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇と共に拝謁の間において、賀陽恒憲始め元皇族・御親族等十六名の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、皇居造営月報

三十一日 木曜日 午前、メキシコ国において開催された第十九回オリンピック競技大会日本代表六位以上入賞者及び選手団役員等の賜謁があり、天皇と共に西の間にお出ましになる。選手団団長大庭哲夫よりお礼言上をお受けになり、天皇に続き、労いのお言葉を賜う。引き続き北の間においてお茶の席を

設けられ、財団法人日本体育協会日本オリンピック委員会委員長竹田恒徳より、体操男子個人総合にて金メダルを獲得した加藤沢男ほか日本代表入賞者及び選手団役員等の紹介をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に拝謁の間において、新宮殿の参観を終えた正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、皇居造営月報

## 十一月

二日 土曜日 日本赤十字社有功章及び特別社員章の親授式に名誉総裁として御臨席のため、午前十時二十四分御出門、東京プリンスホテルに行啓される。日本赤十字社社長東竜太郎の先導にて御休所に入られ、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、厚生大臣園田直、東社長、副社長田辺繁雄、名誉社長島津忠承の拝謁をお受けになる。ついで式場に御臨場になり、社長挨拶、有功章及び特別社員章並びに章記を総代に御親授の後、次のお言葉を賜う。

本日、赤十字の事業に尽力し、功労のあつた皆さんに、親しく日本赤十字社有功章並びに特別社員章をお渡しできましたことを、大変うれしく思います。

日本赤十字社は、創立以来九十一年のながきにわたり、人道と博愛をもととして、多くの有益な事業を行なつて参りましたが、赤十字の任務は、今後ますます重要性を加えるものと思ひます。

昭和四十三年十一月

社員並びに役職員の皆さんは、今後とも力を合わせて赤十字の活動を推進し、国民の期待にこたえらるとともに、各国の赤十字社と相携えて、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう望んでやみません。

ついで社長の奉答、厚生大臣の祝辞があり、終わって御休所において米国赤十字社極東本部長T・P・ブルックス、同次長ジョセフ・P・カニグリア、同報道部長ロバート・C・ポール、米国赤十字社サバンバーナーデイノ支部国際活動委員長アベ・ヨネカズ及び以上の者の夫人のほか、日本赤十字社顧問の星島二郎・佐藤尚武・沢田節蔵に御会釈を賜い、写真撮影場において皇族を交えて記念写真の撮影に臨まれる。十一時三十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

三日 日曜日 午前、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会において特選児童、又は優良学校として選ばれた健康優良児童及び健康優良学校代表等の賜謁があり、天皇と共に吹上正門前にお出ましになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

四日 月曜日 午後、奥一の間において、新宮殿拝観のため参内の大谷光暢及び同夫人智子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

五日 火曜日 午前九時五十三分天皇と共に御出門、明治維新百年記念の大祭執行中の明治神宮に行啓される。天皇の御拝礼に続き、本殿前の御拝座において御拝礼になる。御参拝の節、幣帛料・神饌料をお供えになる。十一時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、神宮及神

社諸件、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

正午過ぎ、表二の間において、新任のイタリア国特命全権大使ユスト・ジュステイ・デル・ジャルデーノ及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に西の間において、イタリア国大使夫妻、今般離任のサウジアラビア国特命全権大使ナーセル・アル・マンクール及び同夫人、インドネシア国特命全権大使ルクミト・ヘンドラニングラット及び同夫人、新任の中央アフリカ国特命全権大使クレマシ・セヴォ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

拜謁の間において、近く任地へ赴くイラク国駐劄特命全権大使吉村又三郎及び同夫人、デンマーク国駐劄特命全権大使小川平四郎及び同夫人の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拜謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、天皇と共に、新宮殿を御覧にお出ましになる。御車寄より新宮殿内に入られ、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明により、表御座所・千草の間・千鳥の間・回廊・南溜・長和殿・北溜・豊明殿・連翠・正殿を御巡覧になる。御夕餐前、新宮殿の点灯状況を御覧になるため、天皇と共に再びお出ましになる。午前と同じく高尾部長の説明により、長和殿・連翠・正殿・月の間を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮殿造営記録、皇居造営月報、皇居新宮殿夕刻、天皇と共に吹上御所において、昨六日オーストラリア国旅行より帰国した池田隆政・同夫人厚子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

八日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時三分天皇と共に

に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

十四日 木曜日 午前、天皇及び皇太子・同妃と共に吹上御所を御出発、新宮殿東庭にお出ましになり、宮殿落成式に御臨席になる。終わって、吹上御所に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮殿落成関係諸行事書類、賜与録、宮内庁庁報、宮殿造営の記録、宮殿造営記録、皇居造営月報

午後、宮殿造営顧問の東京大学名誉教授内田祥三始め宮殿造営関係功績者の賜謁があり、天皇と共に表三の間にお出ましになる。天皇に続きお言葉を賜い、ついで内田顧問よりお礼言上をお受けになる。

この日、天皇・皇后より皇太子・同妃及び常陸宮・秩父宮・高松宮・三笠宮にそれぞれ万那料及び菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賜与録、典式録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午前、天皇と共に拝謁の間において、日本オリンピック委員会委員長竹田恒徳及び第十九回オリンピック競技大会日本代表選手団団長大庭哲夫より、今回のメキシコシティオリンピックづくに関する進講をお聴きになり、メダル、トーチ、アルバム等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十六日 土曜日 午後、拝謁の間において、新宮殿拝観のため参内した保科武子始め元女官、高松千歳子始め元皇太后宮女官など計十八名に御会釈を賜う。また、一同に『桃園画集』を賜う。○女官長日記、女官日誌、宮殿落成関係諸行事書類

十八日 月曜日 午前、吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、徳川誠慶喜子息、宣仁親王妃父慶久の弟死去後の忌明けにつき挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十日 水曜日 午後、黄綬褒章・藍綬褒章を受章した文部省関係功労者等の賜謁があり、天皇と共に北の間にお出ましになる。藍綬褒章受章者篠田薫より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

午後二時御出門、光輪閣に行啓される。正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、東久邇聡子、梨本伊都子、伏見朝子、賀陽敏子、竹田光子、井上静子井上佐賀錦研  
究所設立者の拝謁をお受けになる。ついで井上の説明にて、佐賀錦の作品を御巡覧になる。その後、

皇太子妃到着につき、御団欒になり、四時三十五分御発、還啓される。その後、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午後、吹上御所において前田青邨の拝謁をお受けになり、今秋の展覧会に出陳の御作品を御披露になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十二日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くハンガリー国駐箚特命全権大使下部敏男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に表三の間において、前侍従長三谷隆信以下松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

侍従次長室において、『桃源画集』拝領のお礼言上のため参内した岩倉桜子元宮内省御用掛、  
故岩倉具張夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

徳川慶喜没後五十五周年に当たり顕彰祭執行につき、宣仁親王妃喜久子にお尋ねとして切り花を御贈進になる。○贈賜録

二十四日 日曜日 この日より二十六日までの三日間、新宮殿一般公開につき、午前、天皇と共に仮宮殿にお出ましになり、南の間及び表御休所から参観者の様子を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 水曜日 天皇と共に表一の間において、スウェーデン国経済使節団名誉団長として来日した同国王子ベティルをお招きになり、宮中午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

文部大臣より表彰された教育功労者等の賜謁があり、天皇と共に内廷西玄関前にお出ましになる。被表彰者永田政喜より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十八日 木曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

吹上御所において、島津貴子・同子息禎久と御対面になる。去る九月西町インターナショナル・スクールに入学した禎久に、天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子妃、及びこの日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

十二月

二日 月曜日 午前、拝謁の間において、堂上会総代唐橋在知の拝謁をお受けになる。ついで新任の侍従井関英男、及び前任の侍従諏訪部信の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、賜与録、贈賜録

謁見の間において、新任のアラブ連合共和国特命全権大使マハムード・ハサン・エル・アルーシー、オランダ国特命全権大使ヨハン・クイライン・バス・バツケル及び同夫人、マレーシア国特命全権大使フセイン・モハメッド・オスマン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 火曜日 元宮内庁長官田島道治昨日死去につき、この日、天皇・皇后より賜物使及び柩前使として侍従松平潔を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭糝料・生花目録を賜い、柩前において拝礼させられる。また、天皇・皇后より菓子・切り花を賜う。翌四日、天皇・皇后より生花を柩前にお供えになる。五日に行われる葬儀には、天皇・皇后より葬場使として侍従徳川義寛を青山斎場に差し遣わされ、拝礼させられる。なお、同人の病氣療養中に際して、皇后よりお尋ねとして寄せ植え・スープを賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、賜与録、宮内庁庁報

四日 水曜日 御風気のため、終日、吹上御所においてお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌  
翌五日より宮内庁職員文化祭覧会開催につき、この日午後、今般完成のヤツガシラの絵巻ほかをお下げ渡しになる。○女官日誌、読売新聞、毎日新聞

五日 木曜日 御風気のため、終日、吹上御所において御仮床に就かれる。午後、正仁親王のお見舞

いをお受けになる。以後、吹上御所において八日まで御仮床にあり、十四日まで御静養になる。○女官

日誌、内舎人日誌

六日 金曜日 皇太子妃内着帯の儀につき、天皇・皇后より皇太子・同妃にそれぞれ五種交魚代料を、

皇后より帯を賜う。○女官長日記、女官日誌、紀宮殿下御誕生録、朝日新聞、読売新聞

七日 土曜日 この日、本邦駐在外国大使の離任時における扱いが改正され、従来行われていた、離

任に際して天皇・皇后が催される午餐へのお招きはお取りやめになり、今後は謁見のみが行われることとなる。本件は、翌昭和四十四年一月一日以降に離任する外国大使より適用される。○例規録

九日 月曜日 午前、吹上御所において、宮内庁職員文化祭展覧会に出品された皇族方の絵画などを御覧になる。○女官日誌

十一日 水曜日 来る二十三日より二十七日までの間、東京都民の厚生福祉を図るため都下の社会事業団体等の協力を得て歳末無料健康相談を実施する東京都に、金一封を賜う。○賜与録 宮内庁庁報

十二日 木曜日 この日、向陽会に対する古技保存御奨励のための恒例賜金をこの年より増額することが決定し、この月中に賜金が伝達される。○例規録、賜与録

十五日 日曜日 午後、西の間において、天皇及び皇太子以下の皇族始め明治会明治天皇の曾孫までで学齢以上の者の会、会員とのお茶の席に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官今城誼子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 正午過ぎ、表二の間において、新任のメキシコ国特命全権大使フリアン・ロドリゲス・アダメ及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に西の間において、メキシコ国大使夫妻、今般離任のニュージールランド国特命全権大使ジョン・ヴィヴィアン・スコット及び同夫人・息女、新任のシンガポール国特命全権大使アン・コック・ペン及び同夫人、オランダ国特命全権大使ヨハン・クイライン・バス・バツケル及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 財団法人結核予防会に、事業御奨励金を下賜される。また、日本赤十字社に、天皇・皇后より事業御奨励金を、また医療並びに児童福祉事業のため補助金をそれぞれ賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十日 金曜日 午前、拝謁の間において、近く任地へ赴くインドネシア国駐節特命全権大使八木正男及び同夫人、クウェート国駐節特命全権大使高瀬直智及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正午過ぎ、表二の間において、新任のフィンランド国特命全権大使オーケ・ルドルフ・ヴィヒトル及び同夫人、ラオス国特命全権大使チャウ・ニット・ノカムを順次御引見になる。ついで天皇と共に西の間において、フィンランド国大使夫妻、ラオス国大使、今般離任のペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・フェレイロス・バルタ、新任のマレーシア国特命全権大使フゼイン・モハメッド・オスマン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十一日 土曜日 日本赤十字社病院及び社会福祉法人恩賜財団済生会病院の各救助収容患者合計一万一千四十五名に、手拭い一筋ずつを賜う。○侍従職日誌、贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に拝謁の間において、皇太子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代、及び女官・元女官の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午前、天皇と共に謁見の間前の廊下において、新宮殿の模型を御覧になる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に表一の間において、菊栄親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等を御招待になり、午餐の御陪食を賜う。ついで表三の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭憲皇太后基金増額のため特別寄付金を募集中の日本赤十字社に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報、日本赤十字社社史稿

二十五日 水曜日 大正天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に新宮殿にお出ましになり、臨時皇居造営部長高尾亮一の説明により、主に新宮殿内の調度品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 日曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥一の間において、宮内庁長官始め総代より祝詞

言上をお受けになる。引き続き、正仁親王・同妃華子始め皇族・元皇族等、ついで女官より祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三十日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と御対面になり、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。午後、天皇と共に吹上御所において、鷹司和子と御対面になり、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、

宮内庁序報

この月 今般進講奉仕を終了した山口玉系に、お品を賜う。○贈賜録